

第6章 出土遺物

第1節 出土遺物の概要

本調査で出土し、慶応大学資料として管理されてきた人工遺物の総数は計約5,700点（自然遺物を除く）、コンテナ数80箱であり、ほぼ縄文土器で占められる。しかし、調査日誌には、古墳時代や中世の遺物も出土したことが記載されていることから、当該調査では基本的には縄文土器だけが選別されて持ち帰られた可能性が高い。

縄文時代早期から後期までの幅広い時期の土器が出土しており、早期末から前期の轟式土器や曾畑式土器、後期の鐘崎式土器や北久根山式土器、市来式土器などがあるが、曾畑式土器の出土量はその他の型式の土器にくらべ突出している。これらについては、器面調整や施文技法、文様などにより本章第2節のとおり分類した。

また、土器以外では、石器や貝製品が出土している。石器は石鏃、石匙、削器、磨製石斧などで、貝製品は二枚貝の貝類遺体を利用した貝輪である。

これら出土遺物については、調査地点によって堆積土の様相や貝層の形成時期などが異なることから以下の地点に分けて報告する。

- ・ Aトレンチ1区（Aトレンチ1区とBトレンチ1区との連結部含む）
- ・ Aトレンチ2～5区
- ・ Aトレンチ6・7区
- ・ Bトレンチ1～3区
- ・ Cトレンチ

なお、出土品のなかには、出土したトレンチは判明するが層位が不明な土器、出土地点そのものが不明な土器などがある。そのなかには残存状況が良好なものも含まれているため、これについてもあわせて記述する。

第2節 土器・土製品

（1）出土土器の分類（第22・23図）

出土した縄文土器は大きくⅠ～Ⅵ類に分類され、さらに細分を行った。以下では分類した土器群について概観し、さらに細かな特徴については後述する出土層位ごとに掲載した個々の土器について具体的に詳述することにした。

Ⅰ類 押型文土器群

Ⅰa類：原体の円周に鋸歯状の三角波状文を彫刻し、山形押型文を施文。

Ⅰb類：交差する格子目状の刻みを施した原体を回転施文した格子目押型文を施文。

Ⅱ類 轟式土器群

深鉢形を呈し、地文にハイガイなどのフネガイ科の貝殻腹縁を用いた貝殻条痕を施すものや、その系譜上に位置づけられる土器群。これらは施文技法や文様などからⅡa～Ⅱd類に分けられ、Ⅱb類はさらに細分できる。

Ⅱ a 類：内外の器壁に強い条痕を施す。胎土にやや大きめの砂粒が混じり、他のⅡ類の土器にくらべてやや器壁が厚い。轟A式に相当する。

Ⅱ b 類：器外面に隆起文帯が施されるもの。隆起文帯の太さや施文技法より細分が可能である。轟B式に相当する。

Ⅱ b 1 類：縦位の微隆起帯文を器外面全体に多数貼り付ける。

Ⅱ b 2 類：横位の隆起帯文を成形し、数条貼り付ける。

Ⅱ b 3 類：口縁部を中心に縦位や横位、曲線状の太い隆起帯文を数条貼り付ける。

Ⅱ c 類：地文の浅い貝殻条痕が残り、2本単位のヘラ状工具で蛇行する直線を斜位や横位に施文するもの。轟C式に相当する。

Ⅱ d 類：口縁部外面に横位の沈線が施され、地文の浅い条痕が残る。轟D式に該当する。

Ⅲ類 曾畑式土器群

丸底を呈し、外面全面及び口縁部内面に沈線文や刺突列点文、押引文などを幾何学的に組み合わせ、文様帯を形成する土器群で、曾畑式土器に相当。器種は深鉢を主体とする。ここでは、口縁部の特徴と文様帯の規則性を考慮してⅢ a～Ⅲ d 類に分類した。また、曾畑貝塚低湿地遺跡出土曾畑式土器も考慮したうえで、口縁部外面の文様や文様帯の有無などから細分した。

Ⅲ a 類：口縁部が直口ないし外側にやや傾くもの。

Ⅲ a 1 類：刺突文のみで文様帯を構成するもの。

Ⅲ a 2 類：横位の沈線文のみで文様帯を構成するもの。

Ⅲ a 3 類：刺突文と横位の沈線文を組み合わせで文様帯を構成するもの。

Ⅲ a 4 類：横位の沈線文と山形文などの文様を組み合わせで文様帯を構成するもの。

Ⅲ a 5 類：明確な文様帯が存在しないもの。

Ⅲ b 類：胴部から口縁部にかけて外開き状に広がり、そのままの傾きで口縁端部にいたるもの。口縁部そのものは外反しないもの。

Ⅲ b 1 類：刺突文のみで文様帯を構成するもの。

Ⅲ b 2 類：横位の沈線文のみで文様帯を構成するもの。

Ⅲ b 3 類：刺突文と横位の沈線文を組み合わせで文様帯を構成するもの。

Ⅲ b 4 類：横位の沈線文と山形文などの文様を組み合わせで文様帯を構成するもの。

Ⅲ b 5 類：明確な文様帯が存在しないもの。

Ⅲ c 類：口縁部がゆるやかに外反するもの。波状口縁のものもある。

Ⅲ c 1 類：刺突文のみで文様帯を構成するもの。

Ⅲ c 2 類：横位の沈線文のみで文様帯を構成するもの。

Ⅲ c 3 類：刺突文と横位の沈線文で文様帯を構成するもの。

Ⅲ c 4 類：横位の沈線文と山形文などの文様を組み合わせで文様帯を構成するもの。

Ⅲ c 5 類：明確な文様帯が存在しないもの。

Ⅲ d 類：口縁部がゆるやかに外反するとともに、口縁端部が「くの字」状に強く外反するもの。波状口縁のものもある。

Ⅲ d 1 類：刺突文のみで文様帯を構成するもの。

Ⅲ d 2 類：横位の沈線文のみで文様帯を構成するもの。

Ⅲ d 3 類：刺突文と横位の沈線文を組み合わせで文様帯を構成するもの。

Ⅲ d 4 類：横位の沈線文と山形文などの文様を組み合わせで文様帯を構成するもの。

Ⅲ d 5 類：明確な文様帯が存在しないもの。

なお、本土器群は出土した土器の大半を占めており、全体的な形状や文様構成などがわかる良好な資料が少なくないことから、これらを対象に第9章第2節で器形や文様の特徴などについて詳述する。

Ⅳ類 市来式土器群

口縁部が断面三角形に肥厚する土器群で、波状口縁のものが多い。本口縁部外面に短沈線や爪形文、貝殻文を施す。深鉢がほとんどで、口縁部は外反する。表面に貝殻条痕が残るものもある。

Ⅳ a 類：口縁部に粘土帯を貼り付けて肥厚させ、沈線文などの文様を施す。

Ⅳ b 類：粘土帯を貼り付けずに肥厚させ、沈線文や刺突文を施す。

Ⅴ類 磨消縄文土器群

器面に縄文を施した後、一部を磨り消して文様を表現する磨消縄文の土器群である。Ⅴ a 類とⅤ b 類に分類した。

Ⅴ a 類：口縁部が強く外反し、胴部から頸部を中心に左右対称に斜線や平行する沈線文を施文するとともに、沈線による渦巻文で胴部を飾る。文様帯は口縁部、頸部、胴部に区分される。器種には鉢や浅鉢、深鉢（口縁端部に刻目文などを施文）があり、鐘崎式土器に相当するものを含む。

Ⅴ b 類：器形は口縁部が外反し、胴部が丸く膨らみをもつ器形をなす。深鉢を主体とする。口縁部は肥厚し、その部分に短直線文などを施文する。北久根山式土器に相当するものを含む。

その他、無文土器など特に文様を施さない一群をⅥ類とする。

（2）Aトレンチ1区出土の縄文土器・土製品

①表土層及び攪乱層出土土器（第24図）

1・2はⅡ b 類の土器。1は外面に細かな粘土紐を縦位に貼り付けたⅡ b 1 類、2は横位の隆起帯文をもつⅡ b 2 類である。3～7はⅢ類の土器で3はⅢ b 1 類、4・5はⅢ b 5 類とみられる口縁部、6・7は胴部。3は口縁端部と口縁部内外面に刺突列点文を施す。6は綾杉沈線文、7は刺突列点文と横位の平行沈線文を施す。8はⅤ b 類の鉢で、9は深鉢の底部。10はⅣ類の台付皿か鉢の脚部であろう。

②第1貝層出土土器・土製品（第25図）

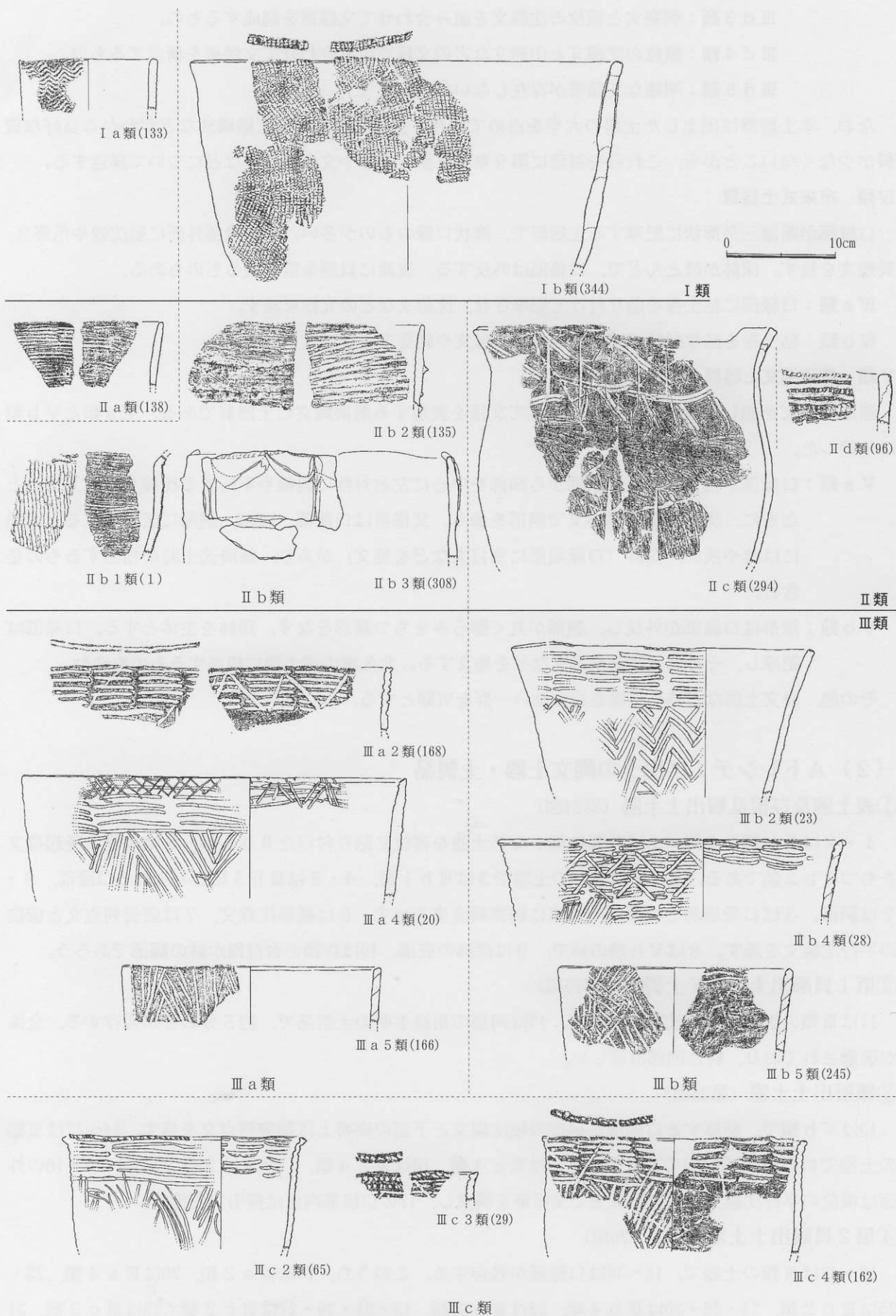
11はⅢ類の胴部で綾杉沈線文を施す。12は円形の用途不明の土製品で、約5分の2が残存する。全体が研磨されており、特に凹部は著しい。

③礫層出土土器（第26図）

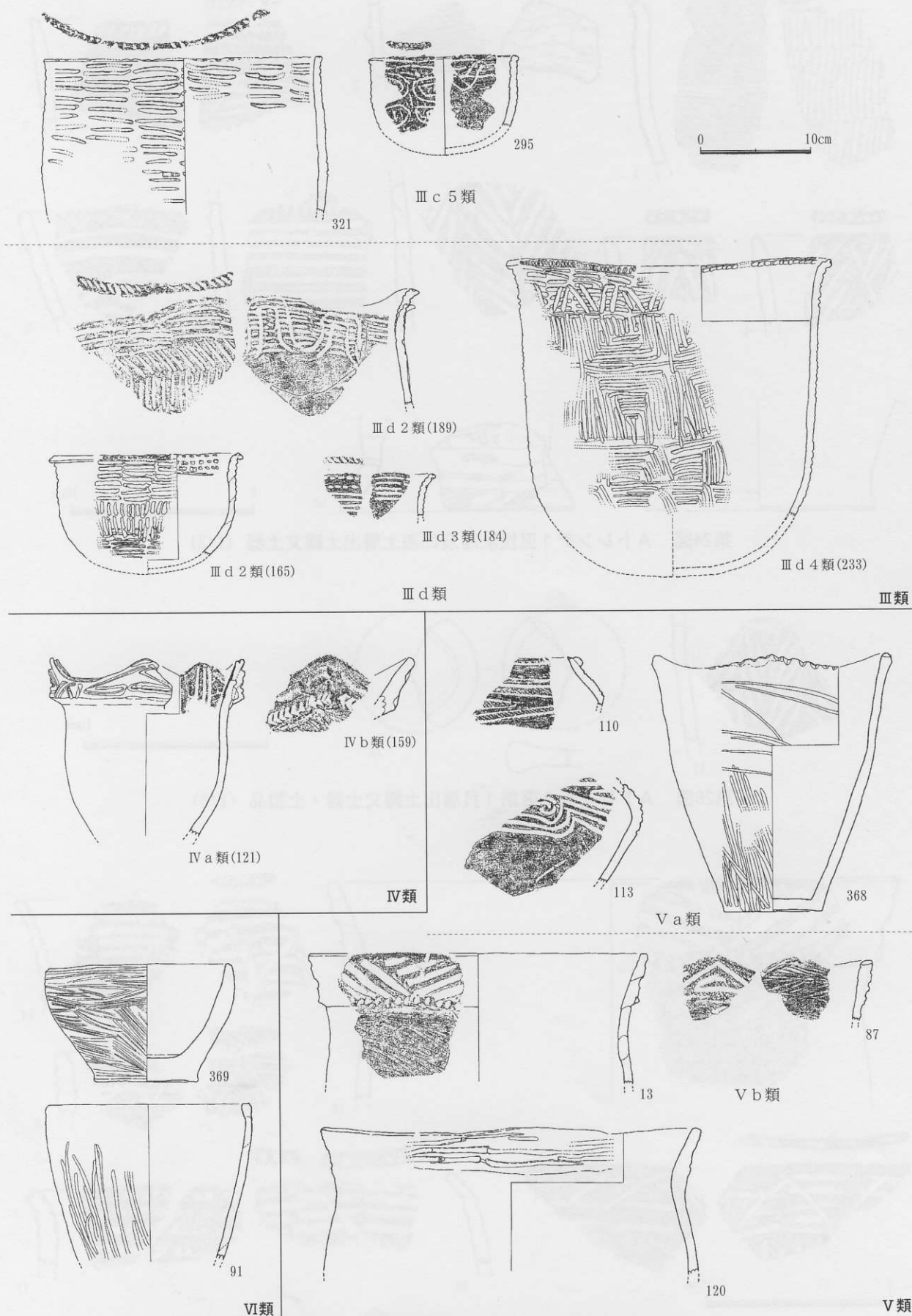
13はⅤ b 類で、肥厚する口縁部に斜位の短沈線文と下部の突帯上に刺突列点文を施す。14～17はⅢ類の土器で口縁部が残存しており、14・15はⅢ c 4 類、16はⅢ a 4 類、17はⅢ c 2 類である。14～16の外、面は横位の平行沈線文と山形沈線文で文様帯を構成し、17の口縁部内面は押引文を施す。

④第2貝層出土土器（第27～29図）

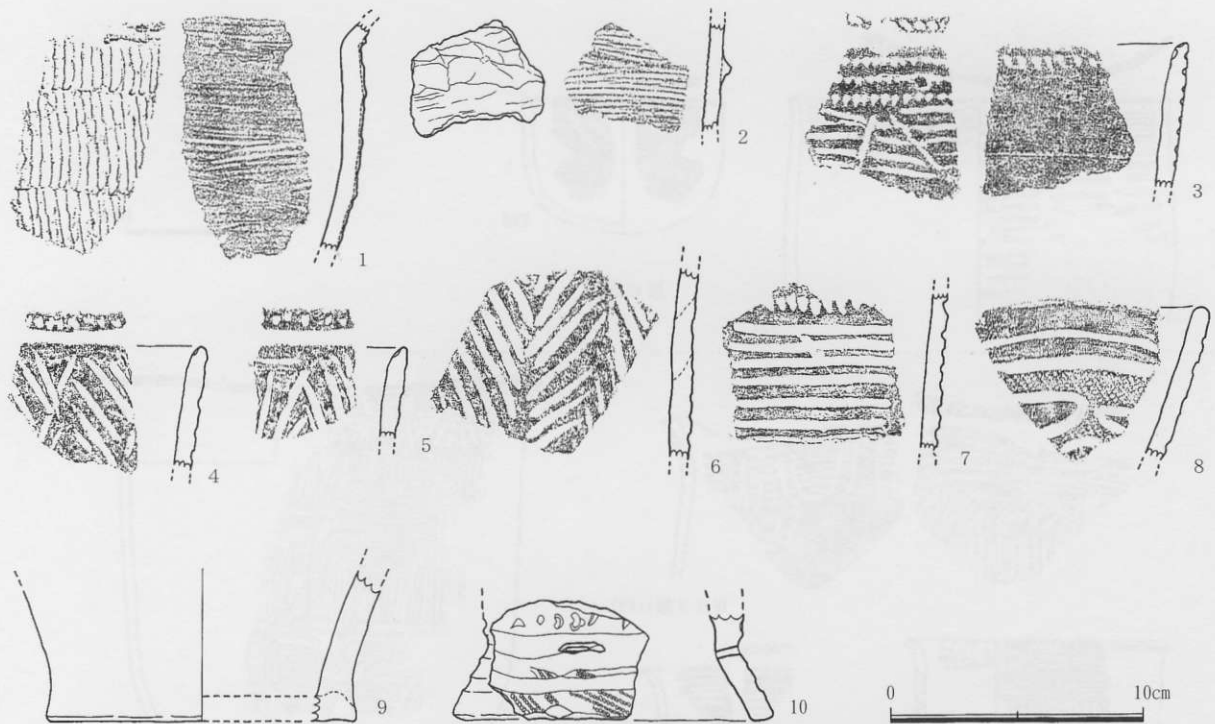
18～48はⅢ類の土器で、18～36は口縁部が残存する。このうち、18はⅢ a 2 類、20はⅢ a 4 類、23・25はⅢ b 2 類、24・28・30はⅢ b 4 類、22はⅢ b 2 類、19・21・26・27はⅢ c 2 類、29はⅢ c 3 類、31～33、35はⅢ c 4 類、34・36はⅢ d 4 類である。



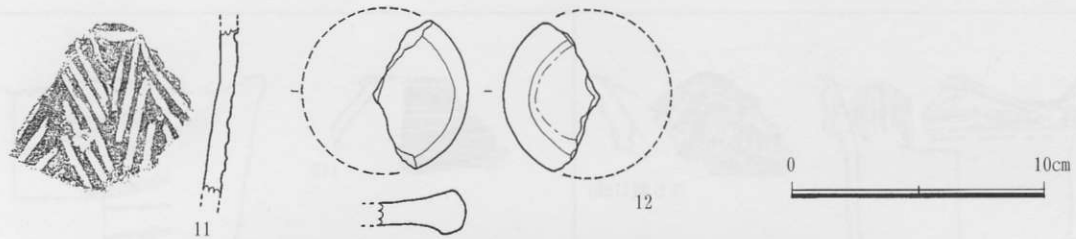
第22図 出土縄文土器分類図 1 (1/5, 数字は遺物番号を示す)



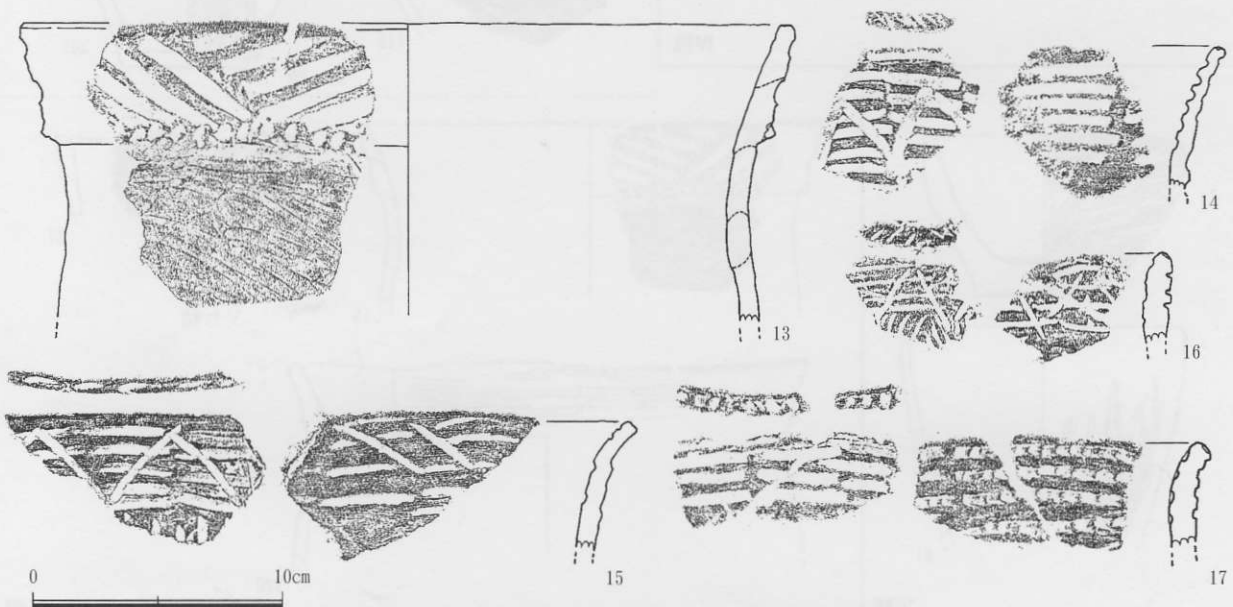
第23図 出土縄文土器分類図2 (1/5, 数字は遺物番号を示す)



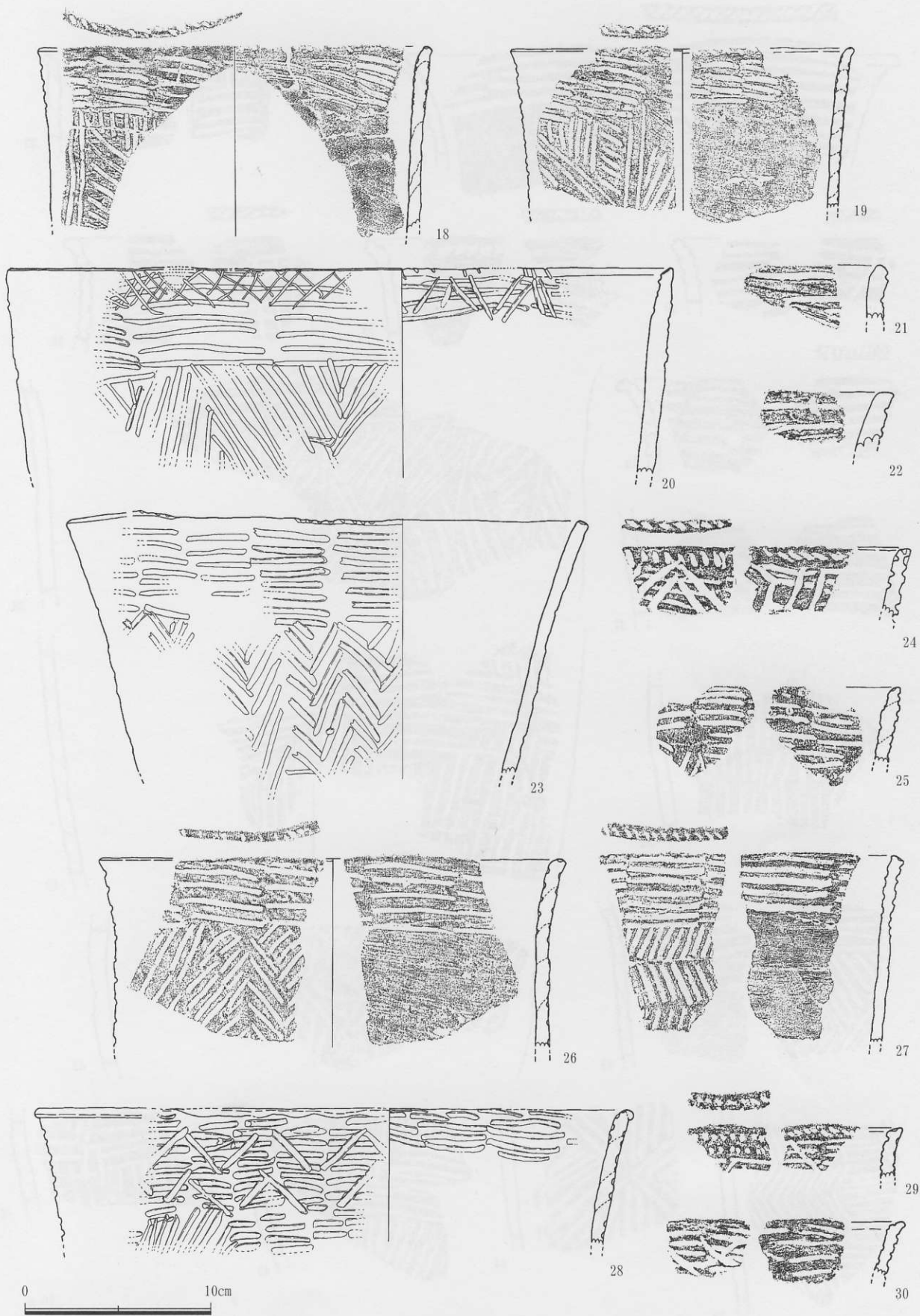
第24図 Aトレンチ1区攪乱層及び表土層出土縄文土器 (1/3)



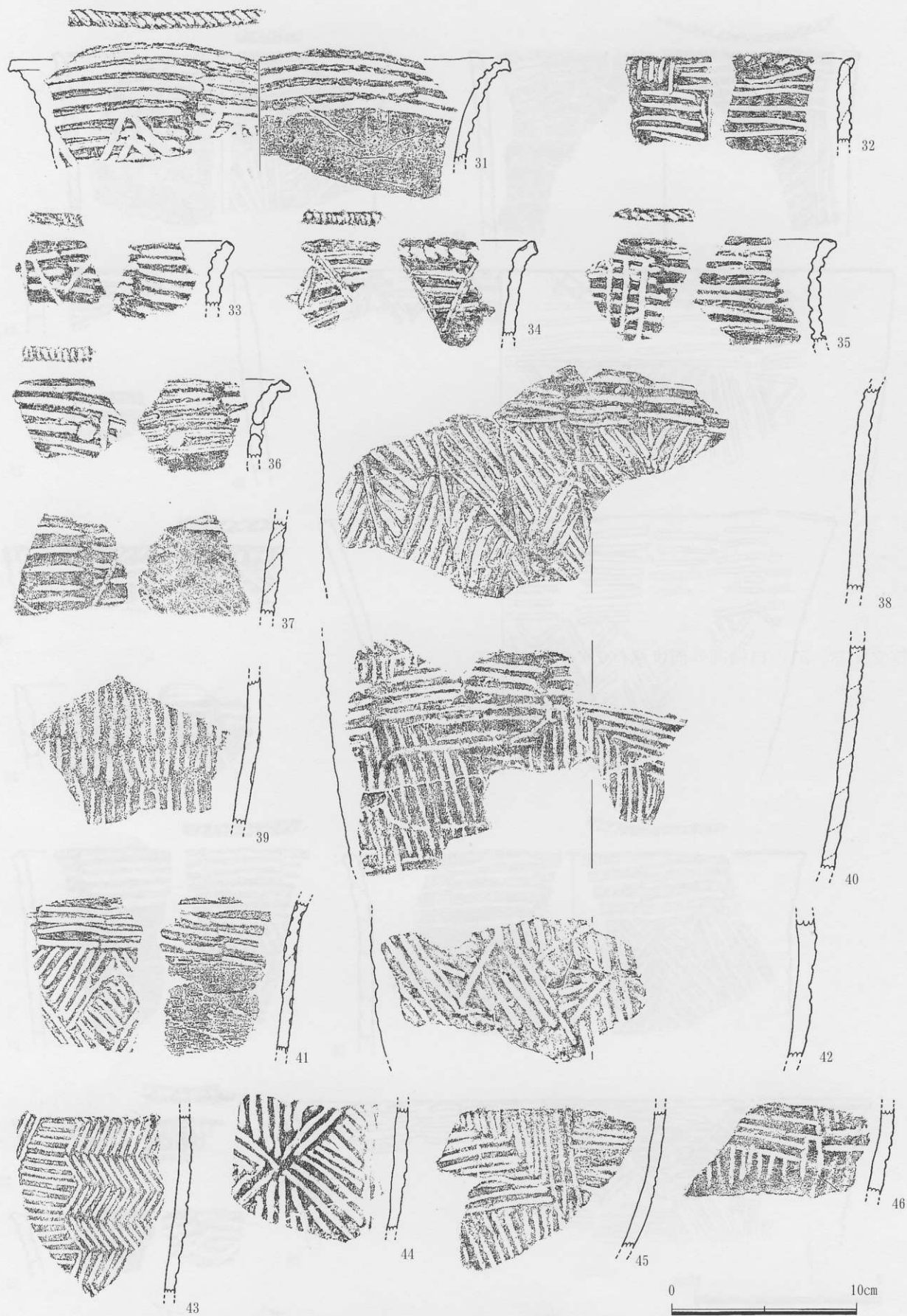
第25図 Aトレンチ1区第1貝層出土縄文土器・土製品 (1/3)



第26図 Aトレンチ1区礫層出土縄文土器 (1/3)



第27図 Aトレンチ1区第2貝層出土縄文土器1 (1/3)



第28図 Aトレンチ1区第2貝層出土縄文土器2 (1/3)

18・19はやや小型の深鉢で口縁部内外面に平行短沈線文、胴部に縦位や斜位の平行沈線文で文様帯を構成する。20は大型の深鉢で、口縁端部に刻目文、口縁部内外面に平行沈線文を施した後、外面はX字状沈線文、内面には山形沈線文を施す。21・22は外面のみに平行沈線文を施す。23・26は中型の深鉢で、口縁部外面に平行短沈線文、胴部に綾杉沈線文で文様帯を構成するが、23は内面には施文しない。27は口縁端部に刺突列点文、内外面に横位の平行短沈線文、胴部に羽状文で文様帯を構成する。28は大型の深鉢で、口縁部内外面に短沈線文を施した後、外面に山形沈線文を施す。29は口縁端部と口縁部内外面に刺突列点文を施文する。31は中型の深鉢で口縁部内外面に横位の平行沈線文、胴部外面には山形沈線文を施す。32はやや細い施文具を用い、縦位や横位の平行沈線文を施す。

37～48は口縁部下部や胴部、底部にかけての土器である。38・40はやや大型の深鉢の胴部で、38は口縁部に近い部分に横位の平行沈線文、その下部にはほぼ一定間隔の縦位の沈線文、その間を斜位の平行沈線文で充填する。40は縦位と横位の平行沈線文に加えて曲線文を施す。41は口縁下部から胴部にかけて残存し、口縁部に横位の平行沈線文、胴部は斜位の平行沈線文を充填することにより文様帯を構成する。43は比較的整った羽状文や横位の平行沈線文を施す。47の胴部は充填三角文、底部は横位の平行沈線文で文様帯を構成する。48も底部は平行沈線文を施す。

⑤第2貝層最下部出土土器（第30・31図）

49～55はⅢ類の土器で、49～51、54は口縁部が残存する。51はⅢ a 4 類、49はⅢ c 5 類、50・54はⅢ c 4 類である。

49は大型の深鉢で、口縁部文様帯がなく口縁部から胴部にかけてやや乱れた横位の平行沈線文のみを施文する。51の口縁部外面は横位の平行沈線文を施した後、山形文を施文し、胴部は縦位の平行沈線文で文様帯を構成する。54の口縁部外面の文様も51と同様であり、胴部文様帯は縦位や横位、斜位の平行沈線文の組み合わせである。

52・53・55は胴部片で、縦位や横位の平行沈線文、綾杉文などを施す。

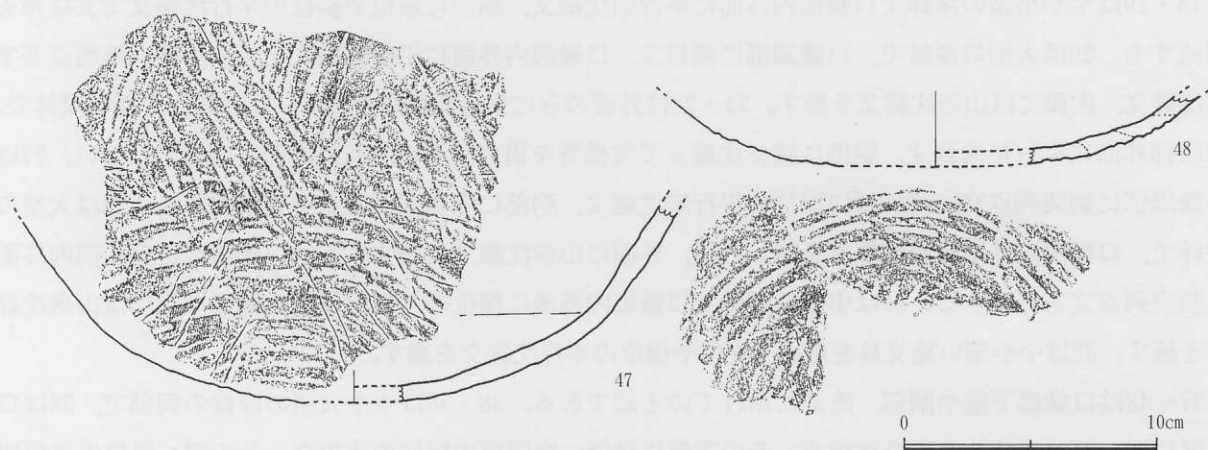
⑥褐色土層出土土器（第32図）

56～61はⅢ類の土器で、56・58はⅢ c 2 類、57はⅢ d 2 類である。58は口縁部内面に刺突列点文と横位の沈線文を施す。59～61は胴部片で、59は胴部上部に横位と縦位の平行沈線文、同下部は縦位のみの平行沈線文を施す。60は横位の平行沈線文内を斜位の平行沈線文で充填する。

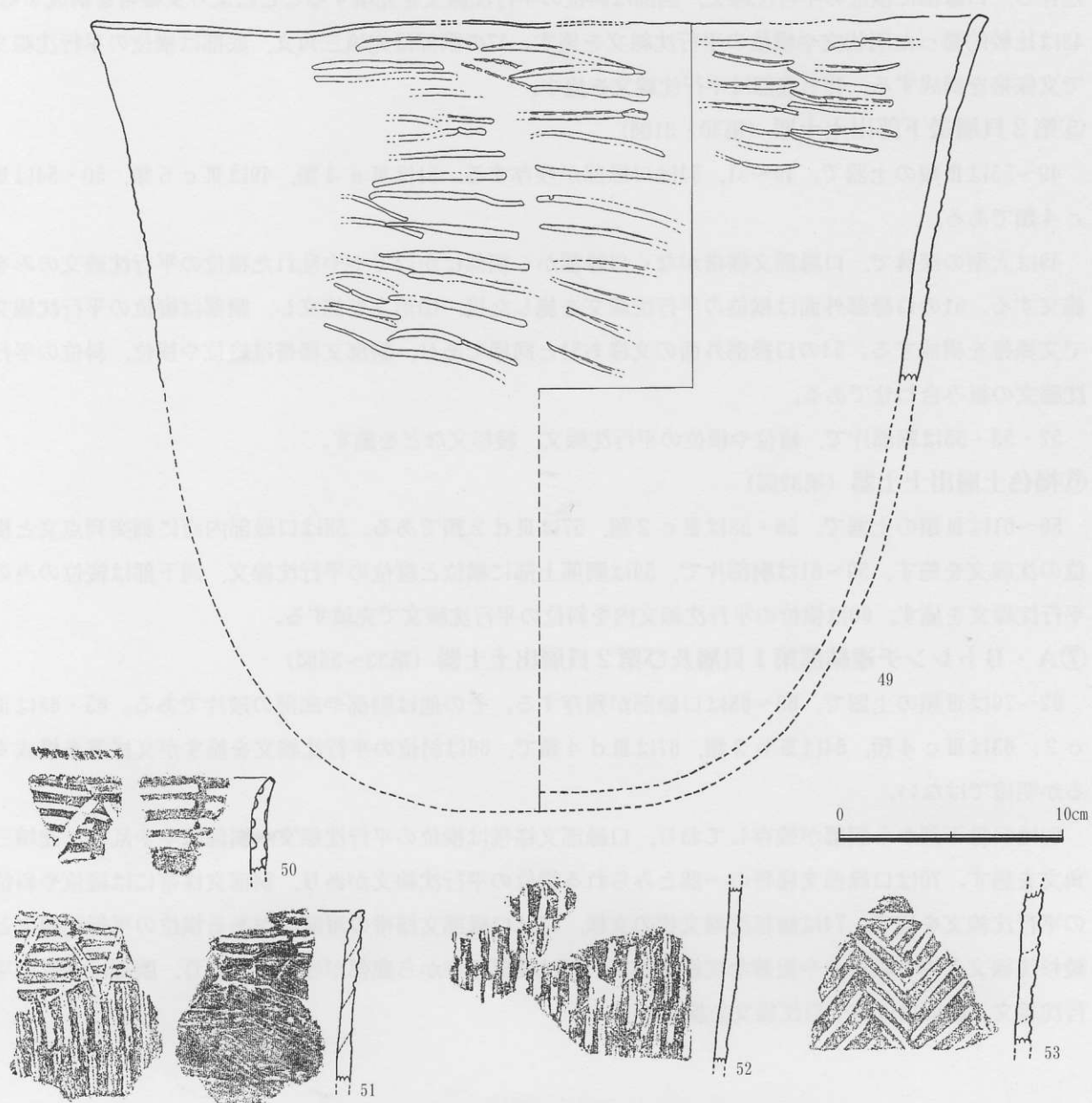
⑦A・Bトレンチ連結部第1貝層及び第2貝層出土土器（第33～35図）

62～79はⅢ類の土器で、63～68は口縁部が残存する。その他は胴部や底部の破片である。65・68はⅢ c 2、63はⅢ c 4 類、64はⅢ b 2 類、67はⅢ d 4 類で、66は斜位の平行沈線文を施すが文様帯を構成するか明確ではない。

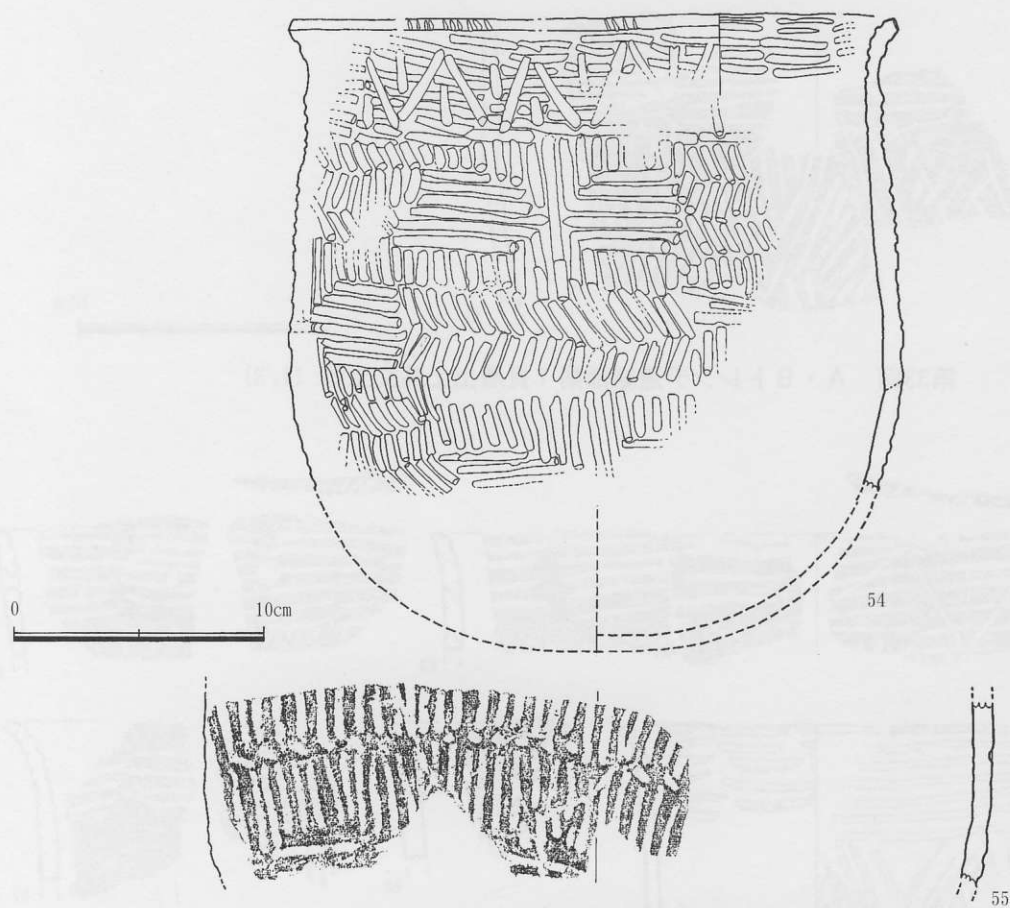
62は口縁下部から胴部が残存しており、口縁部文様帯は横位の平行沈線文、胴部はやや乱れた充填三角文を施す。70は口縁部文様帯の一部とみられる横位の平行沈線文があり、胴部文様帯には縦位や斜位の平行沈線文を施す。74は綾杉沈線文状の文様、77は口縁部文様帯の可能性のある横位の平行沈線文と綾杉沈線文とみられるやや粗雑な文様を施す。76は胴部下半から底部が残存しており、胴部は横位の平行沈線文、底部には格子目沈線文を施す。



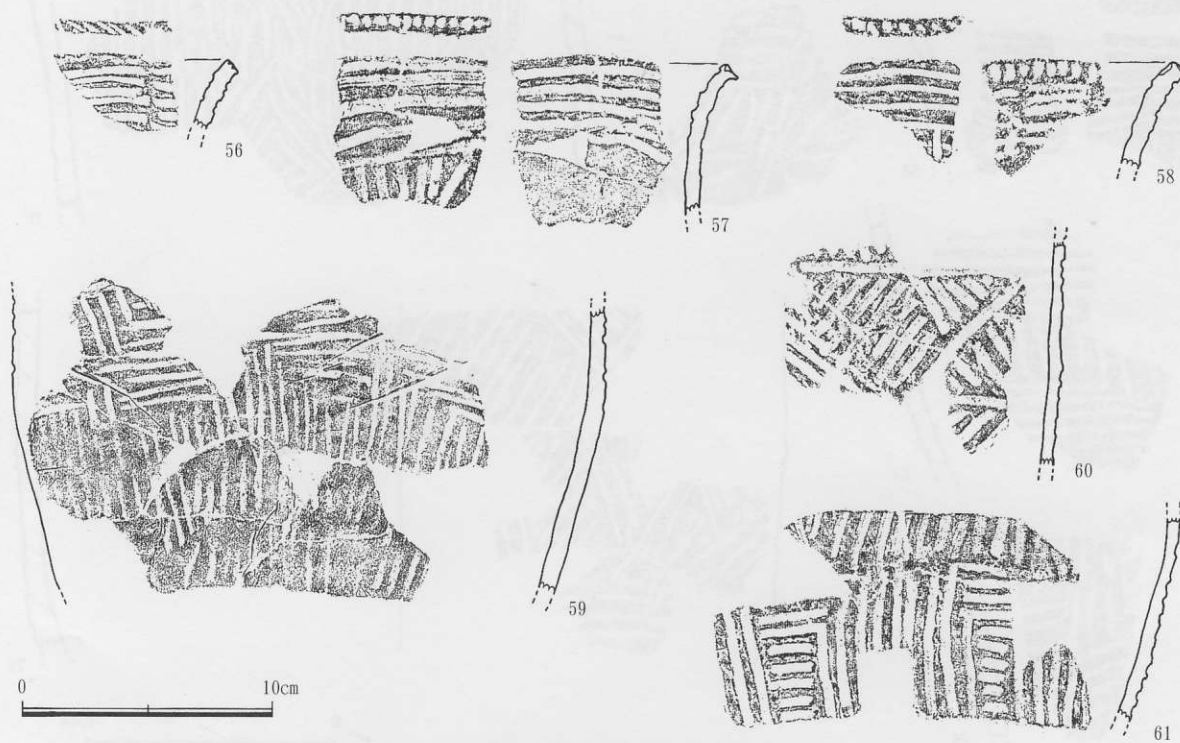
第29図 Aトレンチ 1区第2貝層出土縄文土器3 (1/3)



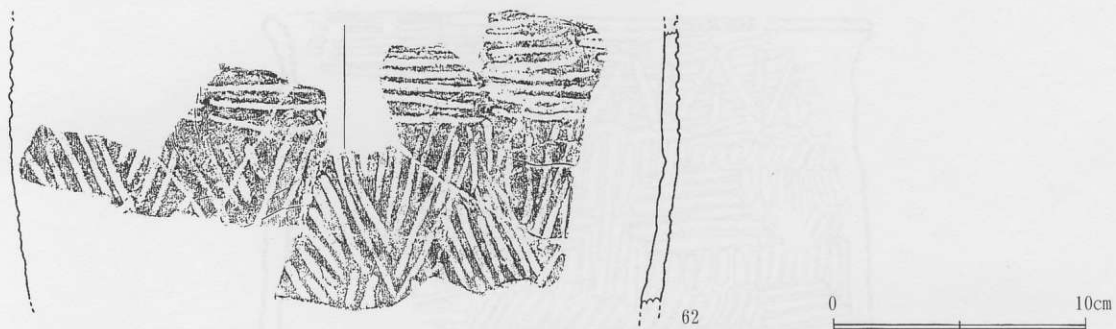
第30図 Aトレンチ 1区第2貝層最下部出土縄文土器1 (1/3)



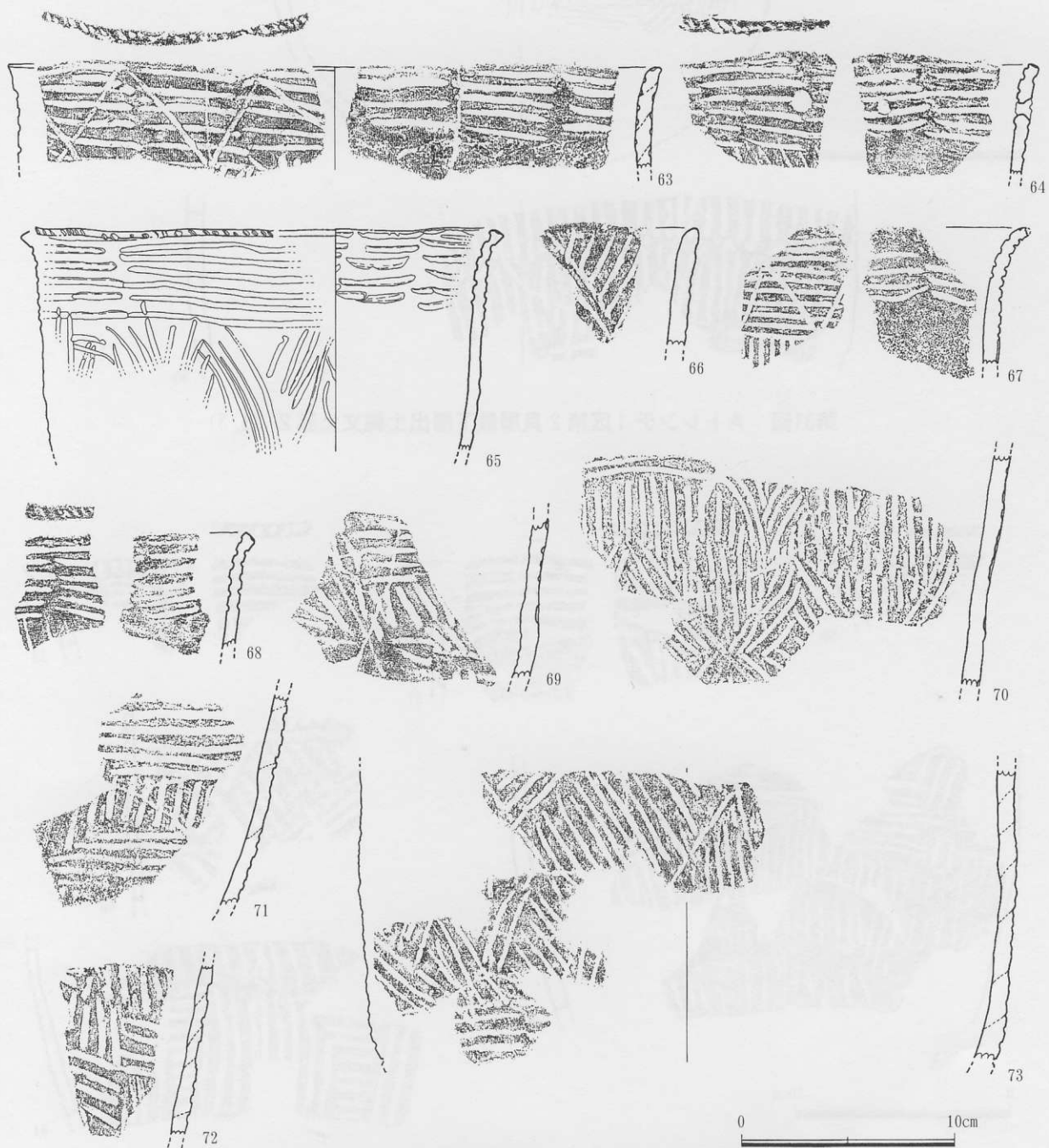
第31図 Aトレンチ 1区第2貝層最下層出土縄文土器 2 (1/3)



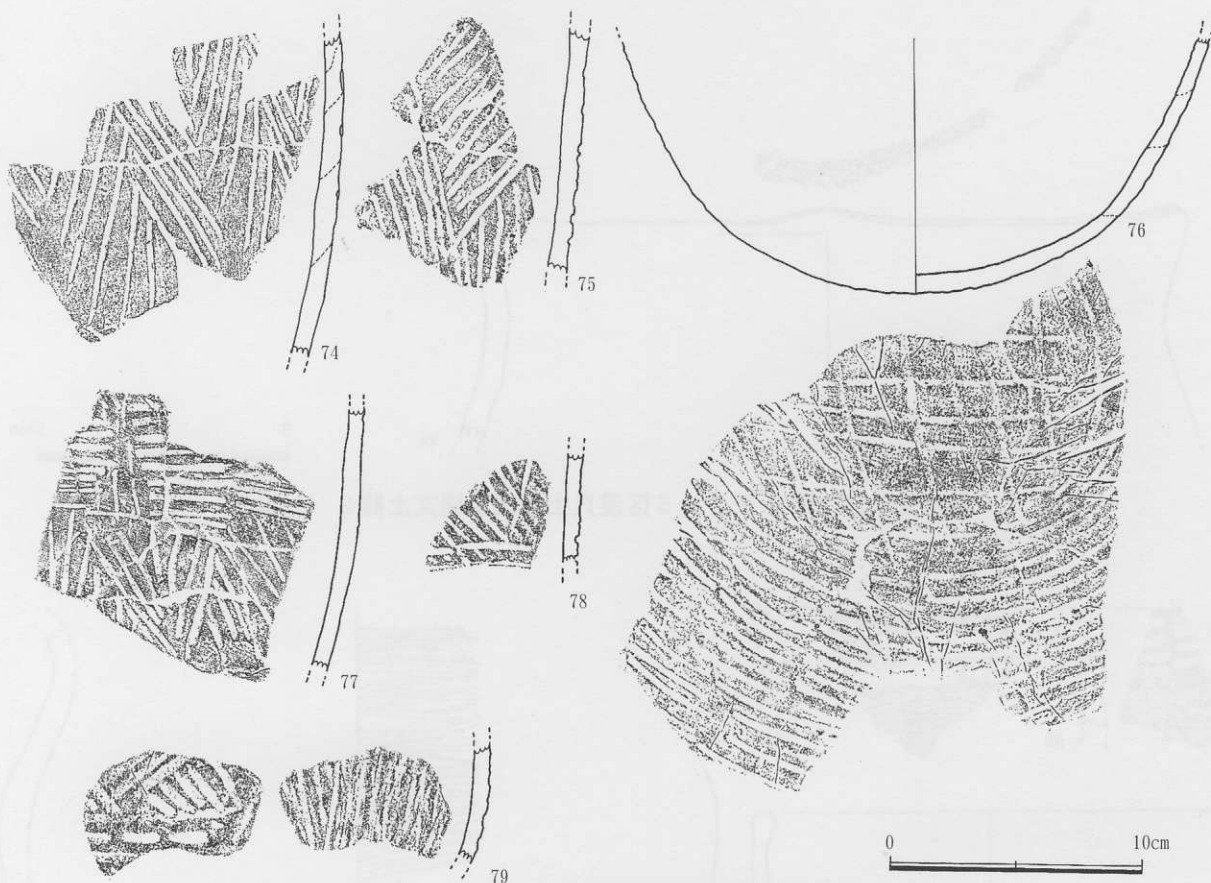
第32図 Aトレンチ 1区褐色土層出土縄文土器 (1/3)



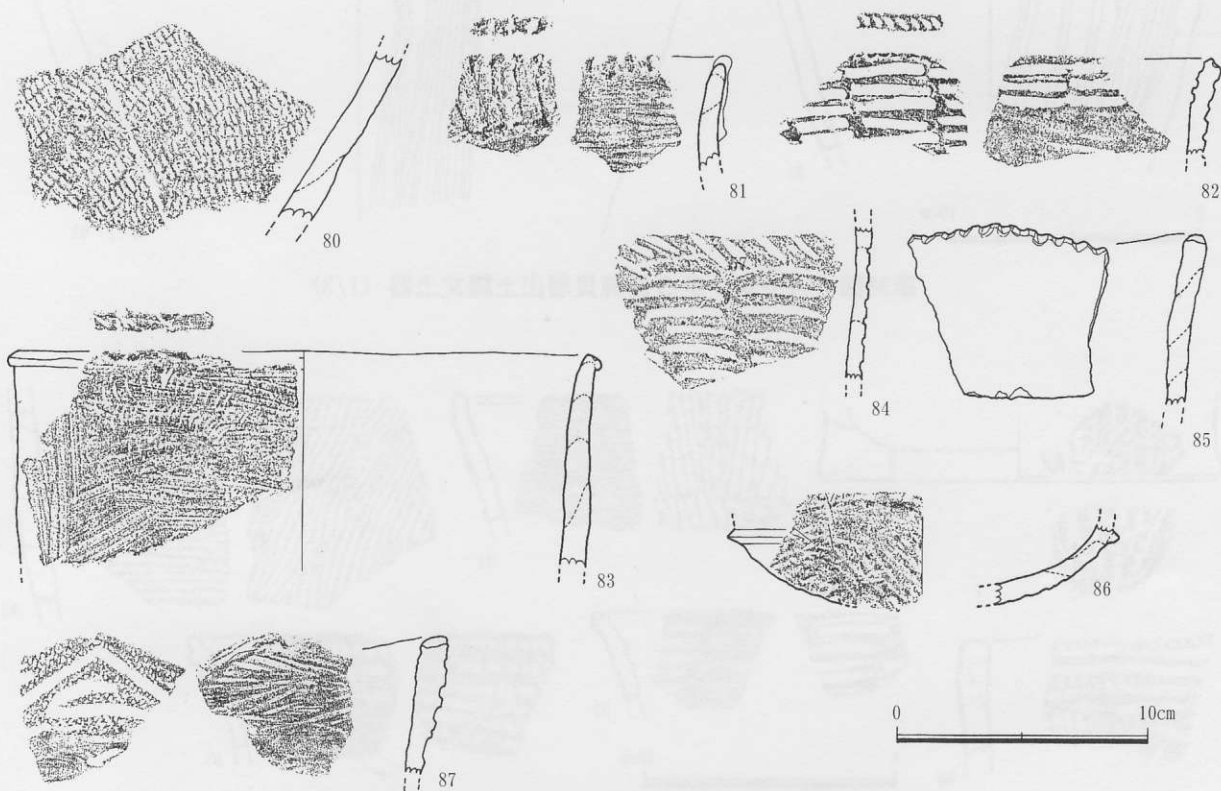
第33図 A・Bトレンチ連結部第1貝層出土縄文土器 (1/3)



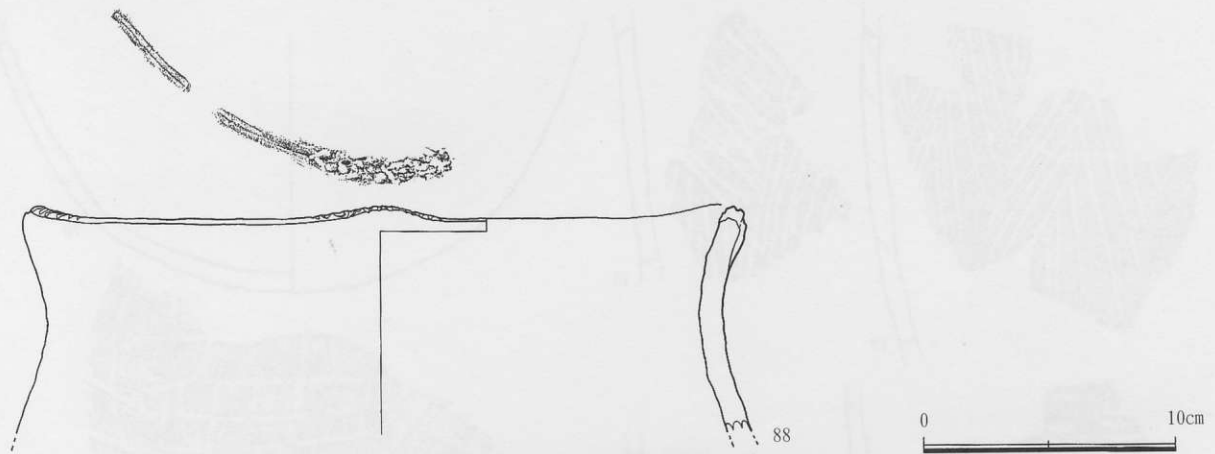
第34図 A・Bトレンチ連結部第2貝層出土縄文土器 1 (1/3)



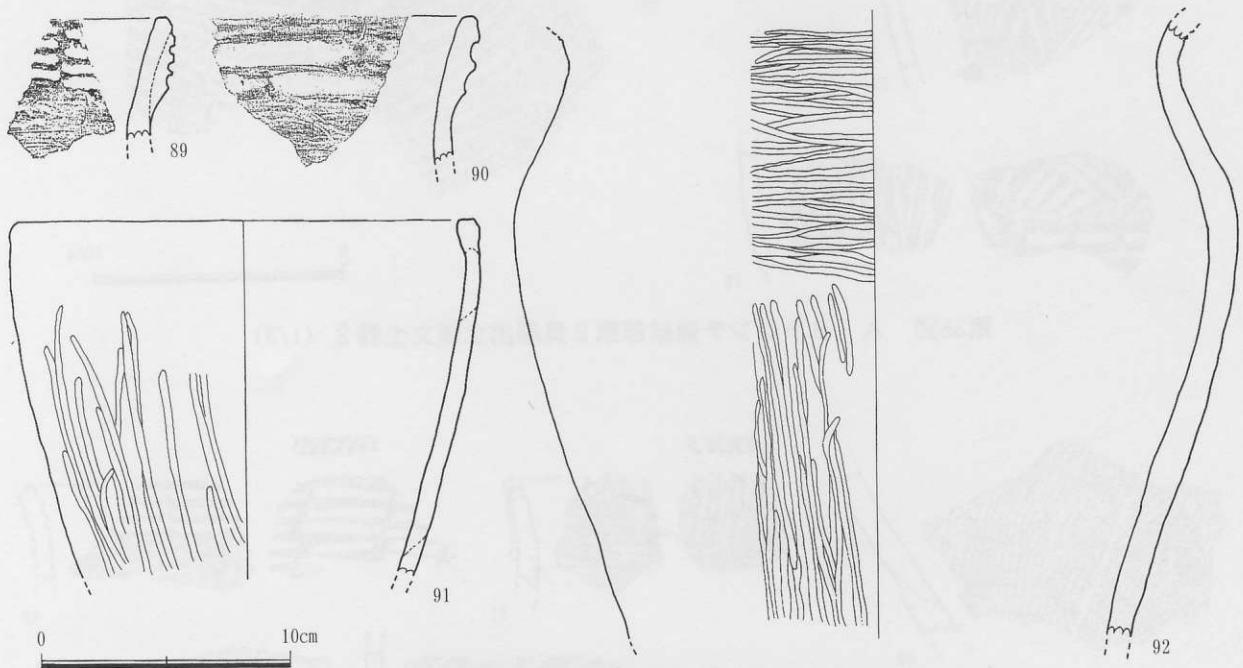
第35図 A・Bトレンチ連結部第2貝層出土縄文土器2 (1/3)



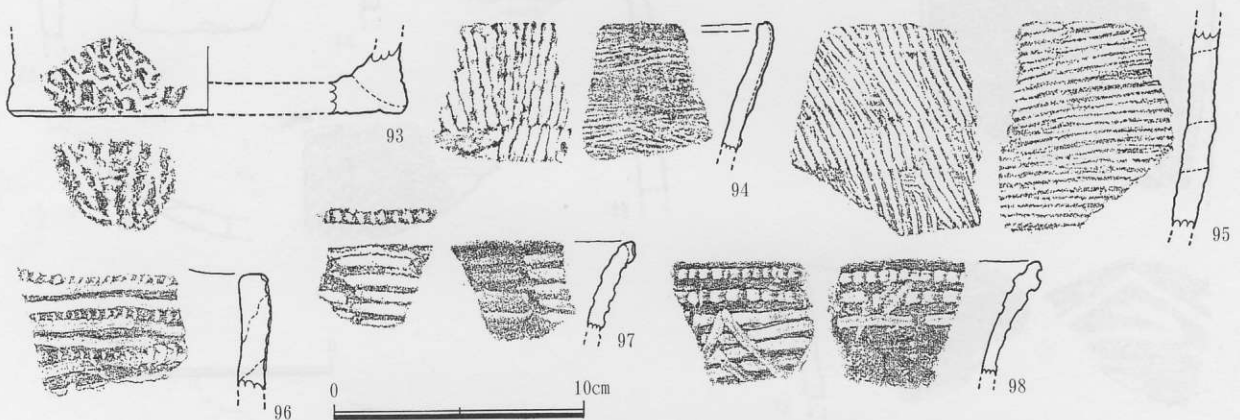
第36図 Aトレンチ2～5区混貝土層出土縄文土器1 (1/3)



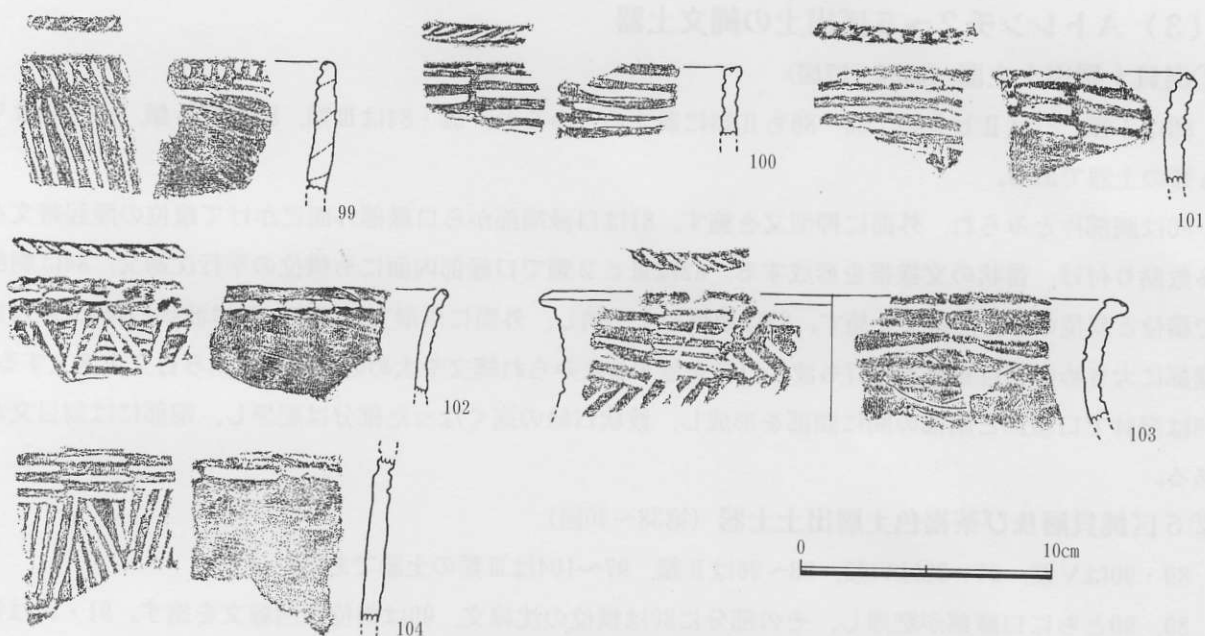
第37図 Aトレンチ 2～5区混貝土層出土縄文土器 2 (1/3)



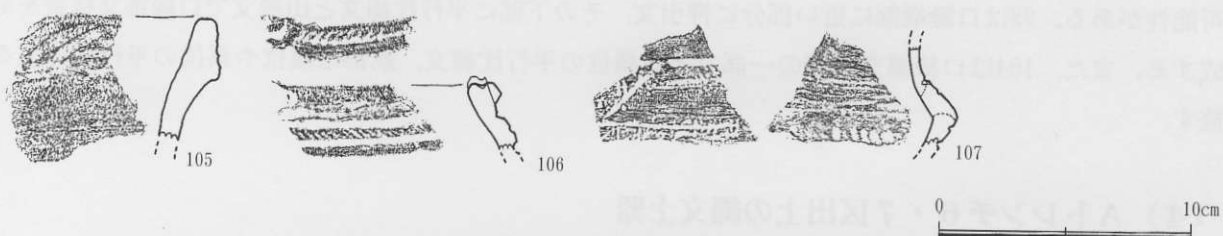
第38図 Aトレンチ 5区純貝層出土縄文土器 (1/3)



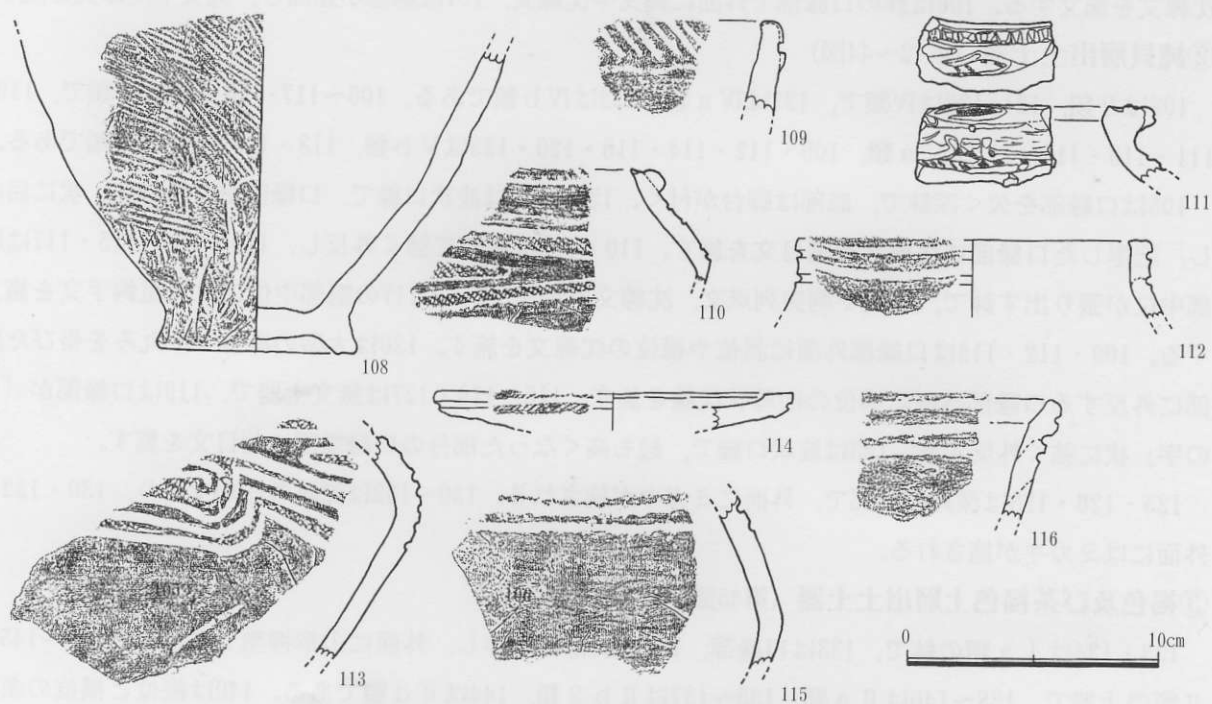
第39図 Aトレンチ 2～5区茶褐色土層出土遺物 1 (1/3)



第40図 Aトレンチ 2～5区茶褐色土層出土遺物 2 (1/3)



第41図 Aトレンチ 6・7区混貝土層出土縄文土器 (1/3)



第42図 Aトレンチ 6・7区純貝層出土縄文土器 1 (1/3)

(3) Aトレンチ2～5区出土の縄文土器

①混貝土層出土土器 (第36・37図)

80はⅠ類, 81はⅡb 1類, 83・86もⅡ類に属するとみられ, 82・84はⅢ類, 87はⅤb類, 85・88はⅤa類の土器である。

80は胴部片とみられ, 外面に押型文を施す。81は口縁端部から口縁部外面にかけて縦位の隆起帯文を多数貼り付け, 帯状の文様帯を形成する。82はⅢc 2類で口縁部内面にも横位の平行沈線文, 84は胴部で横位と斜位の平行沈線文を施す。83は条痕をナデ消し, 外面に爪形文を施す。85は波状口縁とみられ, 端部に大きめの刻目を施す。87も波状口縁を呈するとみられ縄文や太めの沈線文, 刻み目文を施文する。88は深鉢で口縁部と胴部の間に頸部を形成し, 波状口縁の高くなった部分は肥厚し, 端部には刻目文がある。

②5区純貝層及び茶褐色土層出土土器 (第38～40図)

89・90はⅤ類, 91・92はⅥ類, 93～96はⅡ類, 97～104はⅢ類の土器である。

89, 90ともに口縁部が肥厚し, その部分に89は横位の沈線文, 90は横位の凹線文を施す。91・92は無文土器で, 外面にミガキを施す。94はⅡb 1類, 95はⅡa類, 96はⅡd類である。97～103はⅢ類の口縁部で, 100はⅢa 2類, 97・101はⅢc 2類, 98・102はⅢc 4類, 103はⅢd 4類で, 99はⅢa 5類の可能性もある。98は口縁端部に近い部分に押引文, その下部に平行沈線文と山形文で口縁部文様帯を形成する。また, 104は口縁部文様帯の一部である横位の平行沈線文, 胴部は縦位や斜位の平行沈線文を施す。

(4) Aトレンチ6・7区出土の縄文土器

①混貝土層出土土器 (第41図)

105～107はⅤ類の土器で, 105はⅤb類, 106・107はⅤa類である。105は口縁部が肥厚し, 斜位の短沈線文を施文する。106は鉢の口縁部で外面に縄文や沈線文, 107は胴部が屈曲し, 縄文や沈線文を施す。

②純貝層出土土器 (第42～44図)

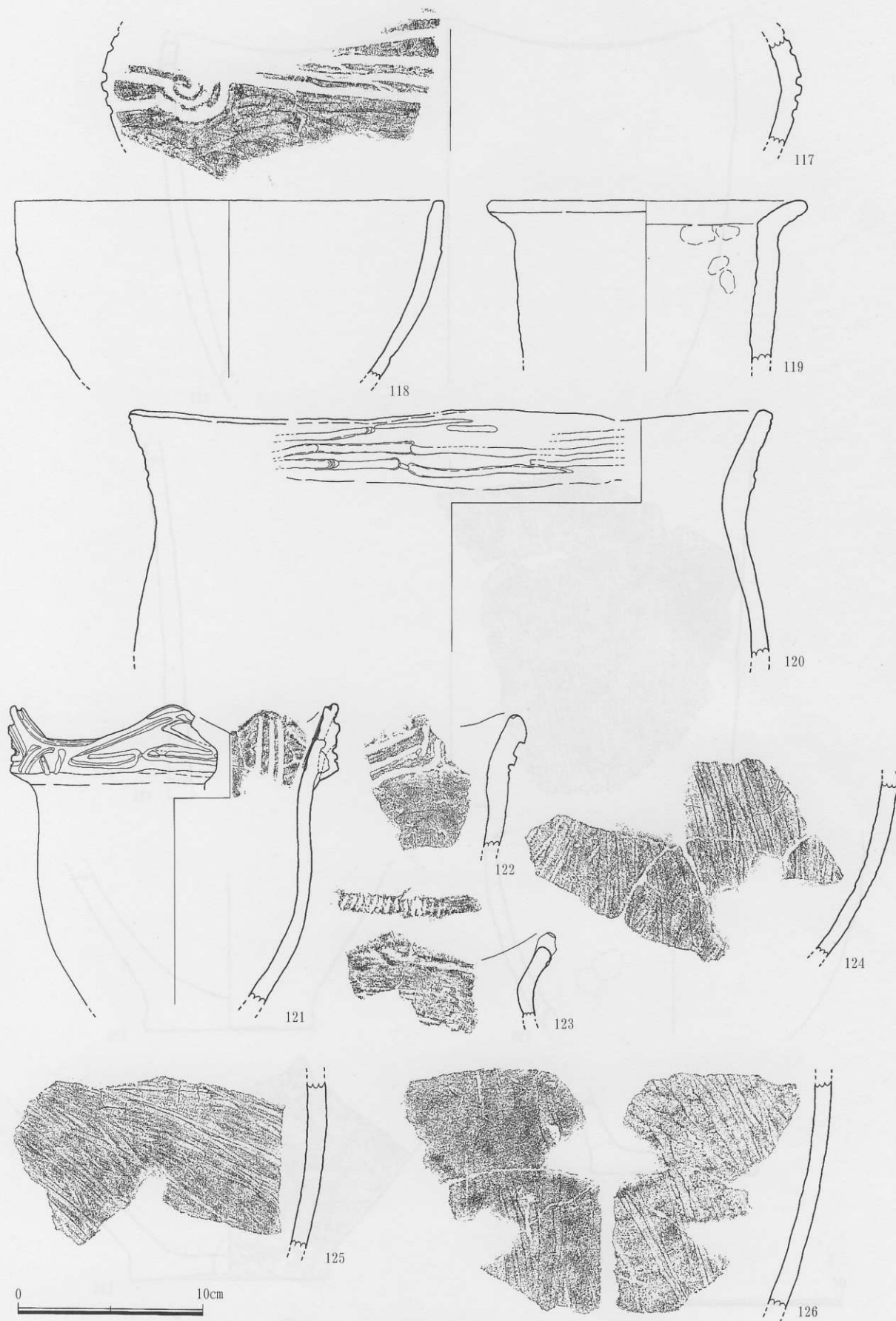
108はⅡ類, 121・122はⅣ類で, 121はⅣa類, 122はⅣb類である。109～117・120・123はⅤ類で, 110・111・113・115・117はⅤa類, 109・112・114・116・120・123はⅤb類, 118・119・127はⅥ類である。

108は口縁部を欠く深鉢で, 底部は脚台が付く。121・122は波状口縁で, 口縁部が「くの字」状に屈曲し, 肥厚した口縁部に沈線文や刻目文を施す。110・111は頸部で強く外反し, 110・113・115・117は胴部中位が張り出す鉢で, 縄文や刺突列点文, 沈線文を施す。113・117の胴部中位には入組鉤手文を施文する。109・112・116は口縁部外面に斜位や横位の沈線文を施す。120は大型の深鉢で, 丸みを帯びた胴部に外反する口縁部外面に横位の凹線状沈線を施す。118・119・127は無文土器で, 119は口縁部が「くの字」状に強く外反する。123は波状口縁で, 最も高くなった部分の口縁端部に刻目文を施す。

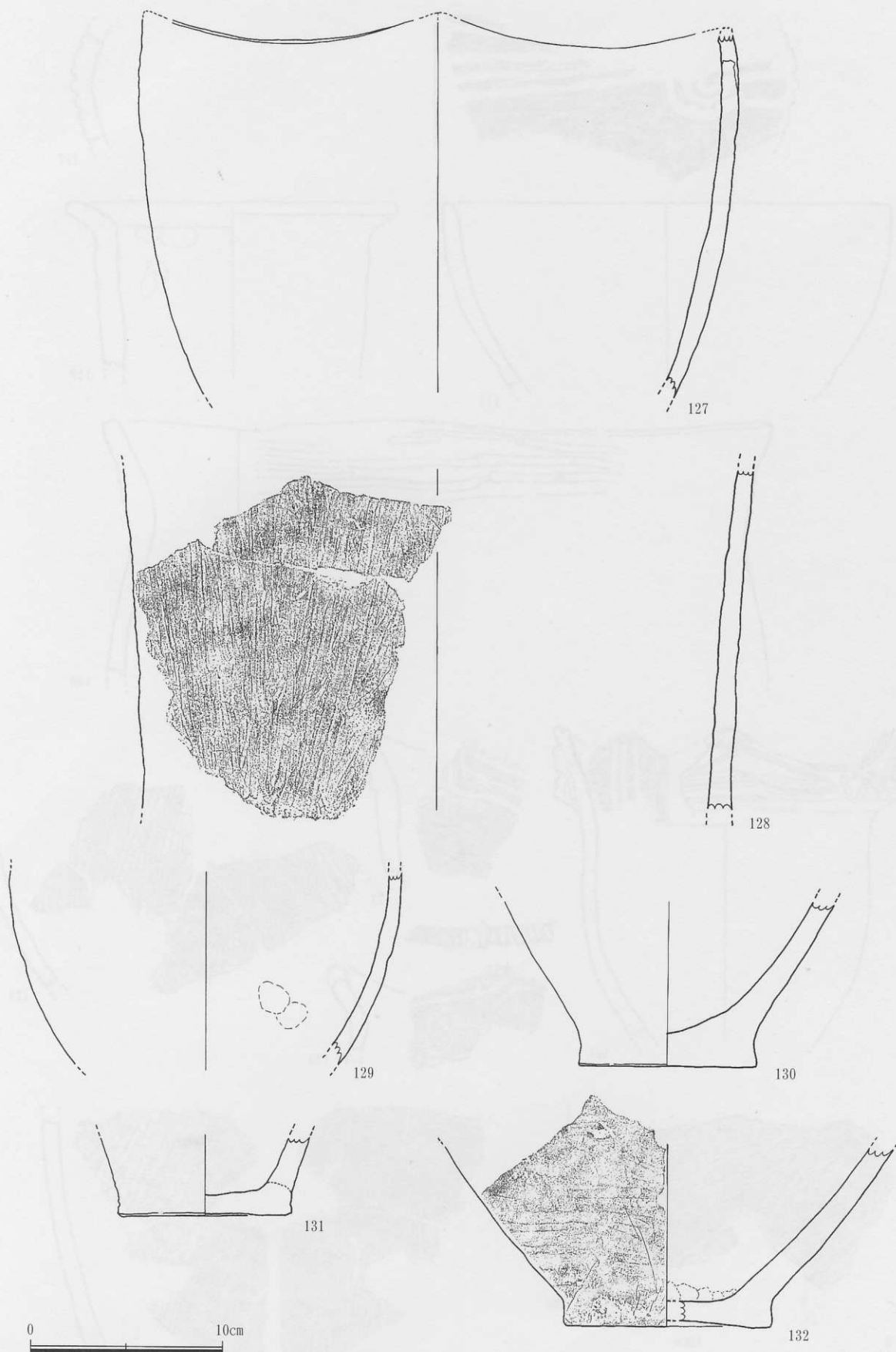
125・126・128は深鉢の胴部で, 外面にミガキが施される。130～132は深鉢の底部であり, 130・132の外面にはミガキが施される。

③褐色及び茶褐色土層出土土器 (第45図)

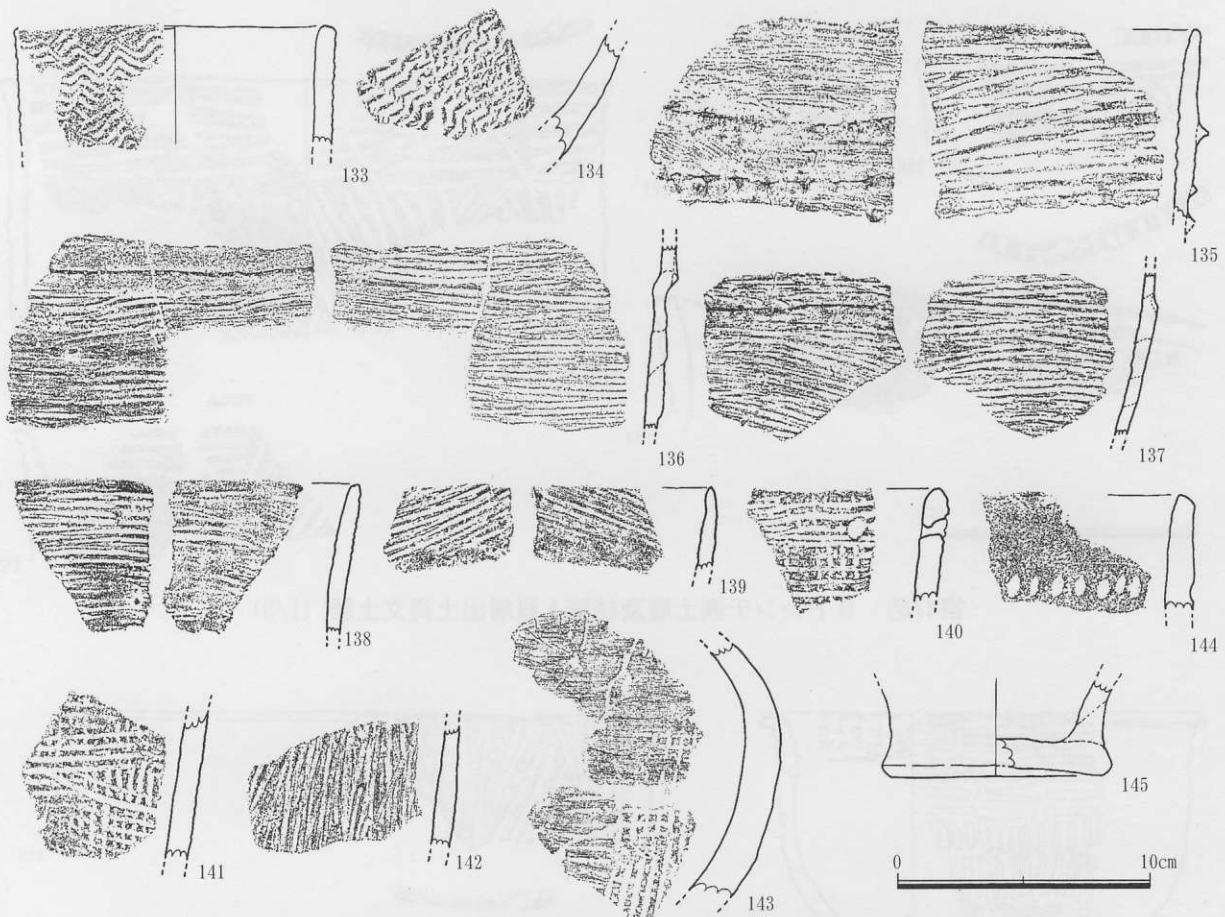
133・134はⅠa類の鉢で, 133は口縁部, 134は胴部が残存し, 外面に山形押型文を施す。135～145はⅡ類の土器で, 138～140はⅡa類, 135～137はⅡb 2類, 144はⅡd類である。140は縦位と横位の条痕を施し, 口縁部に穿孔がある。135は3条, 136・137は1条の隆起帯文を施す。144は口縁部外面に横位



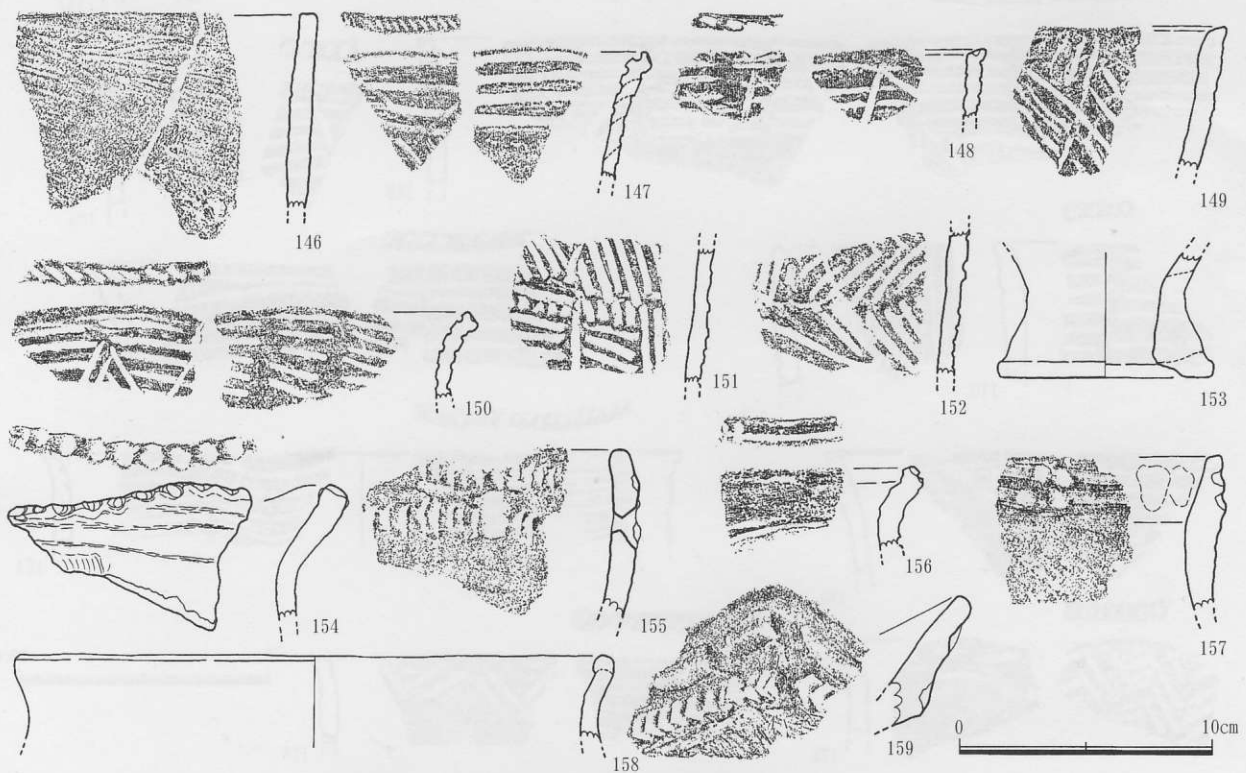
第43図 Aトレンチ 6・7区純貝層出土縄文土器 2 (1/3)



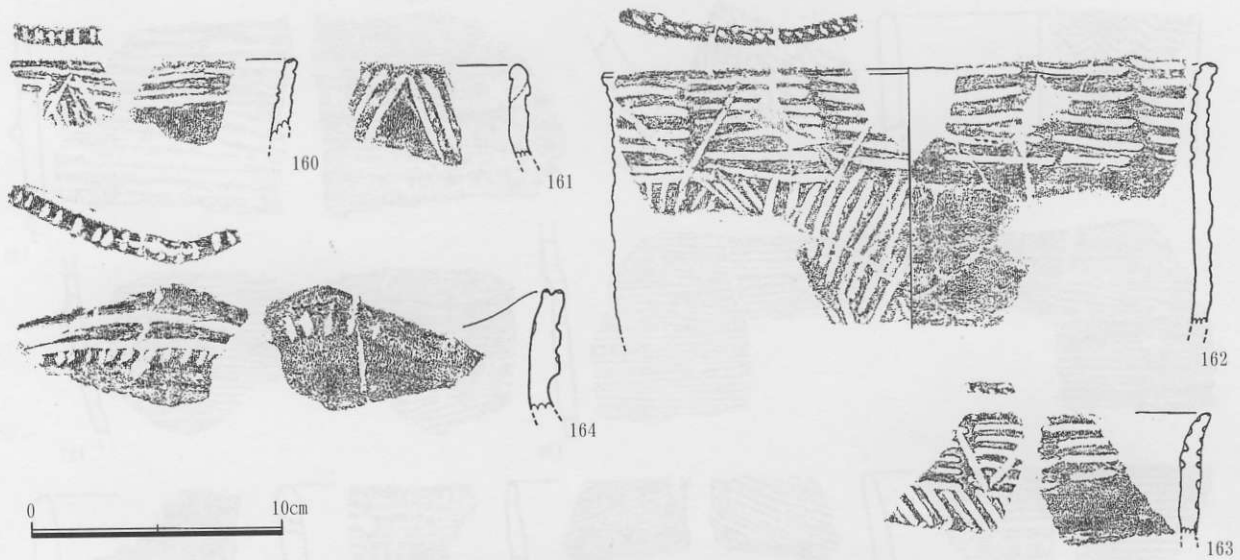
第44図 Aトレンチ6・7区純貝層出土縄文土器3 (1/3)



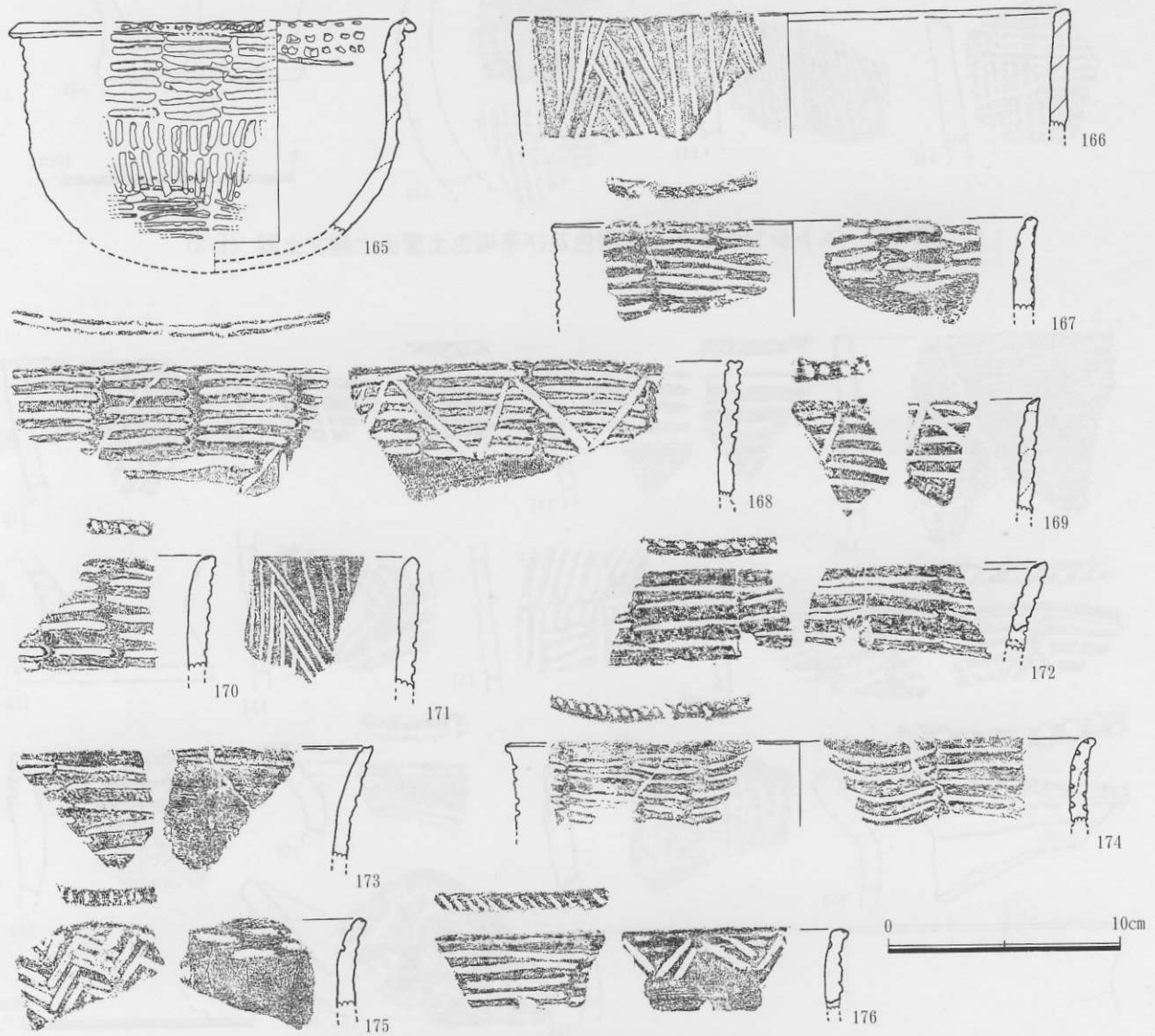
第45図 Aトレンチ6・7区褐色及び茶褐色土層出土縄文土器 (1/3)



第46図 Aトレンチ出土層位不明縄文土器 (1/3)



第47図 Bトレンチ表土層及び第1貝層出土縄文土器 (1/3)



第48図 Bトレンチ第2貝層出土縄文土器 1 (1/3)

の爪形文を施文する。143は鉢の胴部とみられ、145は底部である。

(5) Aトレンチ出土層位不明の縄文土器 (第46図)

146はⅡ類の深鉢で、内外面に条痕後、ナデを施す。147～152はⅢ類の深鉢で、147～150は口縁部、151・152は胴部である。148はⅢa 4類、147・150はⅢc 4類で、149はⅢa 5類の可能性はある。153は台付鉢とみられ、154は波状口縁で口縁部が強く外反するⅤa類の土器とみられる。155は外面に刻目文を施す鉢で、穿孔が1ヶ所ある。156は口縁端部に沈線文と刺突文、157はⅤb類で、肥厚する口縁部外面に横位の沈線文と刺突文を施す。158はⅥ類の口縁部が外反する無文の深鉢、159はⅣb類の深鉢で、波状口縁を呈する。口縁部が断面三角形状に肥厚し、その外面に沈線文や刺突文を施す。

(6) Bトレンチ1～3区出土の縄文土器

①表土層及び第1貝層出土土器 (第47図)

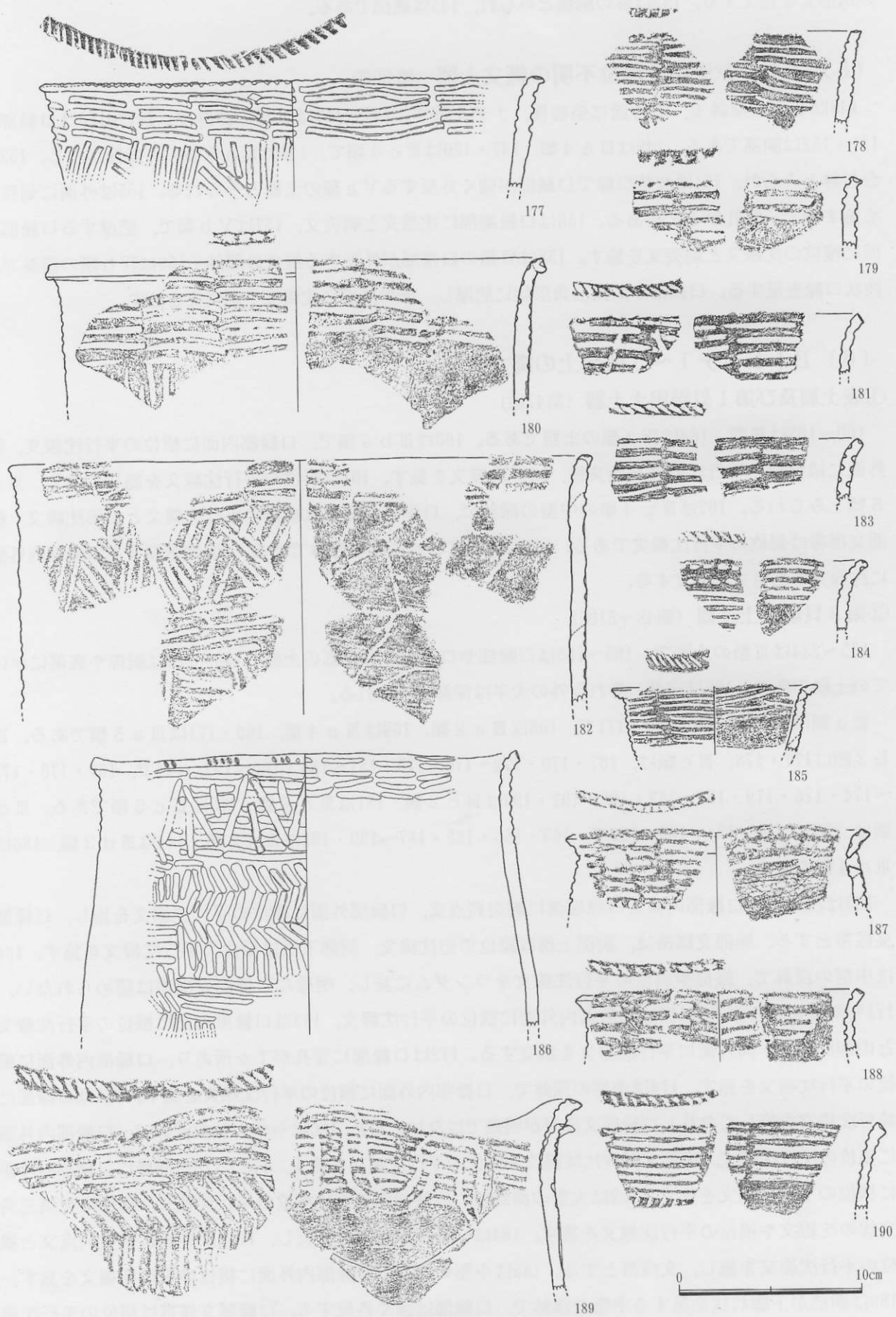
160～163はⅢ類、164はⅣa類の土器である。160はⅢb 4類で、口縁部内面に横位の平行沈線文、同外面には横位の平行沈線文を施文後、山形沈線文を施す。161は斜位の平行沈線文を施しており、Ⅲa 5類とみられる。162はⅢc 4類の中型の深鉢で、口縁部文様帯は横位の平行沈線文と山形沈線文、胴部文様帯は斜位の平行沈線文である。163も同様にⅢc 4類の深鉢である。164は肥厚する口縁部内外面に沈線文や刻目文を施文する。

②第2貝層出土土器 (第48～51図)

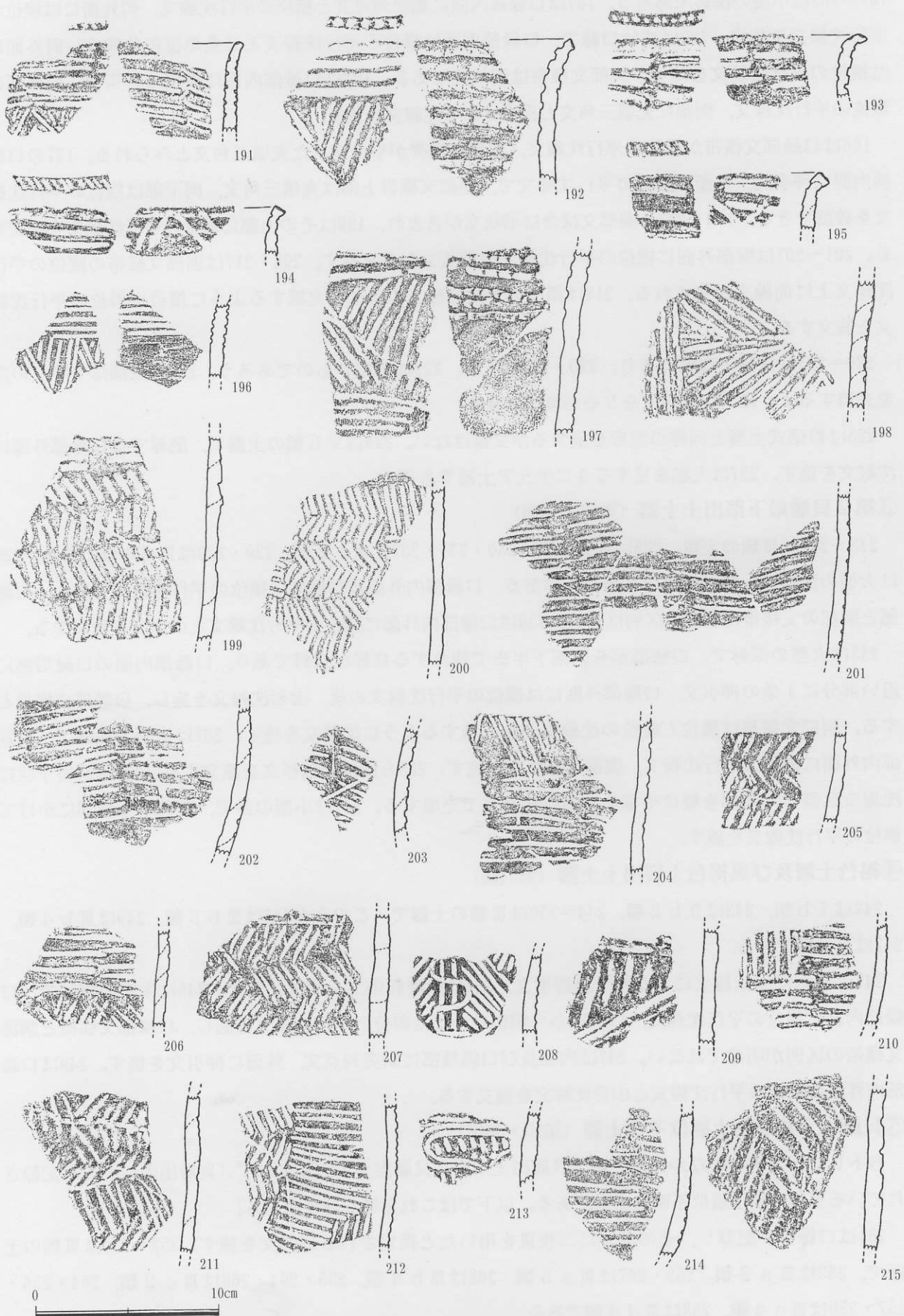
165～224はⅢ類の土器で、165～195は口縁部や口縁部から胴部の土器、196～224は胴部や底部にかけての土器である。165は浅鉢、それ以外の大半は深鉢とみられる。

Ⅲa類は、166・168・169・171で、168はⅢa 2類、169はⅢa 4類、166・171はⅢa 5類である。Ⅲb 2類は177・178。Ⅲc類は、167・170・172～176・179・181～183・190～192、194で、167・170・172～174・176・179・182・183・190～192・194はⅢc 2類、181はⅢc 4類、175はⅢc 5類である。Ⅲd類は、165・180・184～189・193で、165・180・185・187～189・193はⅢd 2類、184はⅢd 3類、186はⅢd 4類である。

165は浅鉢で、口縁部内面と口縁端部に刺突列点文、口縁部外面に横位の平行沈線文を施し、口縁部文様帯とする。胴部文様帯は、胴部上部は縦位の短沈線文、胴部下部は横位の平行沈線文を施す。166は中型の深鉢で、縦位や斜位の平行沈線文をランダムに施し、明確な口縁部文様帯は認められない。171も同様とみられる。167は口縁部内外面に横位の平行沈線文、168は口縁部内面に横位の平行沈線文と山形沈線文、同外面に平行沈線文を施文する。172は口縁部に穿孔が1ヶ所あり、口縁部内外面に横位の平行沈線文を施す。174は中型の深鉢で、口縁部内外面に横位の平行沈線文を施す。175は口縁部に綾杉沈線文を施しており、口縁部文様帯が明確ではない。177・180はやや大型の深鉢で、口縁部内外面に横位の平行沈線文、胴部文様帯には縦位や斜位の平行沈線文を施す。178・179も同様に口縁部内外面に横位の平行沈線文を施す。182は大型の深鉢で、口縁部内外面に横位の平行沈線文、胴部に充填三角文状の沈線文や横位の平行沈線文を施す。184は口縁部が大きく外反し、口縁部外面に刺突列点文と横位の平行沈線文を施し、文様帯とする。185は小型の鉢で、口縁部内外面に横位の平行沈線文を施す。186は胴部が下膨れ状を呈する中型の深鉢で、口縁部は強く外反する。口縁部文様帯は横位の平行沈線文を施文後、山形沈線文を施しており、胴部文様帯は羽状文や横位や縦位の平行沈線文で構成する。



第49図 Bトレンチ第2貝層出土縄文土器2 (1/3)



第50図 Bトレンチ第2貝層出土縄文土器3 (1/3)

187・188は小型の深鉢であろう。187は口縁部内面に刺突列点文と横位の平行沈線文、同外面には横位の平行沈線文を施す。189は波状口縁で、口縁部内面は横位の平行沈線文と2条単位の曲線文、同外面には横位の平行沈線文を施す。胴部文様帯は羽状文である。192は口縁部内面に横位の押引文、同外面に横位の平行沈線文、胴部に充填三角文と推定される沈線文を施す。

196は口縁部文様帯が横位の平行沈線文、胴部文様帯がやや崩れた充填三角文とみられる。197の口縁部内面は押引文、外面は横位の平行沈線文で、胴部文様帯上部は充填三角文、同下部は横位の平行沈線文を確認できる。199・200の胴部文様帯は羽状文が含まれ、199はその上部に横位の平行沈線文を施文する。201～207は胴部外面に横位の平行沈線文や羽状文などを施す。208・217は胴部文様帯の縦位の平行沈線文上に曲線文が施される。218は横位の平行沈線文の内部を充填するように縦位や斜位の平行沈線文を施文する。

220～223は深鉢の底部であり、220・221は中型、222は小型のものであろう。222の底部は十字文の間を充填するように平行沈線文をクモの巣状に施す。

225は曾畑式土器と同様の器形を呈するが文様はない。226はV b 類の土器で、肥厚する口縁部外面に沈線文を施す。227は丸底を呈するミニチュア土器である。

③第2貝層最下部出土土器（第52・53図）

228～241はⅢ類の土器。228はⅢ a 5 類、230・231・237はⅢ c 2 類、229・233はⅢ d 4 類である。228は大型の深鉢で、口縁部に1ヶ所穿孔がある。口縁部内外面及び胴部に横位の平行沈線文を施し、口縁部と胴部の文様帯に明確な区別はない。229は口縁部内外面に横位の平行沈線文と山形文を施文する。

233は大型の深鉢で、口縁部から胴部下半まで残存する良好な資料であり、口縁部内面の口縁端部に近い部分に1条の押引文、口縁部外面には横位の平行沈線文の後、山形沈線文を施し、口縁部文様帯とする。胴部文様帯は横位と縦位の沈線文内を充填するように沈線文を施す。237は中型の深鉢で、口縁部内外面に横位の平行沈線文、胴部に綾杉文を施す。238も胴部に綾杉文を施文する。239は斜格子状に沈線で区画した内部を縦位や横位の平行沈線文で充填する。241は小型の鉢で、胴部から底部にかけて横位の平行沈線文を施す。

④褐色土層及び黒褐色土層出土土器（第54図）

242はI b 類、243はII b 2 類、244～250はⅢ類の土器で、このうち245はⅢ b 5 類、249はⅢ b 4 類、247はⅢ d 類である。

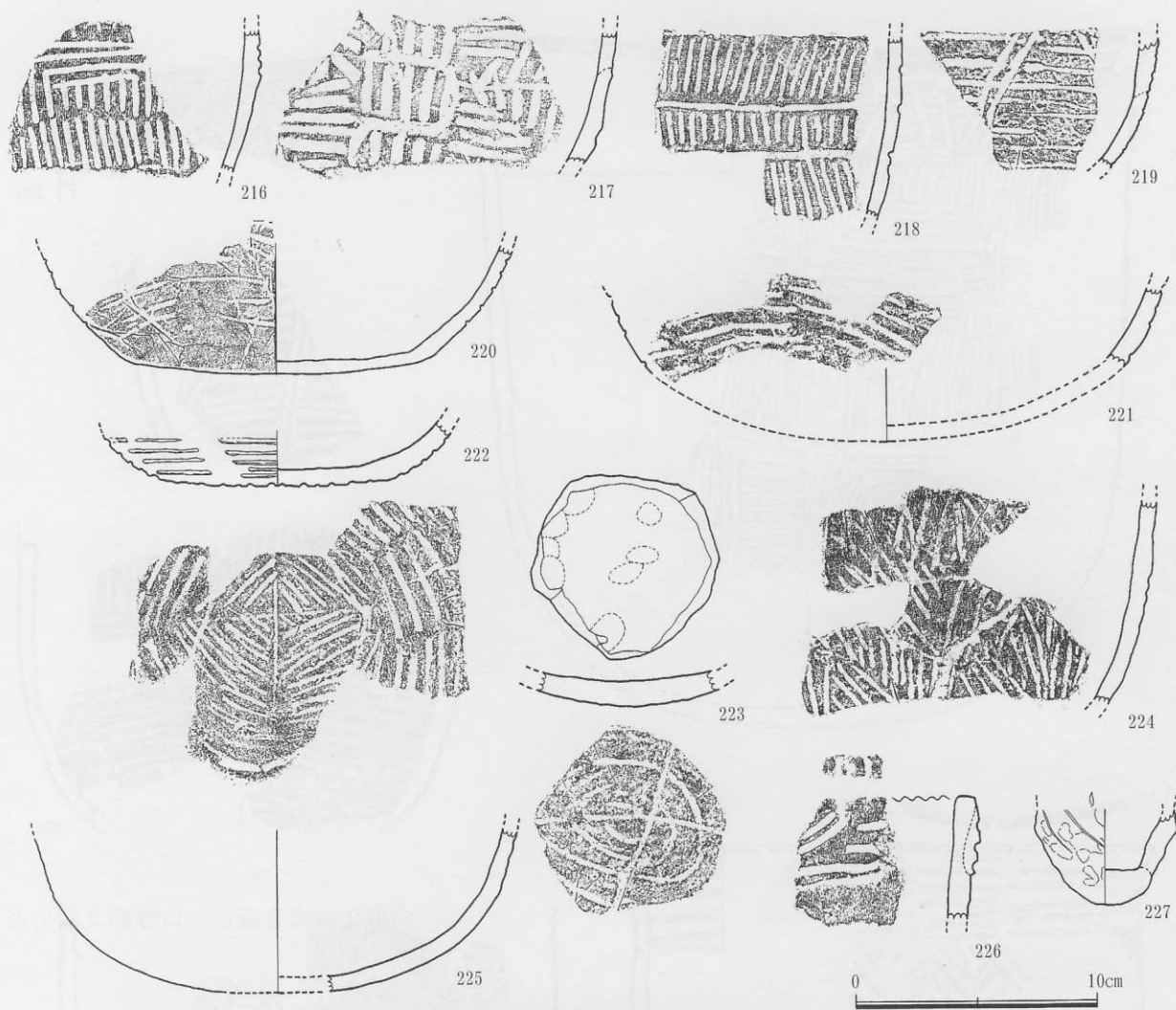
242は外面に回転施文による格子目押型文、243は微隆起帯文を横位に施す。245は中型の深鉢で、口縁部内面に横位の平行沈線文、口縁部から胴部外面には斜位の平行沈線文を施し、口縁部文様帯と胴部文様帯の区別が明確ではない。247は内面及び口縁端部に刺突列点文、外面に押引文を施す。249は口縁部内外面に横位の平行沈線文と山形沈線文を施文する。

⑤貝層出土及び出土層位不明土器（第55・56図）

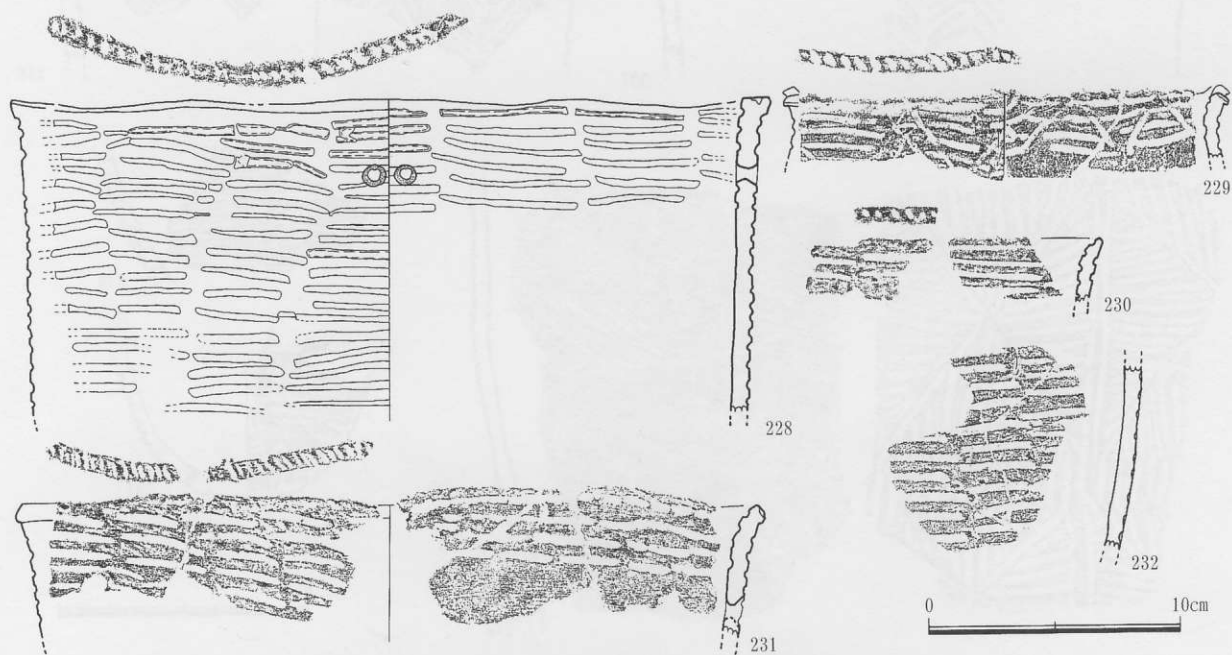
Bトレンチ出土品のなかには、第1貝層出土か第2貝層出土か区別されず「貝層出土」とのみ記録されている土器や出土層位不明の土器がある。以下ではこれらについて述べる。

251は口縁部が肥厚し、その部分に二枚貝を用いたと推定される刺突文を施す。252～270はⅢ類の土器で、253はⅢ a 2 類、252・267はⅢ a 5 類、268はⅢ b 4 類、255・264・266はⅢ c 2 類、254・256・257・259はⅢ c 4 類、258はⅢ d 4 類である。

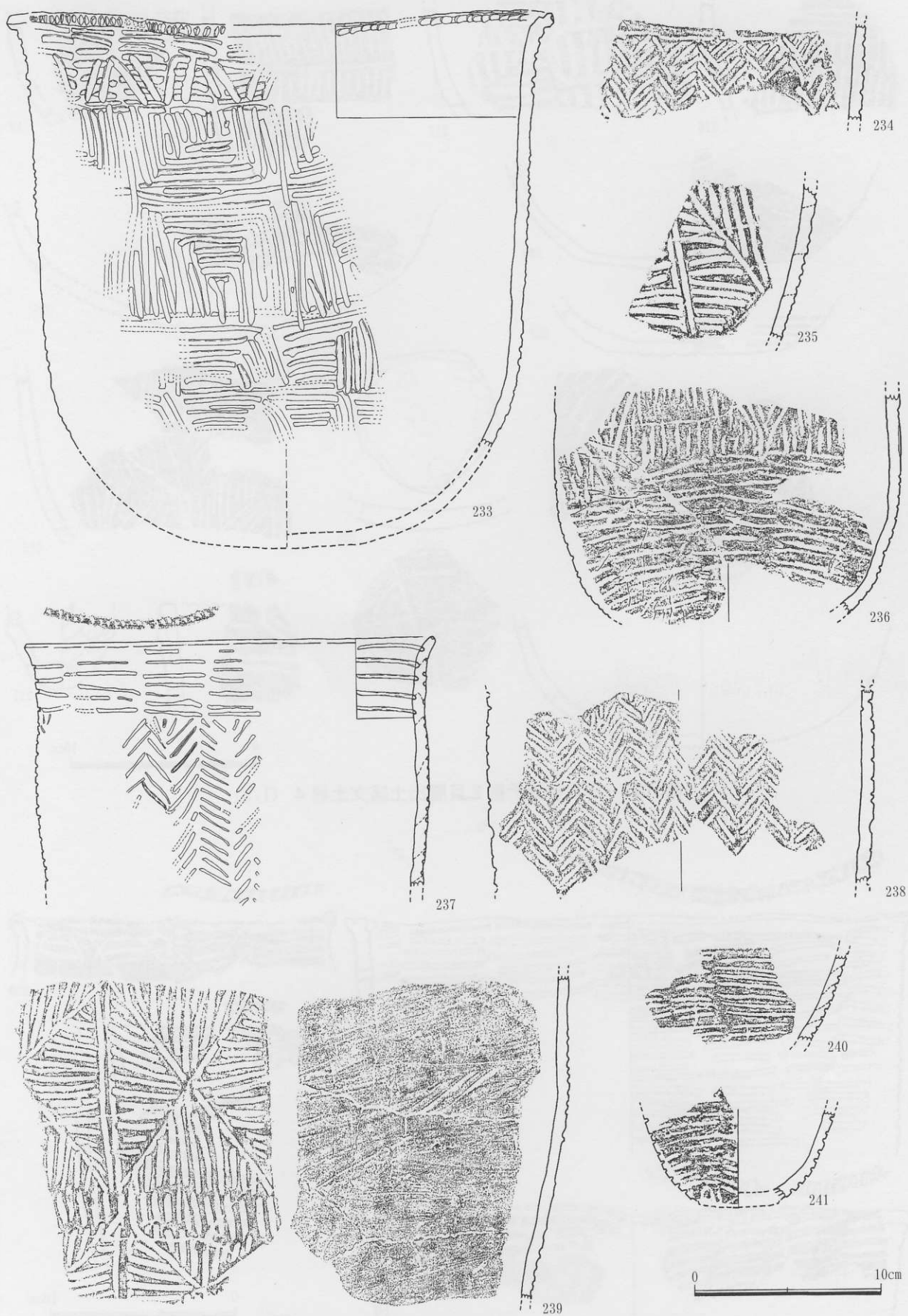
252の口縁部は縦位の平行沈線文を施し、胴部文様帯との区別はない。256は口縁部に1ヶ所穿孔を施



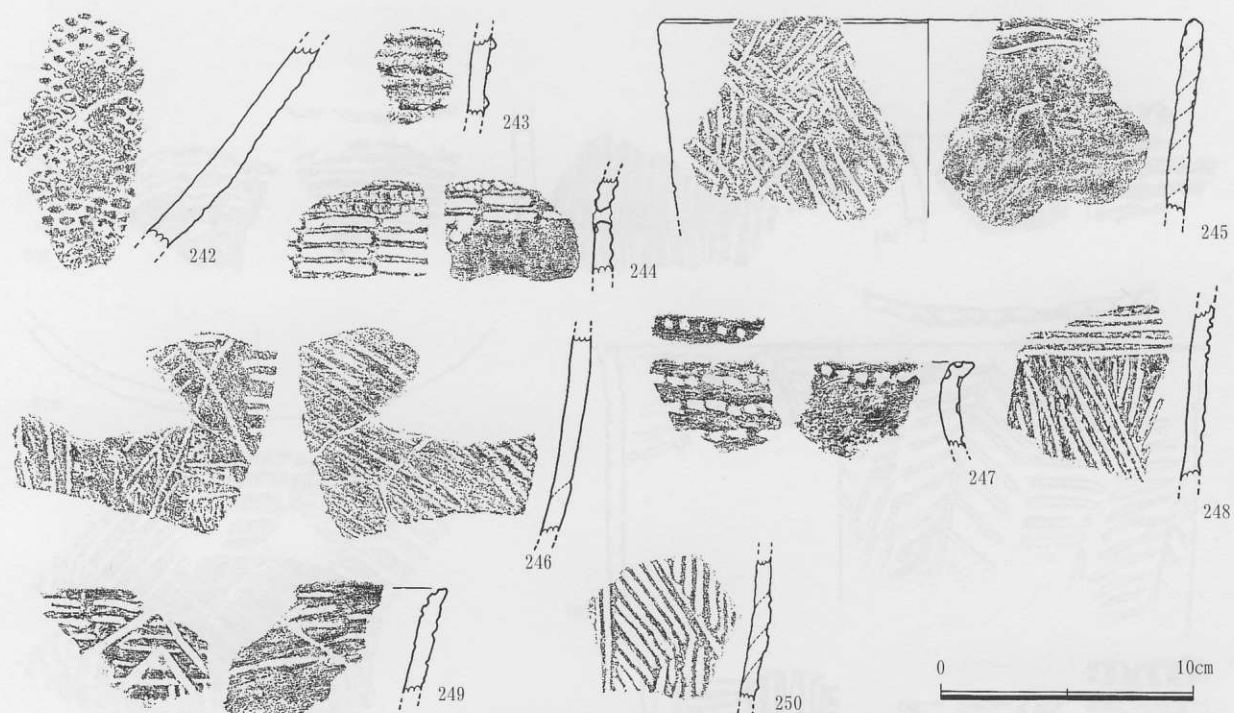
第51図 Bトレンチ第2貝層出土縄文土器 4 (1/3)



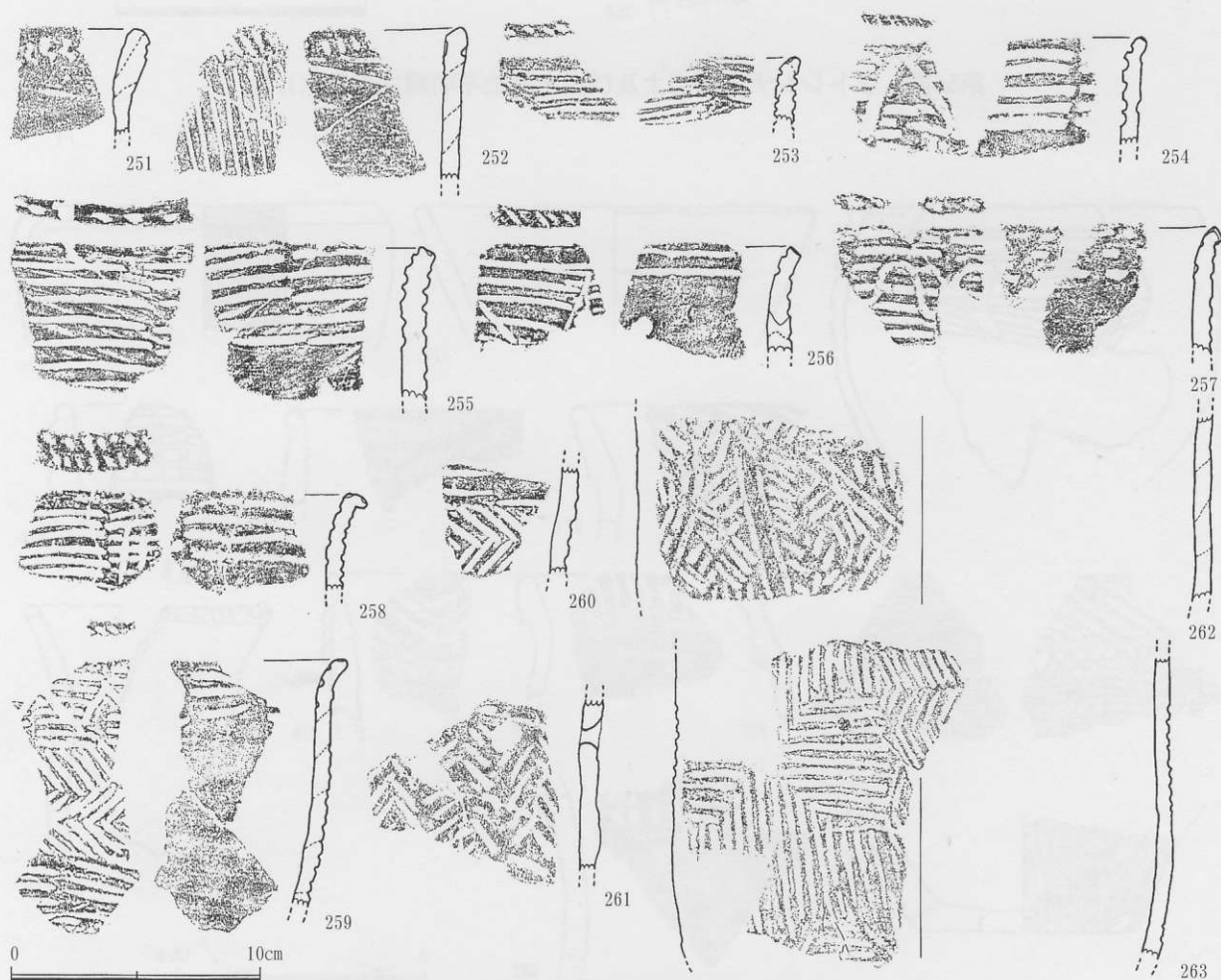
第52図 Bトレンチ第2貝層最下部出土縄文土器 1 (1/3)



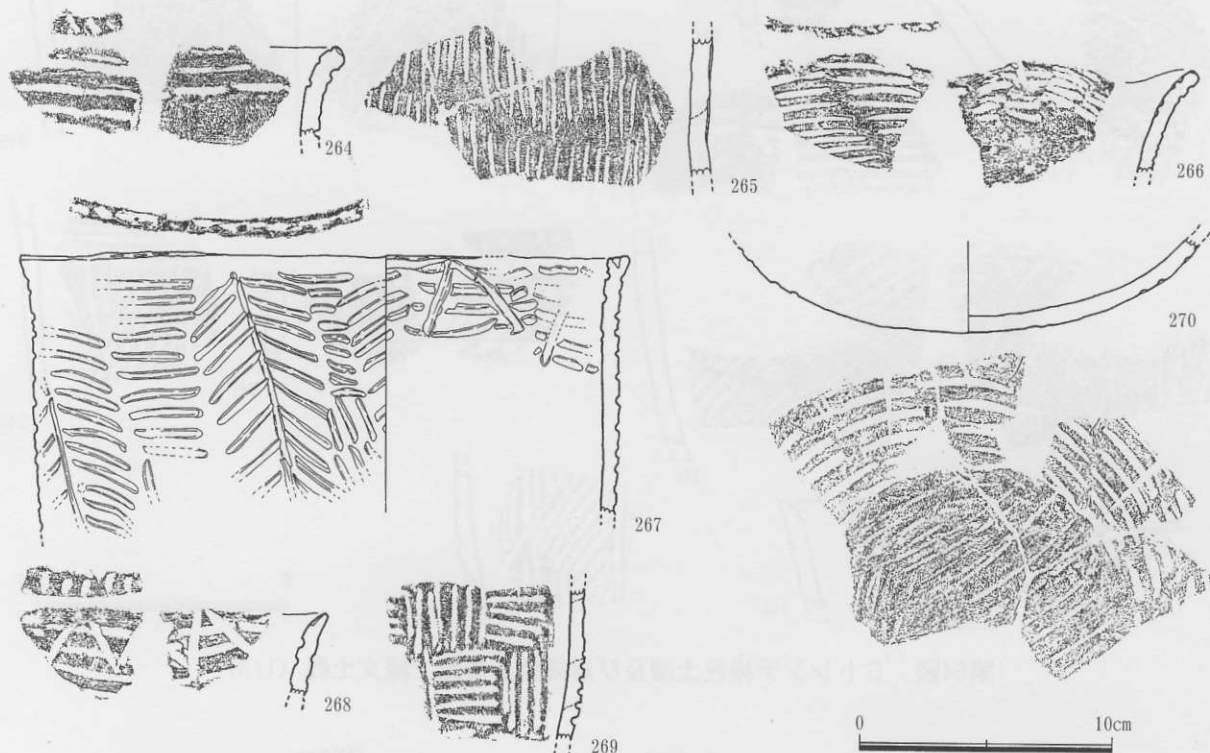
第53図 Bトレンチ第2貝層最下部出土縄文土器2 (1/3)



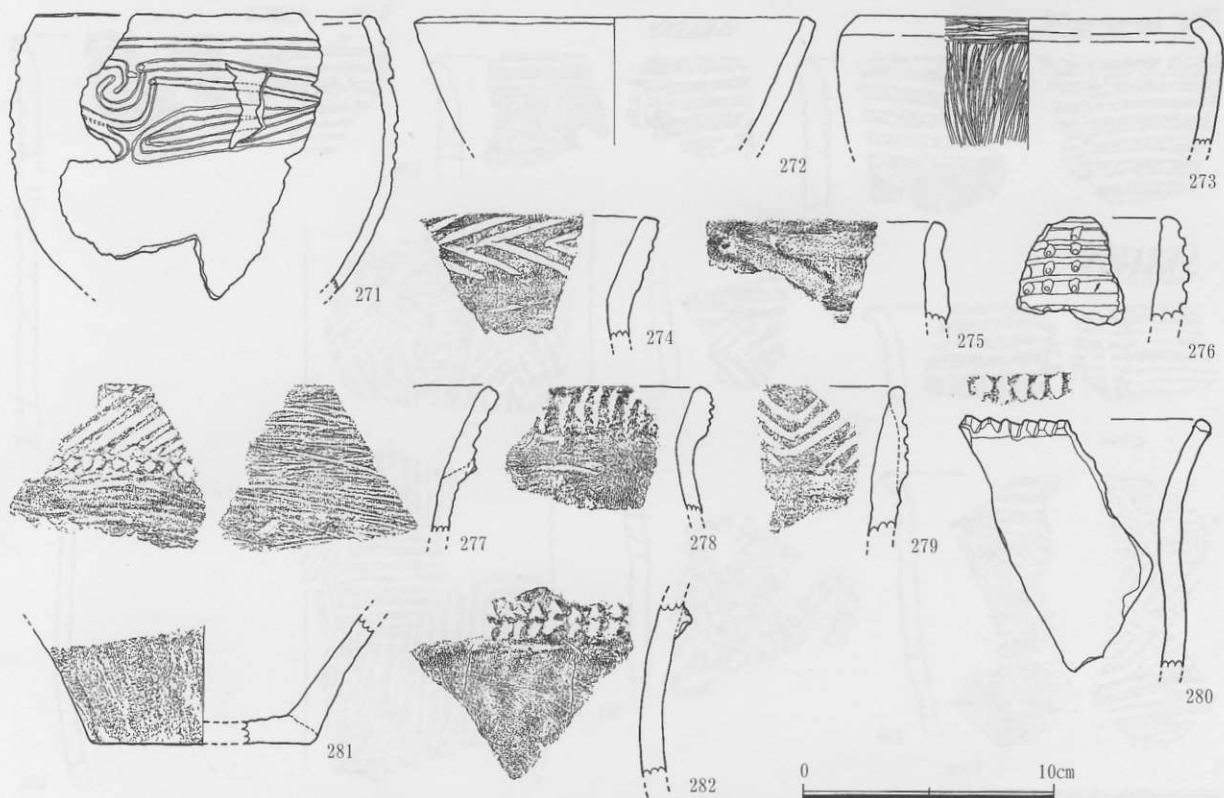
第54図 Bトレンチ褐色土層及び黒褐色土層出土縄文土器 (1/3)



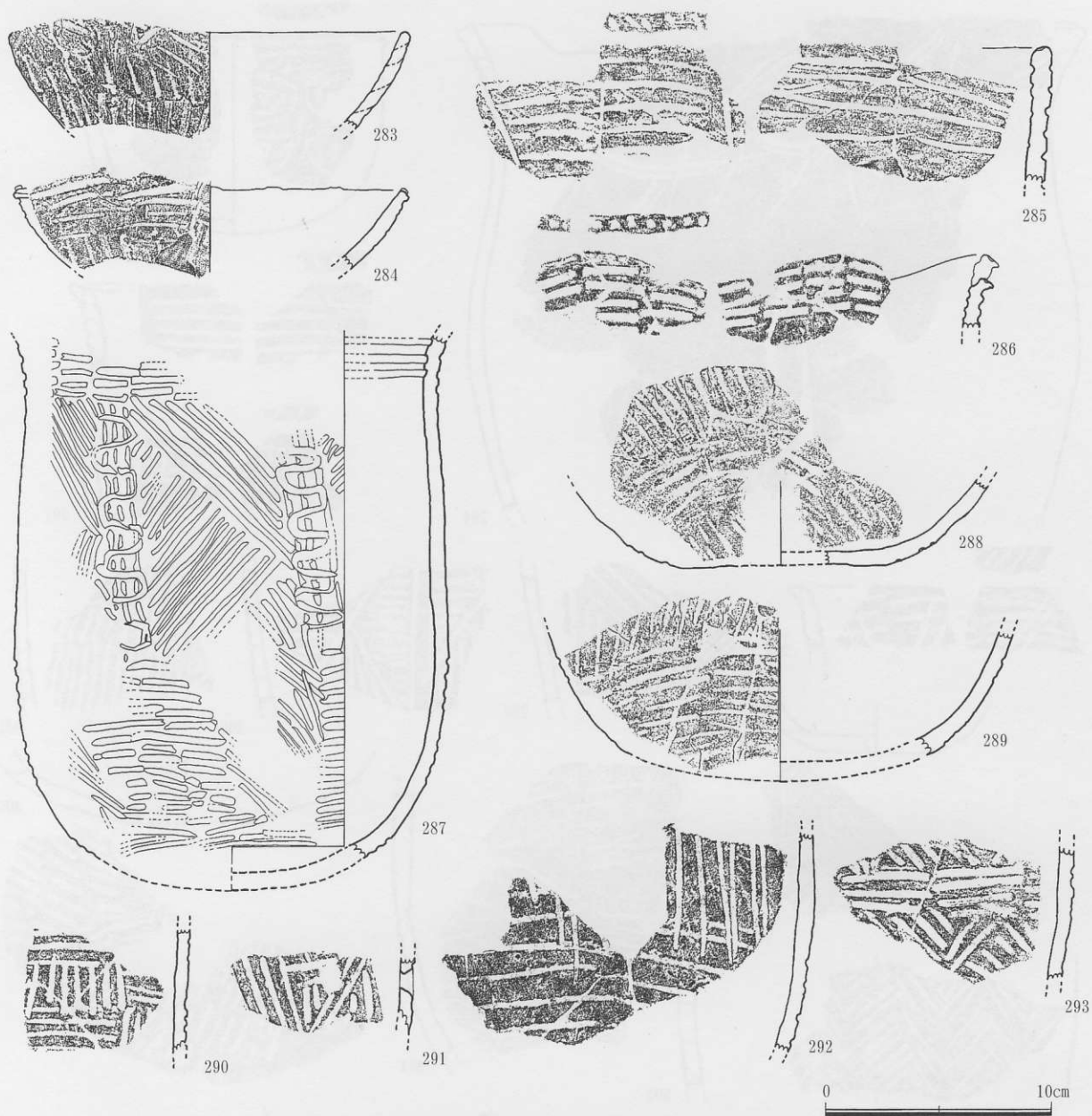
第55図 Bトレンチ貝層出土縄文土器 (1/3)



第56図 Bトレンチ貝層出土及び出土層位不明縄文土器 (1/3)



第57図 Cトレンチ第1貝層出土縄文土器 (1/3)



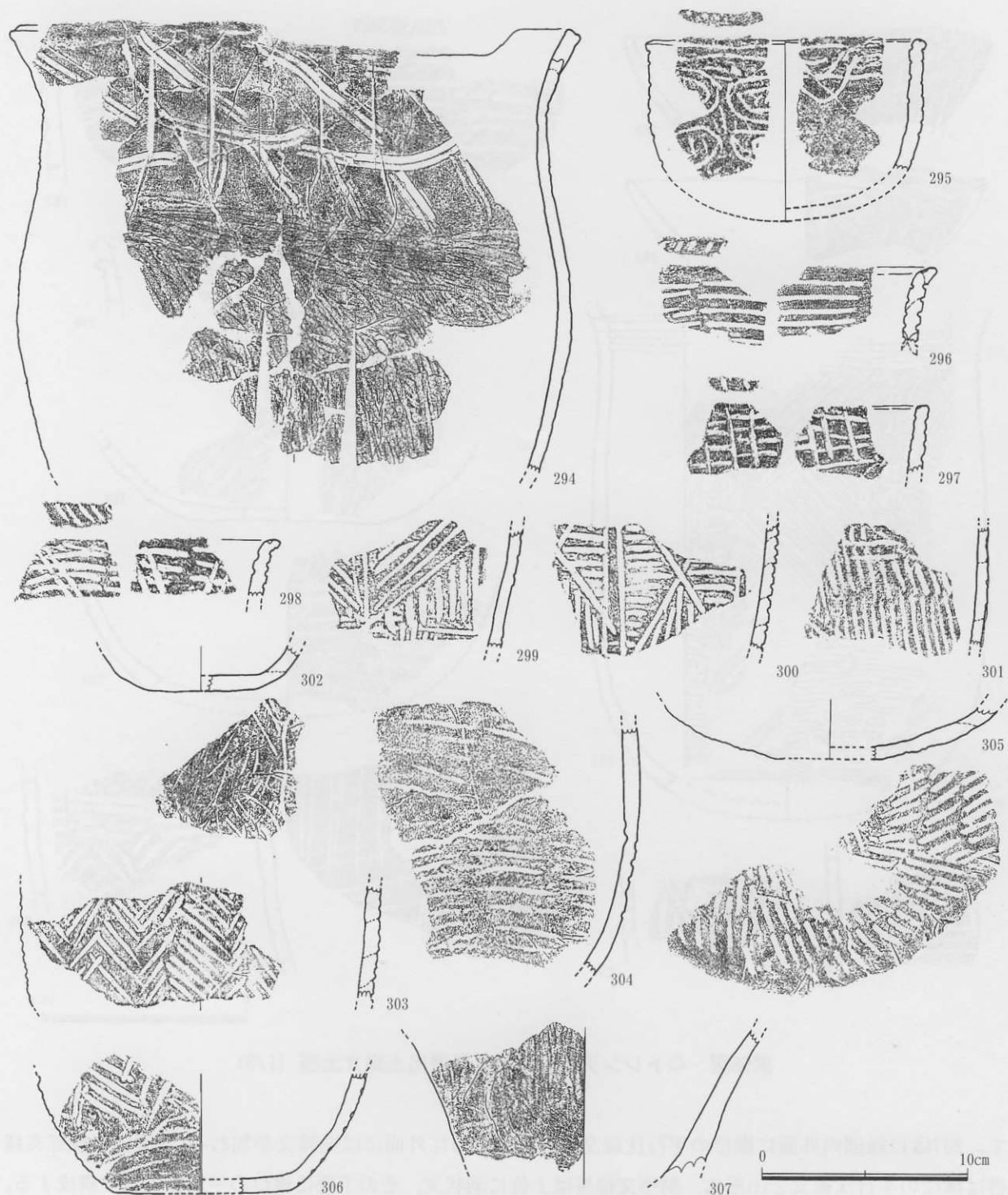
第58図 Cトレンチ礫層・第2貝層出土縄文土器 (1/3)

す。257は口縁部内外面に横位の平行沈線文を施し、さらに外面には曲線文が加わる。259の口縁部文様帯は横位の平行沈線文と山形文，胴部文様帯は上位に羽状文，その下部に横位の平行沈線文で構成する。262・263は中型深鉢の胴部で，263の胴部文様帯は羽状文や十字沈線文の空間部分を充填するように縦位や横位の沈線文を施す。266は波状口縁で，口縁部内外面に横位の平行沈線文を施す。267は中型の深鉢で，口縁部文様帯と胴部文様帯に区別がなく，綾杉文と平行沈線文を交互に施文する。270は底部で平行沈線文を施す。

(7) Cトレンチ出土の縄文土器

①第1貝層出土土器 (第57図)

271はV b類の浅鉢で，器形はボウル状を呈し，胴部上半部に鉤手沈線文を施す。272・273はVI類の土



第59図 Cトレンチ第2貝層出土縄文土器 (1/3)

器。272は無文の浅鉢で、ラッパ状に開き胴部からそのままの傾斜で口縁部にいたる。273は無文の鉢で、口縁部が内湾し、外面に丁寧なミガキを施す。

274～279はV b類の土器で、口縁部はいずれも肥厚する。274は口縁部に羽状文、276は沈線文と刺突列点文が施す。277は斜位の平行沈線文、その下部に突帯状の粘土紐を貼り付け、刺突列点文を施す。280はV a類で、口縁部は外反し、端部に刻目文を施す。281は深鉢の底部である。

②礫層・第2貝層出土土器 (第58図)

283～293はⅢ類の土器で、283・284は浅鉢、それ以外は深鉢である。283・284は外面に横位や縦位の平行沈線文を施す。285はⅢ a 4 類、286はⅢ d 2 類。287は中型の深鉢で、口縁端部と底部を欠損するが、全体の文様構成が判明する良好な資料である。口縁部内外面に横位の平行沈線文、胴部文様帯の上半分は一定間隔に縦位の平行沈線文とその上に曲線文を施文し、内部を斜位の沈線文で充填する。下部は主に横位の平行沈線文を施す。288・289は胴部から底部にかけての土器片で、丸底を呈し、平行沈線文を施文する。290～293は胴部片で、平行沈線文を施す。

③第2貝層出土土器 (第59図)

294はⅡ c 類の深鉢。丸みを帯びた胴部と外反する口縁部との間に頸部を形成し、条痕後に2本単位へのう状工具で横位や斜位の沈線文を施文する。

295～306はⅢ類の土器で、295は浅鉢、それ以外は深鉢とみられる。295は口縁部内外面、胴部に横位の平行沈線文や曲線文を施す。295はⅢ c 5 類、Ⅲ c 4 5 296はⅢ c 2 類、298はⅢ c 4 類、297はⅢ b 4 類である。299～306は胴部から底部の土器片で、300は胴部に縦位の沈線とX字文を施文し、内部を縦位と横位の平行沈線文で充填する。305はクモの巣状に短沈線文を施す。306は平底を呈し、胴部に綾杉文、底部に横方向の平行沈線文を施文する。307は深鉢の胴部から底部にかけての土器片である。

④黒色土層以下出土土器 (第60図)

308・309はⅡ b 3 類の深鉢。308は口縁部に弧状の隆起帯文、口縁部から胴部にかけて縦位、胴部に横位の隆起帯文を施す。

310～316はⅢ類の深鉢で、310・311はⅢ c 2 類である。310は大型の深鉢で、口縁部内外面に横位の平行沈線文、胴部に縦位と横位の平行沈線文で文様帯を構成する。315も大型の深鉢で、横位の平行沈線文間に充填三角文を施す。

⑤Cトレンチ (推定) 貝層直下出土土器 (第61～63図)

317～343はⅢ類の土器。319・324はⅢ b 2 類、323はⅢ c 2 類、317・320・322はⅢ c 4 類、321はⅢ c 5 類、318はⅢ d 2 類である。317は口縁部内面に横位の平行沈線文、外面には横位の平行沈線文と山形沈線文を施す。320は口縁部に穿孔を1ヶ所施す。321は中型の深鉢で、口縁部と胴部の文様帯に区別がなく、横位の平行沈線文を施文する。323も同様の文様構成とみられる。

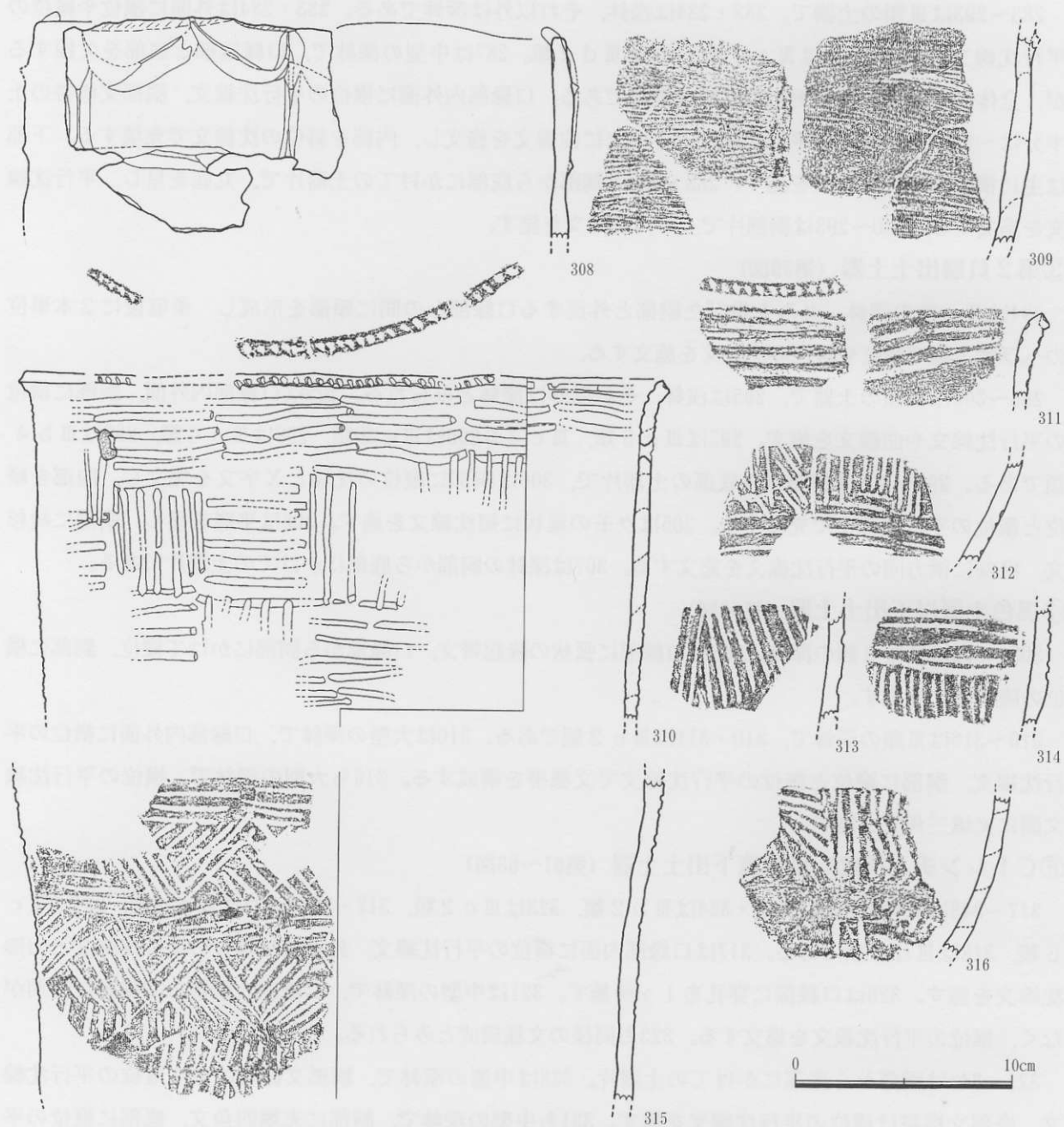
325～343は胴部から底部にかけての土器片。328は中型の深鉢で、胴部文様帯は主に縦位の平行沈線文、底部文様帯は横位の平行沈線文を施す。331も中型の深鉢で、胴部に充填四角文、底部に縦位の平行沈線文を施す。332は穿孔を1ヶ所所有し、充填四角文とみられる沈線文を施す。340・341は小型の深鉢で、340は底部に横位の平行沈線文を施す。343は横位の沈線文の間を縦位の平行沈線文で充填する。

(8) 出土トレンチ不明の縄文土器 (第64～67図)

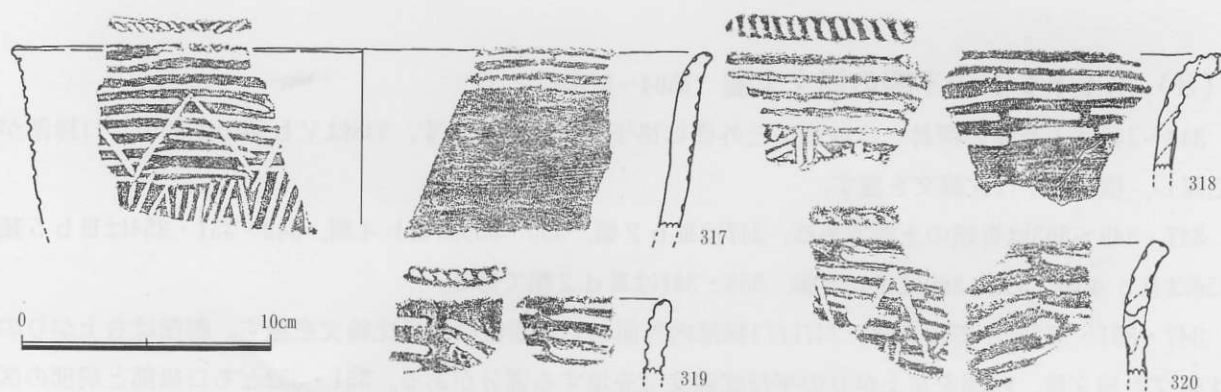
344～346はⅠ b 類の深鉢。口縁端部と外面に格子目押型文を施す。348はⅤ b 類の土器で、口縁部が肥厚し、横位の平行沈線文を施す。

347・349～363はⅢ類の土器である。347はⅢ b 2 類、350・355はⅢ b 4 類、349・351・354はⅢ b 5 類、356はⅢ c 4 類、352・360はⅢ c 5 類、353・361はⅢ d 2 類である。

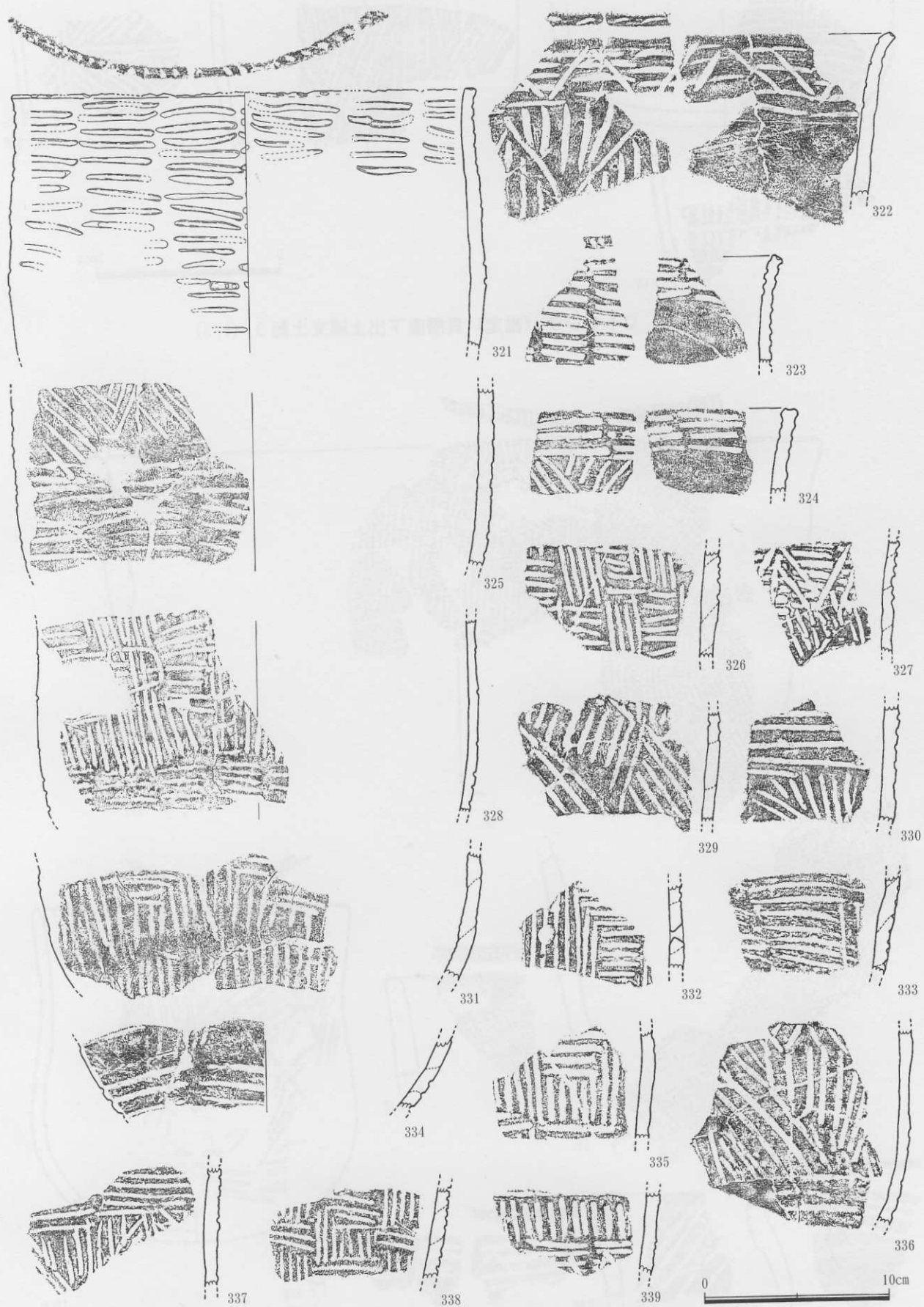
347・351・352は小型の深鉢。347は口縁部内外面ともに横位の平行沈線文を施す。胴部は右上がりの沈線文を施文後、内部を左上がりの平行沈線文で充填する部分がある。351・352とも口縁部と胴部の区別なく外面に横位の平行沈線文を施す。353・360・361は大型の深鉢。353は口縁部文様帯に平行沈線文、



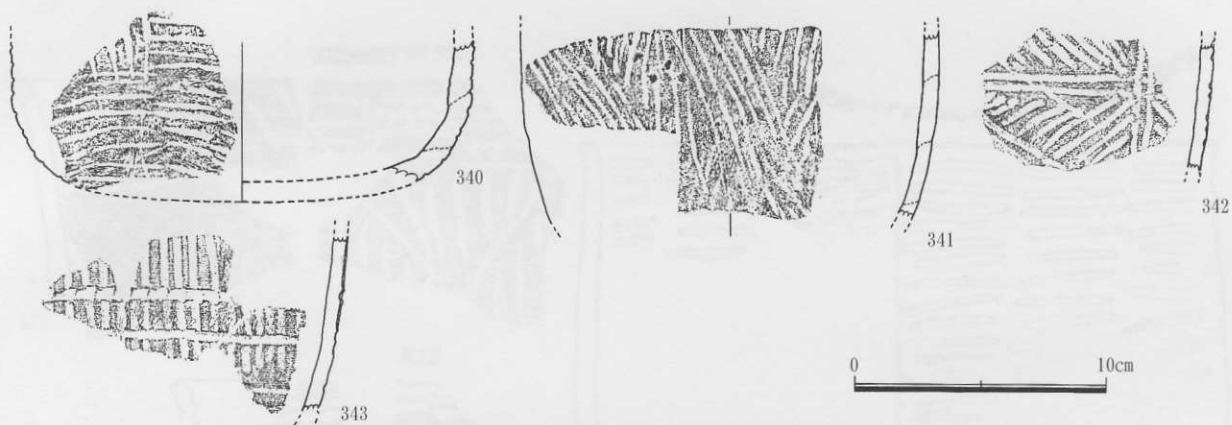
第60図 Cトレンチ黒色土層以下出土縄文土器 (1/3)



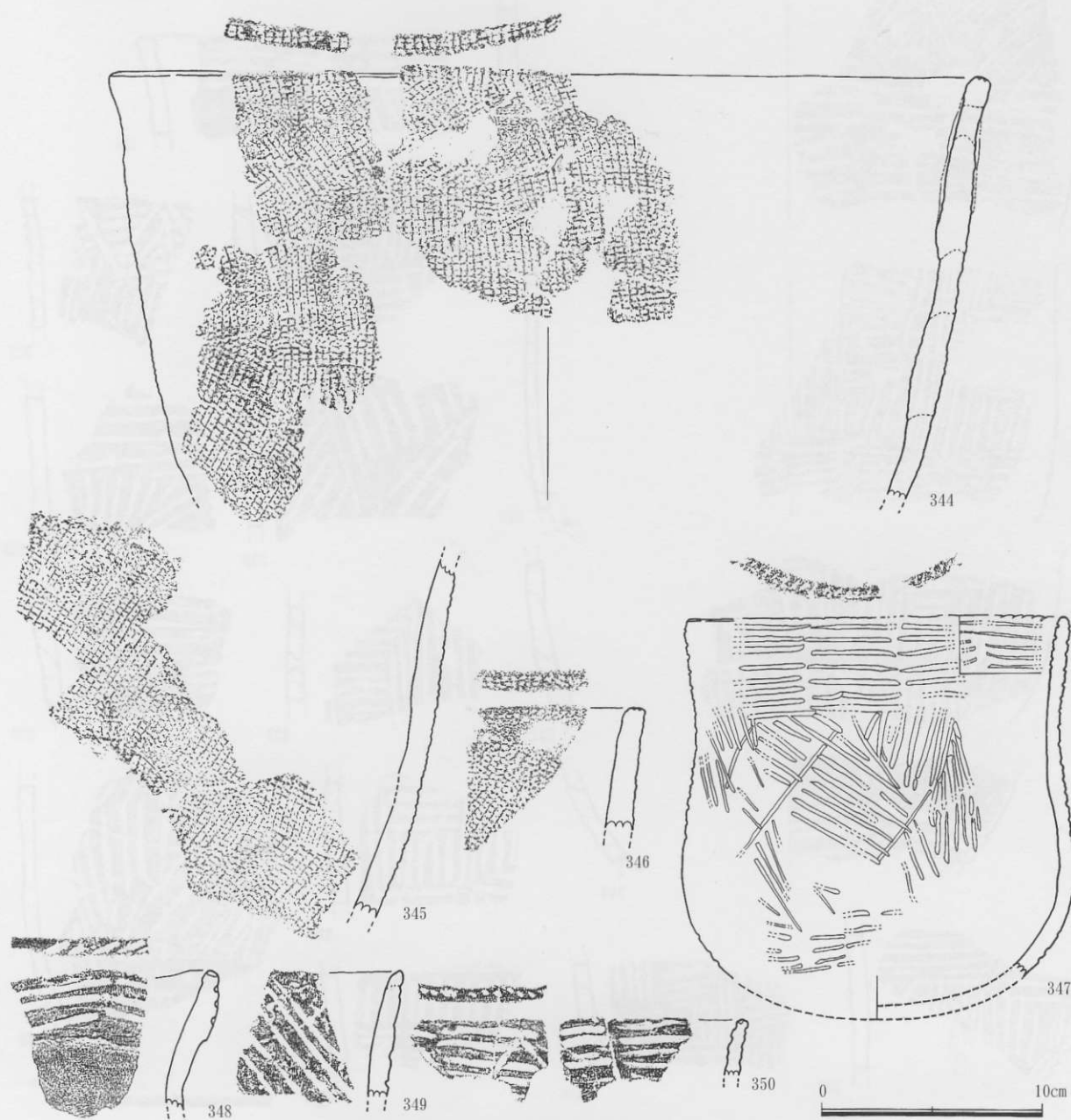
第61図 Cトレンチ（推定）貝層直下出土縄文土器 1 (1/3)



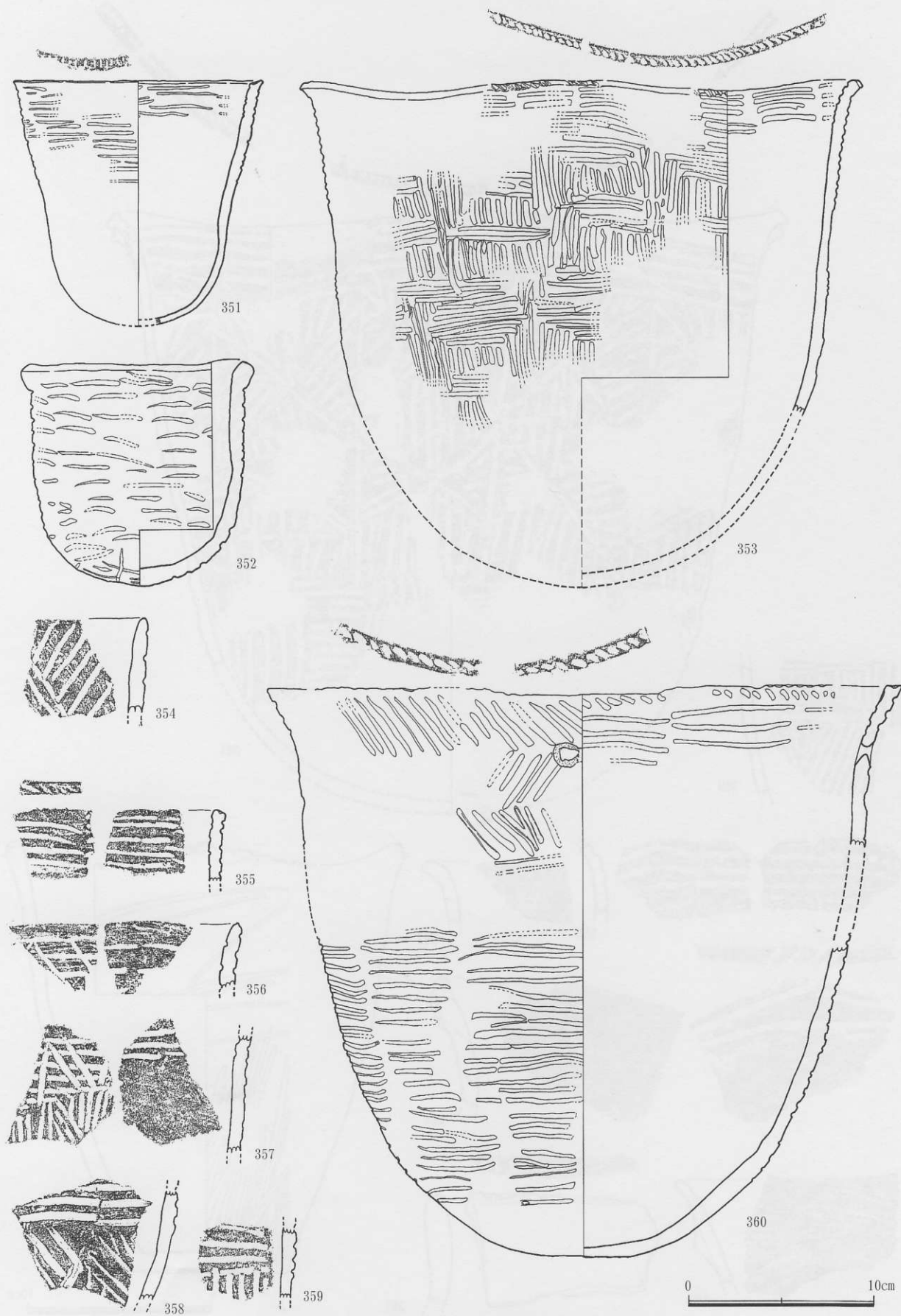
第62図 Cトレンチ（推定）貝層直下出土縄文土器2（1/3）



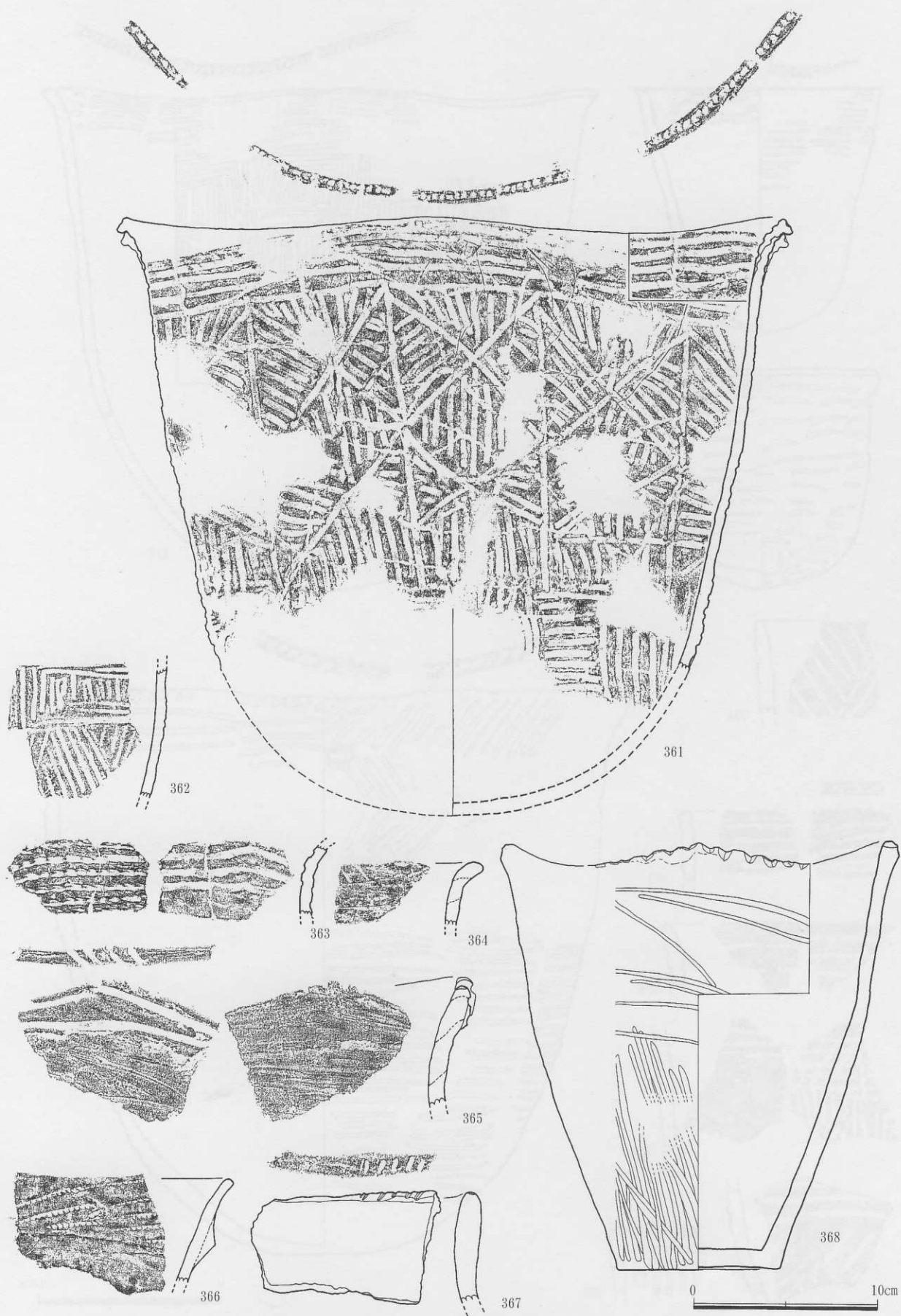
第63図 Cトレンチ（推定）貝層直下出土縄文土器 3 (1/3)



第64図 出土トレンチ不明縄文土器 1 (1/3)



第65図 出土トレンチ不明縄文土器 2 (1/3)



第66図 出土トレンチ不明縄文土器 3 (1/3)

胴部文様帯に充填四角文を施文する。360は口縁部外面から胴部上面にかけて羽状文を施し、それ以下は横位の平行沈線文を施す。361は口縁部内外面に平行沈線文、胴部上半は縦位にほぼ等間隔の沈線を施文後、X字文で区画し、内部を平行沈線文で充填する。胴部下半は縦位と横位の沈線文を施す。

365はIV b類、366はIV a類、367・368はV a類、369・370はVI類の土器である。365は波状口縁を呈し、口縁部を肥厚させる。366は口縁部に粘土帯を貼り付け、断面が「くの字」状を呈し、外面に刺突文を施す。368は深鉢で波状口縁を呈し、口縁端部に刻み目を施し、胴部から底部にかけてやや粗いミガキを施す。369は鉢で、器壁が厚く、外面にハケメを施す。370は無文の深鉢で、内面に丁寧なミガキを施す。372・373はV類で、372は外面に鉤手文を施文し、口縁部に穿孔が1ヶ所ある。373は口縁部と胴部の境が屈曲しており、外面に磨消縄文を施す。374はV a類の胴部片であり、鉤手文を施す。

第3節 石器・石製品・貝製品

(1) 出土した石器・石製品・貝製品の概要

曾畑貝塚から出土した石器は、石鏃、石匙、削器、石錘、磨製石斧、石製垂飾、円盤状石器、棒状石器、研磨痕のある石器などである。石材については、石鏃は黒曜石が多く、石匙や削器は安山岩や粘板岩が多い。それ以外の石器には、安山岩や蛇紋岩、砂質や泥質のホルンフェルスなどを石材として用いている。また、石器や石製品以外に斧足類（二枚貝）製の貝輪片が出土した。

(2) Aトレンチ出土の石器・石製品（第68・69図）

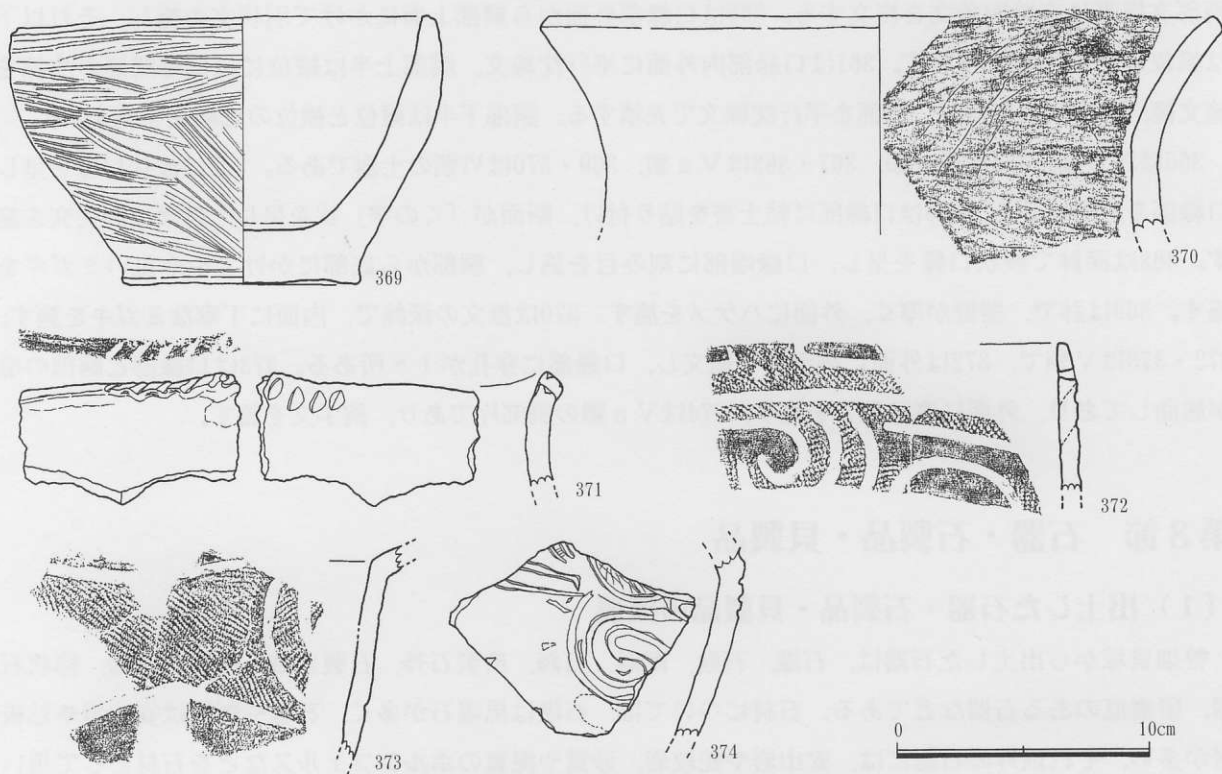
375～378は石鏃である。石材は376が流紋岩、それ以外は黒曜石を用いる。375・376は先端部を欠損した有茎石鏃で、376は大型品である。377も有茎石鏃で、茎先端部が欠損するが、ほぼ完形品である。石材は黒曜石を用いる。378は黒曜石の無茎石鏃で、基部の一部を欠損する。379は安山岩の削器である。380～384は磨製石斧。380は珪岩製の小型品で、刃部が頭部にくらべて幅広く、台形状を呈する。381は蛇紋岩製の小型品で、刃部はやや丸みを帯び、体部は扁平で、丁寧な研磨が施されている。382は刃部から体部中央付近が残存するもので、石材は玢岩の可能性もある。383は刃部を欠損するもの、384は刃部及び頭部を欠く。

385・386は円盤状石器。385は扁平な円盤状を呈し、周囲を打ち欠いており、石材は泥岩ホルンフェルスとみられる。386もほぼ同様の形状を呈するが、片面に浅い窪みがある。石材は安山岩である。387は石製垂飾で、穿孔部分から欠損しており、表面は丁寧に研磨されている。388は用途不明の研磨痕がある石器。粘板岩製で、端部は丸みを帯びている。389も同様に用途不明の玢岩製とみられる棒状石器で、表面は丁寧に研磨されている。

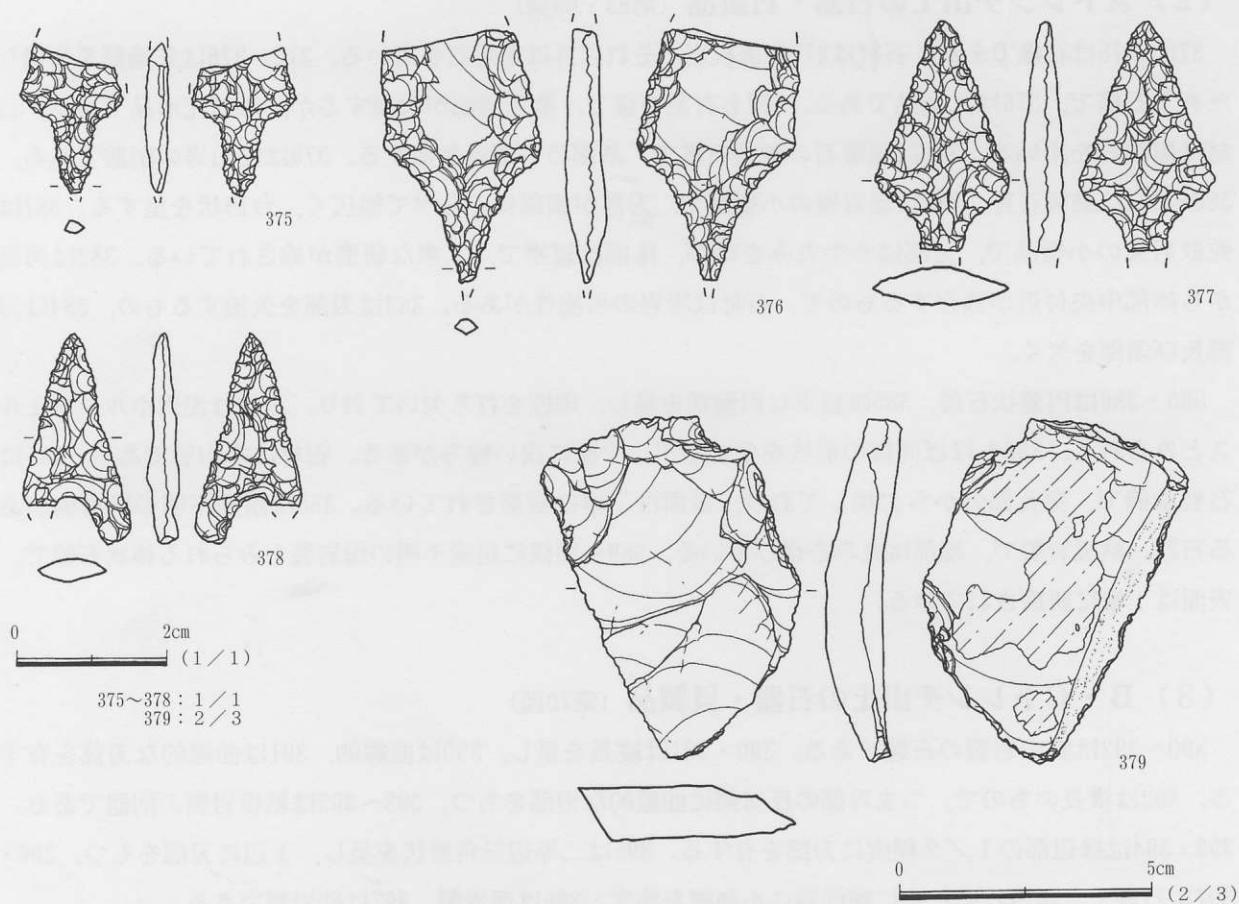
(3) B・Cトレンチ出土の石器・貝製品（第70図）

390～392は安山岩製の石匙である。390・391は縦長を呈し、390は直線的、391は曲線的な刃部を有する。392は横長のもの、つまみ部の反対側に曲線的な刃部をもつ。393～395は粘板岩製の削器である。393・394は縁辺部の1/2程度に刃部を有する。395は二等辺三角形を呈し、1辺に刃部をもつ。396・397は石錘で、紐掛けのために礫両端に小剥離を施す。396は泥岩製、397は砂岩製である。

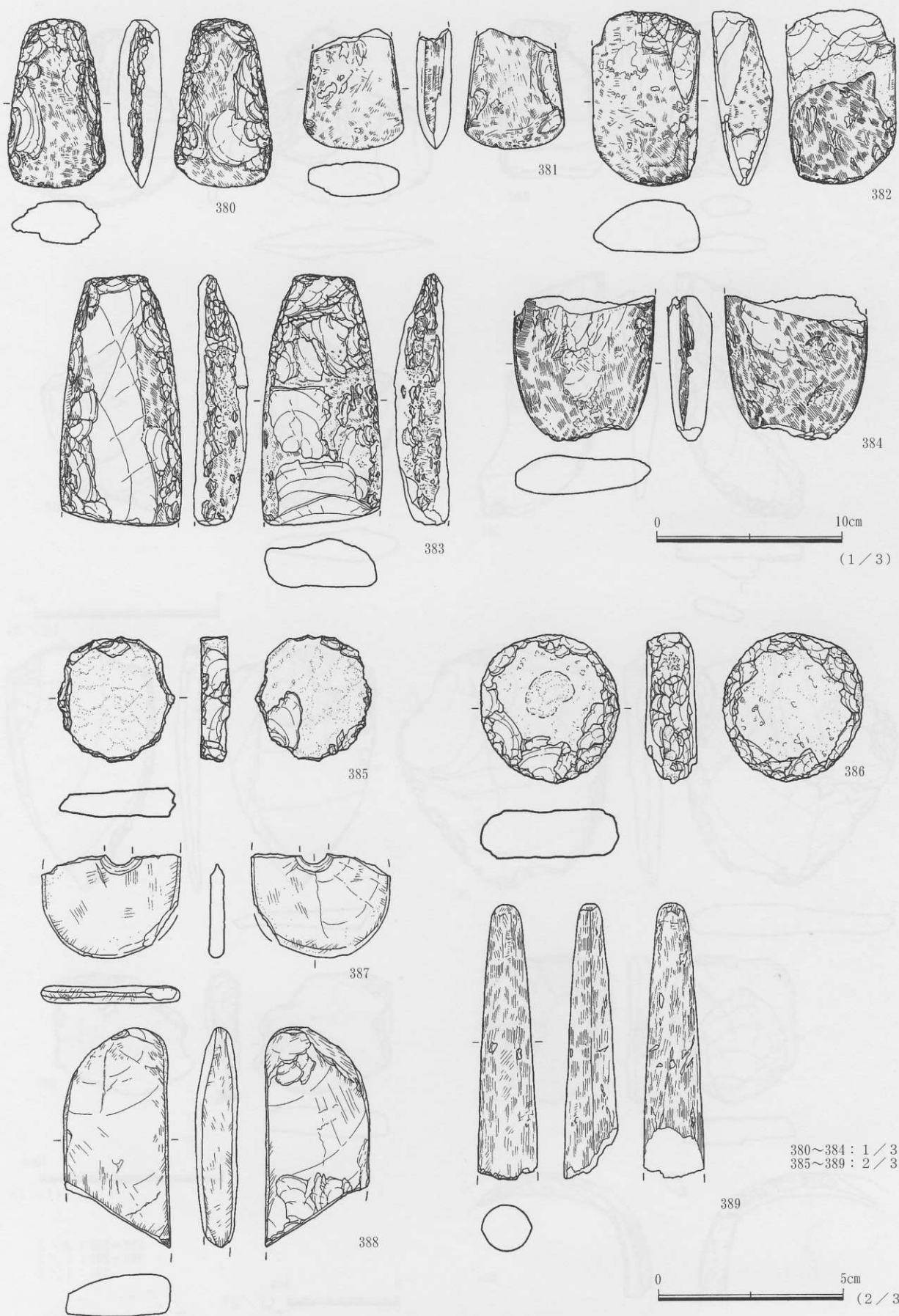
398は貝輪で、斧足類（二枚貝）の縁辺部を利用して製作されており、表面は丁寧に研磨を施す。



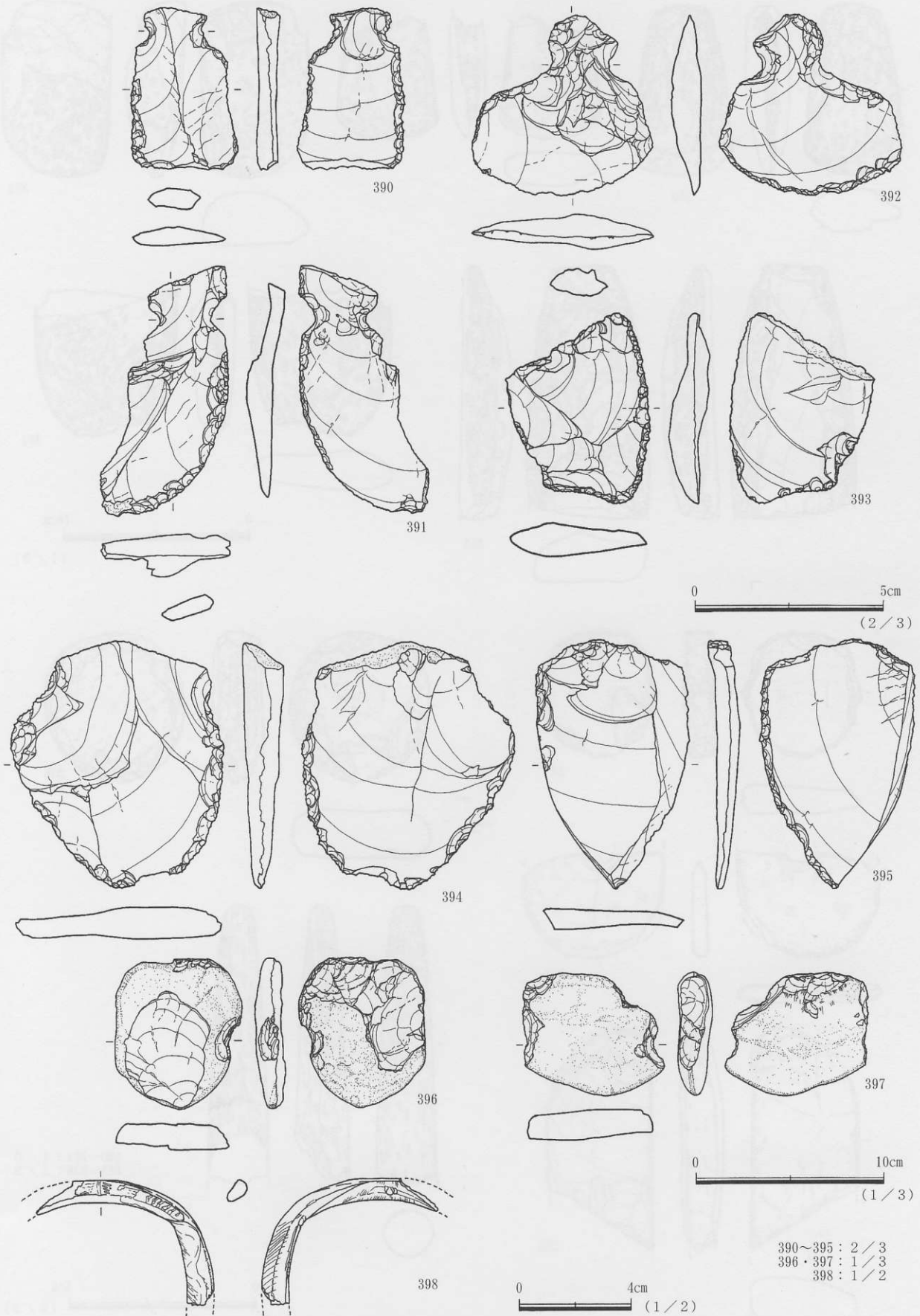
第67図 出土トレンチ不明縄文土器 4 (1/3)



第68図 Aトレンチ出土石器 (2/3, 1/1)



第69図 Aトレンチ出土石器・石製品 (1/3, 2/3)



第70図 B・Cトレンチ出土石器・貝製品 (1/3, 1/2, 2/3)

第1表 縄文土器・土製品観察表（カッコ内の数字は復元値）

挿図 番号	実測 番号	調査 地点	層位	分類	器種	残存部位	器面調整 (内面/外面)	文様 (内面/外面/口縁端部)	色調 (内面/外面)	胎土	焼成	口径/ 底径 (cm)	残存高 (cm)	備考
1	289	A1-1	攪乱層	II b1 深鉢	口縁~胴部	条痕→ナデ/ナデ	—/沈線文/—	—	にぶい黄橙(10YR7/3)/褐灰(10YR4/1)	角閃石・砂粒・長石・石英	良好		9.1	
2	68	A1-1	攪乱層	II b2 深鉢	胴部	条痕/条痕→ナデ	—/隆起帯文/—	—	黒褐(7.5YR3/1)/灰褐(7.5YR4/2)	粗砂粒(1mm)	良好		3.6	
3	41	A1-1	攪乱層	III b1 深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	刺突列点文/刺突列点文、沈線文/刺突列点文	—	灰黄褐(10YR5/2)/にぶい褐(7.5YR6/3)	長石・角閃石	良好		5.7	
4	159	A1-3	表土層	III b5 深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	—/沈線文/刺突列点文	—	にぶい褐(7.5YR5/3)/にぶい褐(7.5YR5/3)	石英・長石・角閃石・砂粒	良好		4.9	外器面に煤付着
5	160	A1-3	表土層	III b5 深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	—/沈線文/刺突列点文	—	にぶい褐(7.5YR6/3)/褐灰(7.5YR4/1)	石英・長石・角閃石・砂粒	良好		3.7	4と同一個体か
6	338	A1-2	表土層	III 深鉢	胴部	ナデ/ナデ	—/沈線文/—	—	灰黄褐(10YR6/2)/褐灰(10YR5/1)	長石・角閃石	良好		7.6	
7	152	A1-1	攪乱層	III 深鉢	胴部	ナデ/ナデ	—/刺突列点文、沈線文/—	—	灰褐(7.5YR6/2)/褐灰(7.5YR4/1)	石英・長石・角閃石・砂粒	良好		6.4	
8	176	A1-1	攪乱層	V b 鉢	口縁部	ミガキ/ミガキ	—/縄文、沈線文/—	—	にぶい黄橙(10YR7/2)/浅黄橙(10YR8/3)	石英・長石・角閃石	良好		6.3	
9	44	A1	表土層	深鉢	胴~底部	ナデ/ナデ	—/—/—	—	にぶい赤褐(5YR5/4)/にぶい赤褐(5YR5/4)	長石・角閃石	良好	(12.4)	6.0	
10	266	A1-1	攪乱層	IV 台付鉢?	脚部	ケズリ、ナデ/ナデ	—/縄文、刺突列点文、凹線文/—	—	黒褐(7.5YR5/1)/にぶい橙(7.5YR7/3)	長石・角閃石(微細粒)	良好	(12.8)	4.6	一部に赤色顔料有
11	164	A1-3	第1貝層	III 深鉢	胴部	条痕→ナデ/ナデ	—/沈線文/—	—	橙(5YR6/6)/橙(2.5YR6/6)	石英・角閃石・砂粒	良好		6.8	
12	371	A1-3	第1貝層	円形土製品	—	ナデ	—/—/—	—	灰黄褐(10YR5/2)/にぶい黄褐(10YR5/3)	粗砂粒(1mm)	良好	(6.7)	1.7	用途不明
13	53	A1-3	礫層	V b 深鉢	口縁~頸部	ケズリ→ナデ/ミガキ	—/沈線文、刺突列点文/—	—	にぶい黄橙(10YR6/3)/褐灰(10YR4/1)	角閃石・雲母・細砂~礫粒(1~2mm)	良好	(31.0)	11.7	外器面に煤付着
14	64	A1-5	礫層	III c4 深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	沈線文/沈線文/刻目文	—	にぶい黄橙(10YR7/3)/にぶい黄橙(10YR7/3)	石英・角閃石(微細粒)	良好		5.7	
15	157	A1-3	礫層	III c4 深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	沈線文/沈線文/沈線文	—	にぶい黄橙(10YR6/3)/にぶい橙(10YR6/4)	礫粒(3mm)・石英(微細粒)・長石・角閃石	良好		5.2	
16	175	A1-5	礫層	III a4 深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	沈線文/沈線文/刻目文	—	にぶい橙(7.5YR6/4)/にぶい橙(5YR6/4)	石英	良好		3.6	
17	281	A1-4	礫層	III c2 深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	押引文/沈線文/刺突列点文	—	にぶい黄橙(10YR6/3)、褐色(10YR4/1)/にぶい黄橙(10YR7/4)	長石・角閃石・石英・滑石を僅かに含む	良好		4.0	
18	16	A1-4	第2貝層	III a2 深鉢	口縁~胴部	ナデ/ナデ	沈線文/沈線文/刺突列点文	—	にぶい黄橙(10YR7/3)/にぶい橙(7.5YR7/4)	角閃石	良好	(21.0)	9.9	
19	22	A1-4	第2貝層	III c2 深鉢	口縁~胴部	ナデ/ナデ	沈線文/沈線文/刺突列点文	—	にぶい黄橙(10YR7/4)/にぶい橙(7.5YR7/4)/にぶい黄橙(10YR7/3)	粗砂粒(1mm)	良好	(18.2)	8.5	
20	147	A1-4	第2貝層	III a4 深鉢	口縁~胴部	ナデ/ナデ	沈線文/沈線文/刻目文	—	にぶい橙(7.5YR7/4)/灰褐(7.5YR5/2)	石英・長石・角閃石・雲母	良好	(35.7)	10.9	
21	181	A1-2	第2貝層	III c2 深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	—/沈線文/—	—	褐灰(7.5YR4/1)/にぶい橙(5YR6/3)	石英・長石・角閃石	良好		2.9	
22	178	A1-2	第2貝層	III b2 深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	—/沈線文/—	—	にぶい赤褐(5YR5/4)/褐灰(5YR5/1)	石英・長石	良好		3.1	
23	144	A1-4	第2貝層	III b2 深鉢	口縁~胴部	ナデ/ナデ	—/沈線文/刺突列点文	—	にぶい黄橙(10YR7/4)/にぶい黄橙(10YR6/3)	長石・角閃石・砂粒	良好	(27.6)	13.2	
24	166	A1-3	第2貝層	III b4 深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	沈線文、刺突列点文/沈線文、刺突列点文/刺突列点文	—	にぶい橙(7.5YR7/4)/橙(5YR7/6)	石英・砂粒	良好		3.6	
25	272	A1-3	第2貝層	III b2 深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	沈線文/沈線文/刺突列点文	—	灰褐(7.5YR5/2)/灰褐(7.5YR5/2)	砂粒・長石・角閃石	良好		4.0	

第2表 縄文土器観察表1

挿図 番号	実測 番号	調査 地点	層位	分類	器種	残存部位	器面調整 (内面/外面)	文様 (内面/外面/口縁端部)	色調 (内面/外面)	胎土	焼成	口径/ 底径 (cm)	残存高 (cm)	備考
26	26	A1-4	第2貝層	Ⅲ c2	深鉢	口縁~胴部	ケズリ→ナデ/ナデ	沈線文/沈線文/刺突列点文	橙(5YR7/6)/橙(5YR7/6)	石英・長石・細砂~礫粒(1~4mm)	良好	(24.8)	9.9	
27	103	A1-2	第2貝層	Ⅲ c2	深鉢	口縁~胴部	ナデ/ナデ	沈線文/沈線文/刺突列点文	灰黄褐(10YR5/2)/褐灰(10YR4/1)	長石・角閃石	良好		10.0	内器面に煤付着
28	12	A1-3	第2貝層	Ⅲ b4	深鉢	口縁部	条痕→ナデ/ナデ	沈線文/沈線文/—	橙(5YR6/6)/にぶい橙(5YR6/4)	石英・長石・角閃石・礫粒(3~5mm)	良好	(31.4)	7.1	外器面に煤付着
29	165	A1-2	第2貝層	Ⅲ c3	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	沈線文, 刺突列点文/沈線文, 刺突列点文/刺突列点文	にぶい褐(7.5YR6/3)/褐灰(7.5YR5/1)	長石・石英	良好		2.7	
30	335	A1-3	第2貝層	Ⅲ b4	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	沈線文/沈線文/—	橙(5YR6/6)/にぶい橙(5YR6/4)	長石・角閃石	良好		2.8	
31	253	A1-5	第2貝層	Ⅲ c4	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	沈線文/沈線文/刺突列点文	にぶい赤褐(5YR4/3)/にぶい赤褐(5YR4/3)	滑石をきわめて多量に含む	良好	(26.9)	5.7	
32	316	A1-4	第2貝層	Ⅲ c4	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	沈線文, 刺突列点文/沈線文/—	灰黄褐(10YR6/2)/にぶい橙(7.5YR6/4)	粗砂粒(1mm)・角閃石	良好		4.5	
33	264	A1-4	第2貝層	Ⅲ c4	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	沈線文/沈線文/刻目文	灰黄褐(10YR5/2)/にぶい黄橙(10YR6/3)	長石・角閃石・石英	良好		3.6	外器面に煤付着
34	295	A1-2	第2貝層	Ⅲ d4	深鉢	口縁~頸部	ナデ/ナデ	沈線文, 刺突連点文/沈線文/刻目文	灰黄褐(10YR6/2)/褐灰(10YR6/1)	長石(微細粒)	良好		5.1	
35	186	A1-2	第2貝層	Ⅲ c4	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	沈線文/沈線文/刻目文	にぶい黄橙(10YR7/3)/にぶい黄橙(10YR6/3)	長石・粗砂粒(1mm)	良好		5.6	器形の歪みが著しい
36	271	A1-3	第2貝層	Ⅲ d4	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	沈線文/沈線文/刻目文	灰褐(7.5YR4/2)/褐(7.5YR4/3)	石英・長石・角閃石・滑石	良好		4.2	穿孔有(1箇所)
37	163	A1-3	第2貝層	Ⅲ	深鉢	頸~胴部	ケズリ→ナデ/ナデ	沈線文/沈線文/—	にぶい黄橙(10YR7/2)/にぶい黄橙(10YR7/3)	長石・石英・角閃石	良好		5.2	
38	244	A1-4	第2貝層	Ⅲ	深鉢	口縁~胴部	条痕→ナデ/ナデ	沈線文/沈線文/—	にぶい橙(5YR6/4)/にぶい橙(5YR6/4)	石英・砂粒・長石	良好	(29.2)	11.1	
39	279	A1-5	第2貝層	Ⅲ	深鉢	胴部	ケズリ→ナデ/ナデ	—/沈線文/—	にぶい黄橙(10YR7/3)/にぶい橙(7.5YR7/4)	長石・角閃石・砂粒・滑石を僅かに含む	良好		7.9	
40	247	A1-3	第2貝層	Ⅲ	深鉢	胴部	ナデ/ナデ	—/沈線文/—	にぶい褐(7.5YR6/3)/褐灰(7.5YR5/1)	長石・角閃石	良好		12.1	
41	18	A1-3	第2貝層	Ⅲ	深鉢	頸部~胴部	ケズリ→ナデ/ナデ	沈線文/沈線文/—	にぶい褐(7.5YR5/4)/灰褐(5YR4/2)	礫粒(2~3mm)・長石・角閃石・石英	良好		8.0	
42	105	A1-3	第2貝層	Ⅲ	深鉢	胴部	ナデ/ナデ	—/沈線文/—	にぶい褐(7.5YR5/3)/灰褐(7.5YR5/2)	石英・長石・角閃石・砂粒	良好	(24.2)	7.5	
43	129	A1-4	第2貝層	Ⅲ	深鉢	胴部	ナデ/ナデ	—/沈線文/—	にぶい黄橙(10YR7/3)/にぶい黄橙(10YR7/4)	長石・角閃石(微細粒)	良好		9.6	
44	113	A1-2	第2貝層	Ⅲ	深鉢	胴部	条痕→ナデ/ナデ	—/沈線文/—	にぶい褐(7.5YR6/3)/褐灰(7.5YR4/1)	長石(微細粒)	良好		6.8	
45	171	A1-3・4	第2貝層	Ⅲ	深鉢	胴部下半	条痕→ナデ/条痕→ナデ	—/沈線文/—	にぶい橙(5YR6/4)/にぶい橙(5YR6/4)	石英・長石(微細粒)	良好		7.8	
46	130	A1-3	第2貝層	Ⅲ	深鉢	胴部	ナデ/ナデ	—/沈線文/—	にぶい橙(10YR6/4)/にぶい橙(10YR6/4)	石英・長石・角閃石	良好		4.7	外器面に煤付着
47	241	A1-4	第2貝層	Ⅲ	深鉢	胴~底部	条痕→ナデ/ナデ	—/沈線文/—	にぶい褐(7.5YR6/3)/にぶい橙(5YR6/4)	石英・砂粒・長石	良好	(18.3)	7.3	
48	245	A1-3・4	第2貝層	Ⅲ	深鉢	底部	ナデ/ナデ	—/沈線文/—	にぶい黄橙(10YR7/3)/にぶい橙(7.5YR7/3)	石英・砂粒・角閃石・長石	良好	(12.5)	2.6	
49	223	A1-5	第2貝層最下部	Ⅲ c5	深鉢	口縁~胴部	ナデ/ナデ	沈線文/沈線文/—	灰褐(7.5YR6/2)/灰褐(5YR4/2)	石英・長石・角閃石	良好	(40.2)	16.4	外器面に煤付着
50	174	A1-3・4	第2貝層最下部	Ⅲ c4	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	沈線文/沈線文/刻目文	にぶい黄橙(10YR7/3)/灰褐(7.5YR5/2)	石英・砂粒	良好		4.3	

第3表 縄文土器観察表2

挿図 番号	実測 番号	調査 地点	層位	分類	器種	残存部位	器面調整 (内面/外面)	文様 (内面/外面/口縁端部)	色調 (内面/外面)	胎土	焼成	口径/ 底径 (cm)	残存高 (cm)	備考
51	110	A1-4	第2貝層最下部	Ⅲ a4	深鉢	口縁→胴部	ケズリ→ナデ/ナデ	沈線文/沈線文/ー	にぶい黄橙(10YR7/3)/にぶい黄橙(10YR7/4)	石英・砂粒・角閃石	良好		7.6	
52	278	A1-5	第2貝層最下部	Ⅲ	深鉢	胴部	ナデ/ナデ	ー/沈線文/ー	にぶい黄橙(10YR7/3)/にぶい黄橙(7.5YR7/4)	石英・角閃石	良好		8.0	外器面に煤付着
53	220	A1-4	第2貝層最下部	Ⅲ	深鉢	頸→胴部	ケズリ→ナデ/ナデ	沈線文/沈線文/ー	にぶい橙(7.5YR7/4)/にぶい橙(7.5YR7/4)	砂粒・石英・長石・角閃石	良好		7.0	
54	308	A1-4	第2貝層最下部	Ⅲ c4	深鉢	口縁→胴部	条痕→ナデ/ナデ	沈線文/沈線文/刻目文	にぶい黄橙(10YR7/3)/にぶい黄橙(10YR7/4)	角閃石・長石・石英・砂粒	良好	(24.1)	18.8	
55	248	A1-5	第2貝層最下部	Ⅲ	深鉢	胴部	ケズリ→ナデ/ナデ	ー/沈線文、刺突連点文/ー	にぶい褐(7.5YR6/3)/灰黄褐(10YR6/2)	長石・角閃石	良好	(31.4)	7.3	
56	48	A1-3	褐色土層	Ⅲ c2	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	沈線文/沈線文/刻目文	灰黄褐(10YR5/2)/褐灰(10YR4/1)	長石? (微細粒)	良好		2.8	
57	162	A1-3	褐色土層	Ⅲ d2	深鉢	口縁→頸部	条痕→ナデ/ナデ	沈線文/沈線文/刺突列点文	にぶい黄橙(10YR7/2)/にぶい黄橙(10YR7/2)	長石・角閃石	良好		6.1	器形の歪みが著しい
58	180	A1-1	褐色土層	Ⅲ c2	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	沈線文、刺突列点文/沈線文/刺突列点文	にぶい橙(7.5YR7/4)/橙(5YR6/6)	石英・角閃石	良好		4.2	
59	140	A1-3	褐色土層	Ⅲ	深鉢	胴部	ケズリ→ナデ/ナデ	ー/沈線文/ー	にぶい橙(7.5YR6/4)/橙(5YR6/6)	石英・長石・角閃石	良好	(23.6)	11.8	外器面に煤付着
60	326	A1-3	褐色土層	Ⅲ	深鉢	胴部	条痕→ナデ/ナデ	ー/沈線文/ー	浅黄橙(10YR8/3)/灰黄褐(10YR6/2)	石英・角閃石	良好		8.9	
61	127	A1-3	褐色土層	Ⅲ	深鉢	胴部下半	条痕→ナデ/ナデ	ー/沈線文/ー	浅黄橙(10YR8/3)/褐灰(10YR4/1)	石英・長石・角閃石・砂粒	良好		8.2	
62	141	A1-B1連結部	第1貝層	Ⅲ	深鉢	胴部	ケズリ→ナデ/ナデ	ー/沈線文/ー	にぶい黄橙(10YR6/3)/褐灰(10YR5/1)	長石・角閃石・石英・砂粒	良好	(26.6)	11.2	
63	81	A1-BC連結部	第2貝層	Ⅲ c4	深鉢	口縁→頸部	条痕→ナデ/ナデ	沈線文/沈線文/刺突列点文	灰黄褐(10YR6/2)/灰黄褐(10YR5/2)	長石・角閃石	良好		4.8	外器面に煤付着
64	298	A1-B1連結部	第2貝層	Ⅲ b2	深鉢	口縁→頸部	ケズリ、条痕→ナデ/ナデ	沈線文/沈線文/刻目文	灰黄褐(10YR5/2)/褐灰(10YR4/1)	石英・長石・角閃石	良好		5.1	穿孔有(1箇所)
65	240	A1-B1連結部	第2貝層	Ⅲ c2	深鉢	口縁→胴部	ケズリ→ナデ/ナデ	沈線文/沈線文/刻目文	褐灰(10YR6/1)/褐灰(10YR4/1)	角閃石・長石・砂粒・滑石を僅かに含む	良好	(22.6)	10.2	
66	304	A1-B1連結部	第2貝層	Ⅲ	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	ー/沈線文/ー	橙(5YR7/6)/褐灰(7.5YR5/1)	石英・砂粒・角閃石	良好		5.5	外器面に煤付着
67	82	A1-B1連結部	第2貝層	Ⅲ d4	深鉢	口縁→頸部	ナデ/ナデ	沈線文/沈線文/ー	灰黄褐(10YR6/2)/にぶい黄橙(10YR7/3)	角閃石・長石・砂粒・滑石	良好		6.4	
68	195	A1-B1連結部	第2貝層	Ⅲ c2	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	沈線文/沈線文/刻目文	灰黄褐(10YR6/2)/灰黄褐(10YR6/2)	長石・角閃石 (微細粒)	良好		5.5	
69	17	A1-B1連結部	第2貝層	Ⅲ	深鉢	胴部	ナデ/ナデ	ー/沈線文/ー	にぶい黄橙(10YR6/3)/灰褐(7.5YR5/2)	角閃石	良好		7.5	
70	13	A1-B1連結部	第2貝層	Ⅲ	深鉢	胴部	ケズリ→ナデ/ナデ	ー/沈線文/ー	にぶい褐(7.5YR5/3)/にぶい褐(7.5YR5/3)	石英・細砂→礫粒(1~3mm)・角閃石	良好		10.7	
71	227	A1-B1連結部	第2貝層	Ⅲ	深鉢	頸→胴部	ナデ/ナデ	ー/沈線文/ー	にぶい黄橙(10YR7/3)/灰黄褐(10YR6/2)	長石・角閃石	良好		10.0	
72	92	A1-B1連結部	第2貝層	Ⅲ	深鉢	胴部	条痕→ナデ/ナデ	ー/沈線文/ー	灰黄褐(10YR5/2)/褐灰(10YR4/1)	長石・角閃石	良好		8.0	
73	246	A1-B1連結部	第2貝層	Ⅲ	深鉢	胴部	ケズリ→ナデ/ナデ	ー/沈線文/ー	にぶい橙(7.5YR6/4)/灰褐(7.5YR5/2)	石英・長石・角閃石・砂粒	良好	(30.4)	13.4	外器面に煤付着
74	28	A1-B1連結部	第2貝層	Ⅲ	深鉢	胴部	ナデ/ナデ	ー/沈線文/ー	にぶい橙(7.5YR6/4)/灰褐(5YR5/2)	石英・長石・角閃石	良好		12.7	外器面に煤付着、底面に作業台痕跡
75	114	A1-B1連結部	第2貝層	Ⅲ	深鉢	胴部	ナデ/ナデ	ー/沈線文/ー	にぶい褐(7.5YR6/3)/褐灰(7.5YR4/1)	長石・角閃石・石英	良好		9.8	

第4表 縄文土器観察表3

挿図 番号	実測 番号	調査 地点	層位	分類	器種	残存部位	器面調整 (内面/外面)	文 様 (内面/外面/口縁端部)	色 調 (内面/外面)	胎 土	焼成 底径 (cm)	残存高 (cm)	備 考	
76	239	AI-II2連接部	第2貝層	Ⅲ	深鉢	胴～底部	ケズリ→ナデ/ナデ	—/沈線文/—	にぶい黄橙(10YR7/4)/にぶい黄橙(10YR7/4)	長石・角閃石	良好	(12.7)	10.1	
77	134	AI-II連結部	第2貝層	Ⅲ	深鉢	胴部	条痕→ナデ/ナデ	—/沈線文/—	にぶい黄橙(10YR7/3)/にぶい橙(7.5YR7/4)	長石	良好		10.7	
78	346	AI-II連結部	第2貝層	Ⅲ	深鉢	胴部	ナデ/ナデ	—/沈線文/—	にぶい褐(7.5YR5/3)/にぶい褐(7.5YR6/3)	粗砂粒(1mm)・雲母	良好		4.3	
79	352	AI-II連結部	第2貝層	Ⅲ	深鉢	胴部下半	条痕→ナデ/ナデ	—/沈線文/—	にぶい黄橙(10YR7/3)/灰黄褐(10YR5/2)	粗砂粒(1mm)・長石・角閃石	良好		4.6	
80	11	A4	混貝土層	I	深鉢	胴部	ナデ/ナデ	ナデ/押型文/—	橙(5YR6/6)/にぶい橙(7.5YR6/4)	角閃石・石英・細砂～礫粒(1～3mm)	良好		6.7	
81	273	A5	混貝土層	Ⅱ b1	深鉢	口縁部	条痕→ナデ/ナデ	—/粘土紐貼付文/粘土紐貼付文	にぶい黄橙(10YR6/4)/にぶい黄橙(10YR6/4)	長石・角閃石・砂粒	良好		4.7	
82	277	A2	混貝土層	Ⅲ c2	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	沈線文/沈線文/刺突連点文	にぶい橙(7.5YR7/4)/にぶい黄橙(10YR7/4)	石英・角閃石	良好		3.7	
83	313	A3	混貝土層下部	Ⅱ	深鉢	口縁～胴部	条痕→ナデ/条痕→ナデ	—/爪形文/爪形文	にぶい黄褐(10YR5/3)/にぶい褐(7.5YR5/3)	角閃石・粗砂粒(1mm)	良好	(23.6)	8.5	
84	60	A2	混貝土層	Ⅲ	深鉢	胴部	条痕→ナデ/ナデ	—/沈線文/—	にぶい黄橙(10YR7/4)/にぶい橙(7.5YR6/4)	石英・長石・角閃石(微細粒)	良好		6.1	
85	55	A5	混貝土層	V a	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	—/—/刻目文	褐灰(10YR4/1)/褐灰(10YR5/1)	角閃石・石英・砂粒	良好		6.8	
86	314	A3	混貝土層	Ⅱ	浅鉢	胴部下半	ケズリ→ナデ/ナデ	—/沈線文/—	にぶい橙(7.5YR6/4)/灰褐(7.5YR5/2)	粗砂粒(1～2mm)・石英・雲母	良好		3.2	
87	52	A3	混貝土層下部	V b	深鉢	口縁部	条痕→ナデ/ナデ	—/沈線文, 縄文/刻目文	にぶい黄橙(10YR7/3)/にぶい黄橙(10YR7/3)	角閃石・粗砂粒(1mm)	良好		5.5	
88	368	A2	混貝土層	V a	深鉢	口縁～頸部	ナデ/ナデ・ミガキ	—/—/縄文	黄灰(2.5Y5/1)/褐灰(10YR4/1)	長石・石英・角閃石	良好	(28.5)	8.8	
89	161	A5	純貝層	V	深鉢	口縁～頸部	条痕→ナデ/条痕→ナデ	—/沈線文/—	灰黄褐(10YR5/2)/褐灰(10YR5/1)	角閃石・長石	良好		5.0	
90	47	A5	純貝層	V	深鉢	口縁～頸部	ミガキ/ナデ→ミガキ	—/凹線文/—	暗灰黄(2.5Y5/2)/褐灰(10YR4/1)	長石・角閃石	良好		6.0	
91	145	A5	純貝層	Ⅵ	深鉢	口縁～胴部	ケズリ→ナデ/ケズリ→ナデ, ミガキ	—/—/—	灰黄褐(10YR5/2)/にぶい褐(7.5YR6/3)	礫粒(5mm)	良好	(18.1)	14.1	
92	256	A5	純貝層	Ⅵ	深鉢	頸～胴部	ケズリ→ミガキ, ケズリ/ ケズリ→ミガキ	—/—/—	にぶい黄橙(10YR6/3)/にぶい赤褐(5YR5/4)	角閃石・滑石・長石・砂粒	良好	(28.6)	24.5	
93	211	A4	茶褐色土層	Ⅱ	深鉢	底部	ナデ/ケズリ, ナデ	—/押形文/—	灰黄褐(10YR5/2)/にぶい橙(7.5YR7/4)	長石・角閃石・石英	良好	(15.8)	3.1	
94	330	A2	茶褐色土層	Ⅱ b1	深鉢	口縁部	条痕→ナデ/ナデ	—/粘土紐貼付文/—	橙(2.5YR6/6)/橙(5YR6/6)	粗砂粒(1mm)・滑石を多く含む	良好		5.2	
95	208	A2	茶褐色土層	Ⅱ a	深鉢	胴部	条痕/条痕	—/—/—	にぶい橙(7.5YR6/4)/にぶい褐(7.5YR5/3)	長石・角閃石(微細粒)	良好		8.0	
96	8	A3-2・3	茶褐色土層	Ⅱ d	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	—/沈線文, 刻目文/刻目文	にぶい赤褐(5YR5/4)/灰褐(5YR4/2)	雲母・長石・角閃石	良好		4.6	外器面に煤付着
97	62	A2	茶褐色土層	Ⅲ c2	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	沈線文/沈線文/刺突列点文	灰黄褐(10YR5/2)/褐灰(10YR4/1)	角閃石(微細粒)	良好		3.6	
98	59	A2	茶褐色土層	Ⅲ c4	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	沈線文, 連続刺突文/沈線文, 連続刺突文/—	にぶい黄橙(10YR7/3)/にぶい黄橙(10YR6/3)	石英・長石・角閃石	良好		4.5	
99	63	A2	茶褐色土層	Ⅲ a5	深鉢	口縁部	条痕→ナデ/ナデ	沈線文, 刺突連点文/沈線文/刻目文	灰黄褐(10YR5/2)/にぶい黄橙(10YR6/3)	石英・角閃石・礫粒(4mm)	良好		5.4	
100	172	A2	茶褐色土層	Ⅲ a2	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	沈線文/沈線文/刻目文	にぶい橙(7.5YR7/4)/にぶい橙(7.5YR7/4)	長石・角閃石(微細粒)・石英	良好		2.8	

第5表 縄文土器観察表4

挿図 番号	実測 番号	調査 地点	層位	分類	器種	残存部位	器面調整 (内面/外面)	文 様 (内面/外面/口縁端部)	色 調 (内面/外面)	胎 土	焼成 口径/ 底径 (cm)	残存高 (cm)	備 考
101	169	A2	茶褐色土層	Ⅲ c2	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	沈線文/沈線文/刺突列点文	褐灰(10YR5/1)/にぶい黄橙(10YR7/3)	長石・角閃石	良好	4.4	
102	167	A2	茶褐色土層	Ⅲ c4	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	押引文/沈線文/刺突列点文	にぶい橙(5YR6/4)/灰褐(5YR5/2)	滑石を多量に含む・長石・砂粒	良好	4.2	
103	280	A2	茶褐色土層	Ⅲ d4	深鉢	口縁部	条痕→ナデ/ナデ	押引文/沈線文/刻目文	にぶい黄橙(10YR7/3)/灰黄褐(10YR5/2)	長石・角閃石・滑石を僅かに含む	良好 (23.8)	4.9	
104	170	A2	茶褐色土層	Ⅲ	深鉢	口縁→胴部	ケズリ→ナデ/ナデ	沈線文/沈線文/ー	にぶい黄橙(10YR7/2)/にぶい黄橙(10YR7/3)	長石・角閃石	良好	6.5	外器面一部に煤付着
105	49	A6	混貝土層	V b	深鉢	口縁→頸部	条痕→ナデ/条痕→ナデ	ー/沈線文/ー	にぶい黄橙(10YR6/3)/にぶい褐(7.5YR6/3)	長石・角閃石・雲母・砂粒	良好	5.5	
106	268	A6	混貝土層	V a	鉢	口縁部	ミガキ/ミガキ	ー/沈線文, 縄文/刺突連点文, 沈線文	灰黄褐(10YR7/2)/にぶい褐(7.5YR5/3)	角閃石・長石・砂粒	良好	3.0	
107	267	A6	混貝土層	V a	鉢	胴部	ケズリ→ミガキ/ミガキ	ー/沈線文, 縄文, 刺突沈線文/ー	にぶい褐(7.5YR5/3)/灰褐(7.5YR4/2)	長石・角閃石	良好	4.0	
108	30	A7	純貝層	Ⅱ	深鉢	胴～底部	条痕→ナデ/条痕	ー/ー/ー	にぶい橙(7.5YR6/4)/にぶい橙(5YR6/3)	滑石を多量に含む・石英・長石・雲母(微細粒)・礫粒(3～4mm)	良好 (8.0)	12.1	
109	89	A7	純貝層西側	V b	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	ー/沈線文/ー	灰褐(7.5YR6/2)/にぶい褐(7.5YR6/3)	角閃石(微細粒)	良好	3.8	
110	359	A7	純貝層	V a	鉢	口縁部	ケズリ→ナデ, ミガキ/ナデ, ミガキ	ー/沈線文, 縄文/刺突列点文	灰褐(7.5YR5/2)/にぶい黄橙(10YR6/3)	角閃石・雲母・長石	良好	4.6	
111	353	A6	純貝層上部	V a	鉢	口縁部	ミガキ/ナデ→ミガキ	ー/沈線文, 縄文/刺突列点文	橙(5YR6/6)/にぶい赤橙(5YR5/4)	粗砂粒(1mm)	良好	3.0	
112	70	A7	純貝層	V b	深鉢	口縁部	ナデ→ミガキ/ナデ	ー/沈線文/ー	褐灰(10YR6/1)/にぶい黄橙(10YR6/3)	石英・角閃石・粗砂粒(1～2mm)	良好 (14.0)	3.1	一部に被熱剝離痕有
113	369	A7	純貝層	V a	鉢	胴部	ミガキ/ミガキ	ー/縄文, 沈線文/ー	黒褐(7.5YR3/1)/黒褐(7.5YR3/2)	粗砂粒(1mm)・角閃石	良好	8.8	
114	85	A7	純貝層	V b (高) 坏	口縁→胴部	ナデ→ミガキ/ケズリ→ナデ	ー/ー/沈線文, 縄文	灰黄褐(10YR6/2)/にぶい黄橙(10YR7/3)	砂粒	良好 (14.4)	1.5	口縁部に赤色顔料有	
115	356	A7	純貝層西側	V a	鉢	胴部上半	ミガキ/ナデ, ミガキ	ー/沈線文/ー	褐灰(10YR4/1)/灰黄褐(10YR5/2)	粗砂粒(2mm)・角閃石	良好	6.8	
116	39	A7	純貝層	V b	深鉢	口縁→頸部	ケズリ→ナデ/ナデ	ー/沈線文/ー	褐灰(10YR4/1)/にぶい橙(7.5YR6/4)	角閃石・雲母	良好	4.8	内器面に煤付着
117	357	A6	純貝層上部	V a	鉢	胴部	ケズリ→ナデ/ナデ→ミガキ	ー/沈線文/ー	にぶい黄褐(10YR5/3)/褐灰(10YR4/1)	粗砂粒(1mm)・角閃石	良好	5.2	
118	361	A6	純貝層	Ⅵ	深鉢	口縁部	ケズリ→ナデ/ケズリ→ナデ	ー/ー/ー	褐灰(7.5YR4/1)/灰褐(7.5YR5/2)	長石・角閃石	良好 (22.9)	9.6	
119	354	A6	純貝層上部	Ⅵ	深鉢	口縁→胴部	ケズリ, ユビオサエ→ナデ/ナデ	ー/ー/ー	褐灰(10YR4/1)/にぶい橙(2.5YR6/4)	礫粒(7mm)・粗砂→礫粒(1～3mm)・長石・角閃石	良好 (17.2)	8.7	
120	365	A7	純貝層	V b	深鉢	口縁→胴部	ナデ, ユビオサエ/ナデ	ー/沈線文/ー	灰褐(7.5YR5/2)/褐灰(7.5YR5/1)	長石・雲母	良好 (34.3)	13.3	
121	366	A7	純貝層	Ⅳ a	深鉢	口縁→胴部	ケズリ→ナデ/ナデ, ミガキ	沈線文/沈線文/沈線文	灰褐(7.5YR5/2)/にぶい褐(7.5YR5/3)	粗砂粒(1～2mm)・長石・角閃石	良好 (17.5)	16.0	
122	73	A7	純貝層西側	Ⅳ b	深鉢	口縁→頸部	ミガキ, ナデ/ミガキ, ナデ	ー/沈線文/刻目文	褐灰(10YR4/1)/褐灰(10YR5/1)	粗砂粒(2mm)・雲母(微細粒)	良好	7.3	
123	270	A6	純貝層上部	V b	鉢	口縁部	ナデ/ナデ	ー/沈線文/刻目文	褐灰(7.5YR4/1)/褐灰(7.5YR5/1)	長石・角閃石	良好	4.5	
124	319	A7	純貝層	Ⅵ?	深鉢	胴部	ケズリ→ナデ/ナデ→ミガキ	ー/ー/ー	灰黄褐(10YR6/2)/灰黄褐(10YR6/2)	粗砂→礫粒(1～3mm)・石英	良好	9.6	
125	328	A7	純貝層	Ⅵ?	深鉢	胴部	ケズリ→ナデ/ケズリ→ナデ, ミガキ	ー/ー/ー	灰褐(7.5YR5/2)/褐灰(7.5YR6/1)	粗砂粒(1mm)・石英・角閃石	良好	6.9	

第6表 縄文土器観察表5

採図 番号	実測 番号	調査 地点	層位	分類	器種	残存部位	器面調整 (内面/外面)	文様 (内面/外面/口縁端部)	色調 (内面/外面)	胎土	焼成	口径/ 底径 (cm)	残存高 (cm)	備考
126	329	A7	純貝層	VI?	深鉢	胴部	ケズリ→ナデ, ミガキ/ナデ→ミガキ	—/—/—	褐灰(7.5YR5/1)/褐灰(7.5YR5/1)	長石・角閃石・石英・粗砂粒(1mm)	良好		12.2	
127	367	A7	純貝層	VI	深鉢	口縁→胴部	ケズリ/ケズリ→ナデ	—/—/—	灰黄褐(10YR5/2)/灰黄褐(10YR6/2)	粗砂～礫粒(1～4mm)・雲母・角閃石	良好	(30.8)	18.3	
128	318	A7	純貝層	VI?	深鉢	胴部	ケズリ→ナデ/ナデ→ミガキ	—/—/—	にぶい黄橙(10YR6/3)/灰黄褐(10YR6/2)	角閃石・石英	良好		17.5	
129	358	A7	純貝層		深鉢	胴部下半	ケズリ, ナデ, ユビオサエ/ナデ	—/—/—	灰褐(7.5YR5/2)/にぶい褐(7.5YR5/3)	角閃石・長石・粗砂粒(1mm)	良好	(20.3)	9.8	
130	363	A6	純貝層		深鉢	底部	ナデ/ケズリ→ナデ, ミガキ	—/—/—	褐灰(7.5YR5/1)/灰褐(7.5YR6/2)	粗砂粒(1～2mm)・石英・角閃石	良好	(9.0)	8.4	
131	71	A7	純貝層		深鉢	底部	ナデ/ナデ	—/—/—	にぶい黄橙(10YR6/3)/にぶい黄橙(10YR6/3)	雲母・長石(微細粒)	良好	(9.0)	4.0	
132	136	A7	純貝層		深鉢	胴～底部	ケズリ→ナデ, ユビオサエ/ ケズリ→ミガキ	—/—/—	灰黄(2.5Y7/2)/灰褐(7.5YR6/2)	長石(微細粒)	良好	(10.6)	9.2	
133	5	A7	褐色土層	I a	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	—/押型文/—	にぶい黄橙(10YR6/3)/にぶい黄橙(10YR7/3)	石英・長石・角閃石・礫粒(3mm)	良好	(12.8)	4.7	
134	101	A6	茶褐色土層	I a	鉢	胴部下半	ナデ/ナデ	—/押型文/—	にぶい黄橙(10YR7/4)/灰黄褐(10YR5/2)	長石・角閃石・礫粒(2～3mm)	良好		5.1	
135	209	A6	茶褐色土層上部	II b2	深鉢	口縁→頸部	条痕/条痕	—/隆起帯文/—	にぶい赤褐(5YR5/4)/褐灰(5YR4/1)	長石・石英・角閃石	良好		7.6	
136	9	A6	茶褐色土層	II b2	深鉢	頸部→胴部	条痕/条痕	—/隆起帯文/—	にぶい橙(7.5YR6/4)/にぶい褐(7.5YR5/3)	雲母・長石・粗砂粒(1mm)・角閃石・石英	良好		7.3	
137	202	A6	茶褐色土層	II b2	深鉢	頸→胴部	条痕/条痕	—/隆起帯文/—	にぶい褐(7.5YR3/4)/橙(5YR6/6)	滑石を多量に含む・角閃石	良好		6.5	
138	158	A6	茶褐色土層	II a	深鉢	口縁部	条痕→ナデ/条痕	—/—/—	にぶい黄橙(10YR6/3)/灰黄褐(10YR5/2)	長石・角閃石・粗砂粒(1mm)	良好		6.0	
139	323	A6	茶褐色土層下部	II a	深鉢	口縁部	条痕→ナデ/条痕→ナデ	—/—/—	にぶい黄橙(10YR6/4)/にぶい橙(7.5YR6/4)	粗砂粒(1mm)・滑石を僅かに含む	良好		3.2	
140	210	A7西端	褐色土層	II a	深鉢	口縁部	条痕→ナデ/条痕	—/—/—	褐灰(7.5YR4/1)/にぶい橙(7.5YR6/2)	角閃石(微細粒)	良好		4.7	穿孔有(1箇所)
141	327	A7西端	褐色土層下層	II	深鉢	胴部	ナデ/条痕	—/—/—	にぶい黄橙(10YR7/2)/にぶい橙(7.5YR7/4)	長石・石英・角閃石	良好		6.1	
142	331	A6	茶褐色土層下部	II	深鉢	胴部	ナデ/条痕→ナデ	—/—/—	にぶい黄橙(10YR6/4)/にぶい橙(7.5YR6/4)	角閃石・石英・粗砂粒(2mm)	良好		4.8	
143	238	A7	褐色土層	II	鉢	肩→胴部	ケズリ→ナデ/条痕, ミガキ	—/—/—	にぶい褐(7.5YR5/3)/にぶい褐(7.5YR6/3)	角閃石・長石・砂粒・滑石を僅かに含む	良好		9.9	
144	87	A6	茶褐色土層	II d	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	—/爪形文/—	にぶい黄橙(10YR6/3)/褐灰(10YR5/1)	長石・角閃石・砂粒	良好		4.5	
145	40	A7	褐色土層	II	深鉢	底部	ナデ/条痕→ナデ	—/—/—	黄灰(2.5Y4/1)/灰黄褐(10YR6/2)	長石・雲母(微細粒)・細砂～礫粒(1～3mm)	良好	(9.0)	3.8	
146	315	A7東側	不明	II	深鉢	口縁部	条痕→ナデ/条痕→ナデ	—/—/—	にぶい黄橙(10YR7/2)/灰黄褐(10YR6/2)	礫粒(4mm)・雲母	良好		7.7	
147	54	A1-3	不明	III c4	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	沈線文/沈線文/刻目文	にぶい黄橙(10YR7/3)/にぶい黄橙(10YR7/3)	角閃石	良好		5.1	外器面及び内器面に煤付着
148	274	A1-3	不明	III a4	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	沈線文/沈線文/刻目文	黄灰(2.5Y5/1)/黄灰(2.5Y5/1)	石英・長石・砂粒	良好		2.7	
149	276	A1	不明	III a5	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	—/沈線文/—	橙(5YR6/6)/にぶい橙(7.5YR6/4)	石英・長石・砂粒・角閃石	良好		5.7	外器面に煤付着
150	275	A1	不明	III c4	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	沈線文/沈線文/刺突連点文	にぶい褐(7.5YR5/3)/にぶい橙(7.5YR5/4)	長石・角閃石・砂粒・滑石	良好		3.5	

第7表 縄文土器観察表6

採図 番号	実測 番号	調査 地点	層位	分類	器種	残存部位	器面調整 (内面/外面)	文様 (内面/外面/口縁端部)	色調 (内面/外面)	胎土	焼成 口径/ 底径 (cm)	残存高 (cm)	備考
151	285	A1-2	不明	Ⅲ	深鉢	胴部	ナデ/ナデ	—/沈線文/—	にぶい黄橙(10YR7/3)/灰黄褐(10YR5/2)	石英・角閃石・雲母	良好	5.4	外器面に煤付着
152	347	A1-2	不明	Ⅲ	深鉢	胴部	ナデ/ナデ	—/沈線文/—	にぶい黄橙(10YR6/3)/灰黄褐(10YR5/2)	粗砂粒(1mm)・角閃石	良好	5.8	
153	51	A7東側	不明		台付鉢?	脚部	ナデ/ナデ	—/—/—	にぶい褐(7.5YR5/3)/にぶい橙(7.5YR6/4)	雲母(微細粒)	良好(8.4)	5.0	
154	58	A2	不明	V a?	深鉢	口縁~頸部	ナデ/ケズリ~ナデ	—/—/刺突列点文	灰褐(7.5YR5/2)/灰褐(7.5YR5/2)	角閃石・砂粒・長石・石英・雲母	良好	5.8	
155	292	A1-2	不明		鉢	口縁~胴部	ケズリ~ナデ/ケズリ~ナデ	—/爪形文/—	にぶい赤褐(5YR4/3)/灰褐(5YR4/2)	長石・角閃石・石英・砂粒	良好	6.7	外器面に煤付着。穿孔有(1箇所)
156	88	A7	不明		深鉢	口縁~頸部	ナデ, ミガキ/ナデ	—/沈線文/沈線文, 刺突文	褐灰(10YR4/1)/にぶい黄橙(10YR5/3)	長石(微細粒)	良好	3.3	
157	284	A1-2	不明	V b	深鉢	口縁~頸部	ナデ, ユビオサエ/ナデ	—/刺突文, 沈線文/—	にぶい橙(5YR6/4)/にぶい赤褐(5YR5/4)	石英・角閃石・滑石	良好	6.1	
158	61	A2	不明	Ⅵ	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	—/—/—	褐灰(7.5YR5/1)/褐灰(10YR4/1)	角閃石・細砂~礫粒(1~3mm)	良好(23.8)	3.5	
159	269	A7東側	不明	Ⅳ b	深鉢	口縁部	ナデ/ケズリ~ナデ	—/沈線文, 刺突列点文/—	にぶい褐(7.5YR5/4)/にぶい赤褐(5YR5/4)	石英・長石・滑石	良好	5.2	
160	84	B	表土層	Ⅲ b4	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	沈線文/沈線文/刻目文	にぶい黄橙(10YR6/3)/褐灰(10YR4/1)	長石(微細粒)・石英	良好	3.3	外器面に煤付着?
161	90	B3	第1貝層	Ⅲ a5	深鉢	口縁部	ミガキ/ナデ	—/沈線文/—	褐灰(10YR4/1)/にぶい黄橙(10YR6/3)	砂粒・角閃石(微細粒)	良好	3.6	
162	242	B1	第1貝層	Ⅲ c4	深鉢	口縁~胴部	ナデ/ナデ	沈線文/沈線文/刺突連点文	灰黄褐(10YR6/2)/褐灰(10YR4/1)	石英・砂粒・角閃石	良好(24.4)	10.3	
163	24	B3	第1貝層	Ⅲ c4	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	沈線文/沈線文/刺突連点文	灰褐(5YR4/2)/褐灰(5YR4/1)	滑石を多量に含む	良好	4.9	
164	297	B3	第1貝層	Ⅳ a	深鉢	口縁~頸部	ナデ/ナデ	刻目文/沈線文, 刻目文/沈線文, 刻目文	灰黄褐(10YR5/2)/にぶい褐(7.5YR5/3)	長石・砂粒	良好	4.5	外器面に煤付着
165	251	B2	第2貝層	Ⅲ d2	浅鉢	口縁~胴部	ナデ/ナデ	沈線文, 刺突連点文/沈線文/刺突連点文	にぶい黄橙(10YR7/3)/にぶい黄橙(10YR7/2)	長石・角閃石	良好(17.5)	9.3	
166	108	B1	第2貝層	Ⅲ a5	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	—/沈線文/—	にぶい橙(5YR6/4)/褐灰(7.5YR5/1)	石英・長石・角閃石・滑石を僅かに含む	良好(24.0)	5.3	
167	80	B1	第2貝層	Ⅲ c2	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	沈線文/沈線文/刻目文	にぶい黄橙(10YR6/3)/にぶい黄橙(10YR6/3)	長石・角閃石(微細粒)	良好	4.0	
168	79	B1	第2貝層	Ⅲ a2	深鉢	口縁~頸部	ナデ/ナデ	沈線文/沈線文/沈線文	にぶい黄橙(10YR7/3)/灰黄褐(10YR6/2)	角閃石・長石(微細粒)	良好	5.9	
169	257	B1	第2貝層	Ⅲ a4	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	沈線文/沈線文/刺突列点文	にぶい黄(2.5Y6/3)/黄灰(2.5Y4/1)	長石・雲母・滑石	良好	5.0	
170	86	B2	第2貝層	Ⅲ c2	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	—/沈線文/刻目文	にぶい黄橙(10YR7/3)/灰黄褐(10YR6/2)	角閃石・長石・石英・砂粒	良好	5.0	
171	78	B1	第2貝層	Ⅲ a5	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	—/沈線文/—	にぶい褐(7.5YR5/3)/褐灰(7.5YR4/1)	角閃石・長石・石英	良好	5.7	外器面に煤付着
172	192	B1	第2貝層	Ⅲ c2	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	沈線文/沈線文/刺突列点文	褐灰(10YR4/1)/にぶい橙(7.5YR7/4)	石英・角閃石	良好	4.1	穿孔有(1箇所)
173	302	B1	第2貝層	Ⅲ c2	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	—/沈線文/—	にぶい黄橙(10YR7/4)/灰黄褐(10YR5/2)	石英・長石・角閃石・砂粒	良好	4.9	外器面に煤付着
174	3	B1	第2貝層	Ⅲ c2	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	沈線文/沈線文/刺突列点文	にぶい橙(7.5YR6/4)/にぶい橙(7.5YR6/4)	石英・滑石・粗砂粒(1~2mm)	良好(25.4)	3.6	
175	305	B2	第2貝層	Ⅲ c5	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	沈線文/沈線文/刻目文	灰黄褐(10YR6/2)/にぶい橙(7.5YR6/4)	長石・石英・角閃石・砂粒	良好	3.9	

第8表 縄文土器観察表7

挿図 番号	実測 番号	調査 地点	層位	分類	器種	残存部位	器面調整 (内面/外面)	文様 (内面/外面/口縁端部)	色調 (内面/外面)	胎土	焼成	口径/ 底径 (cm)	残存高 (cm)	備考
176	193	B2	第2貝層	Ⅲ c2	深鉢	口縁～頸部	ナデ→条痕/ナデ	沈線文/沈線文/刻目文	灰褐(7.5YR5/2)/褐灰(7.5YR5/1)	長石・角閃石(微細粒)	良好		3.5	穿孔有(1箇所)
177	138	B2	第2貝層	Ⅲ b2	深鉢	口縁～頸部	ケズリ, ナデ/ナデ	沈線文/沈線文/刻目文	灰黄褐(10YR6/2)/褐灰(10YR5/1)	長石(微細粒)	良好	(27.6)	6.1	
178	183	B3	第2貝層	Ⅲ b2	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	沈線文/沈線文/刻目文	にぶい黄橙(10YR7/4)/にぶい黄橙(10YR7/4)	角閃石・石英・長石	良好		5.1	
179	182	B2	第2貝層	Ⅲ c2	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	沈線文/沈線文/刺突列点文	灰黄褐(10YR5/2)/褐灰(10YR4/1)	長石	良好		3.9	
180	214	B2	第2貝層	Ⅲ d2	深鉢	口縁～頸部	ナデ/ナデ	沈線文/沈線文/刺突連点文	にぶい黄橙(10YR6/3)/褐灰(10YR5/1)	長石・角閃石・石英	良好	(27.3)	7.9	
181	126	B3	第2貝層	Ⅲ c4	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	沈線文/沈線文/刻目文	にぶい橙(5YR6/4)/にぶい赤褐(5YR5/3)	滑石を多量に含む	良好		3.4	
182	233	B1	第2貝層	Ⅲ c2	深鉢	口縁～胴部	条痕→ナデ/ナデ	沈線文/沈線文/刻目文	浅黄褐(10YR8/3)/褐灰(10YR5/1)	長石・石英・角閃石・滑石を含む	良好	(31.9)	13.6	
183	197	B2	第2貝層	Ⅲ c2	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	沈線文/沈線文/刺突列点文	褐灰(10YR5/1)/褐灰(10YR4/1)	長石・石英・角閃石(微細粒)	良好		3.4	
184	77	B1	第2貝層	Ⅲ d3	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	沈線文/刺突列点文, 沈線文/刻目文	灰黄褐(10YR5/2)/灰黄褐(10YR5/2)	滑石を多量に含む	良好		3.8	
185	38	B1	第2貝層	Ⅲ d2	鉢	口縁部	ナデ/ナデ	沈線文/沈線文/刻目文	にぶい黄橙(10YR6/3)/にぶい褐(7.5YR5/4)	長石(微細粒)	良好	(11.2)	3.6	
186	36	B1	第2貝層	Ⅲ d4	深鉢	口縁～胴部	ナデ/ナデ	沈線文/沈線文/刻目文	淡黄(2.5Y8/3)/にぶい黄橙(10YR7/4)	粗砂粒(1～2mm)	良好	(23.0)	15.0	
187	222	B2	第2貝層	Ⅲ d2	深鉢	口縁～頸部	ナデ/ナデ	刺突連点文, 沈線文/沈線文/刺突連点文	褐灰(7.5YR4/1)/褐灰(7.5YR4/1)	長石・角閃石・砂粒	良好	(16.4)	4.3	穿孔有(1箇所)
188	259	B2	第2貝層	Ⅲ d2	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	沈線文/沈線文/刻目文	灰黄(2.5Y7/2)/にぶい黄橙(10YR6/3)	長石・角閃石・砂粒	良好	(15.7)	2.9	
189	212	B2	第2貝層	Ⅲ d2	深鉢	口縁～頸部	ナデ/ナデ	沈線文/沈線文/刻目文	にぶい黄橙(10YR7/4)/にぶい黄橙(10YR6/3)	長石・角閃石・砂粒	良好		10.5	
190	154	B2	第2貝層	Ⅲ c2	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	沈線文/沈線文/刺突列点文	にぶい黄橙(10YR7/3)/にぶい橙(7.5YR7/3)	長石・角閃石	良好		4.8	
191	213	B1	第2貝層	Ⅲ c2	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	沈線文/沈線文/刺突連点文	にぶい褐(7.5YR6/2)/黒褐(7.5YR3/2)	角閃石・長石・滑石を僅かに含む	良好		4.8	
192	232	B2	第2貝層	Ⅲ c2	深鉢	口縁～頸部	ナデ/ナデ	押引文/沈線文/刻目文	にぶい黄橙(10YR7/2)/灰黄褐(10YR8/2)	長石・砂粒・角閃石	良好		8.0	
193	303	B1	第2貝層	Ⅲ d2	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	沈線文, 押引文/沈線文/刺突連点文	橙(7.5YR7/6)/にぶい橙(7.5YR6/4)	長石・石英・滑石	良好		3.3	
194	300	B2	第2貝層	Ⅲ c2	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	沈線文/沈線文/刻目文	灰黄褐(10YR6/2)/褐灰(10YR4/1)	長石・角閃石	良好		2.6	
195	334	B2	第2貝層	Ⅲ	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	沈線文/沈線文/刻目文	にぶい黄橙(10YR6/3)/灰黄褐(10YR5/2)	長石・角閃石	良好		3.1	
196	98	B2	第2貝層	Ⅲ	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	沈線文/沈線文/—	にぶい黄橙(10YR7/3)/褐灰(10YR5/1)	粗砂粒(1mm)・角閃石	良好		4.2	
197	104	B2	第2貝層	Ⅲ	深鉢	口縁～胴部	ナデ/ナデ	押引文/沈線文/—	灰黄褐(10YR6/2)/にぶい黄橙(10YR7/2)	長石・角閃石・砂粒	良好		10.1	
198	23	B2	第2貝層	Ⅲ	深鉢	胴部	ナデ/ナデ	—/沈線文/—	にぶい黄橙(10YR6/3)/灰褐(7.5YR6/2)	長石・石英・雲母?	良好		7.1	
199	106	B1	第2貝層	Ⅲ	深鉢	頸～胴部	ナデ/ナデ	—/沈線文/—	にぶい黄橙(10YR6/3)/灰黄褐(10YR6/2)	長石・角閃石	良好		11.1	
200	229	B2	第2貝層	Ⅲ	深鉢	頸～胴部	条痕→ナデ/ナデ	—/沈線文/—	灰黄褐(10YR6/2)/褐灰(10YR5/1)	長石・石英・角閃石・砂粒	良好		9.8	

第9表 縄文土器観察表8

挿図 番号	実測 番号	調査 地点	層位	分類	器種	残存部位	器面調整 (内面/外面)	文様 (内面/外面/口縁端部)	色調 (内面/外面)	胎土	焼成	口径/ 底径 (cm)	残存高 (cm)	備考
201	31	B1	第2貝層	Ⅲ	深鉢	胴部	ナデ/ナデ	—/沈線文/—	にぶい黄橙(10YR6/3)/にぶい褐(7.5YR5/3)	長石・石英・粗砂粒(1~2mm)・角閃石・滑石を僅かに含む	良好		8.8	
202	27	B2	第2貝層	Ⅲ	深鉢	胴部	条痕→ナデ/ナデ	—/沈線文/—	褐灰(7.5YR4/1)/にぶい褐(7.5YR6/3)	長石・石英・雲母・礫粒(4mm)・滑石	良好		8.1	
203	325	B2	第2貝層	Ⅲ	深鉢	胴部	ナデ/ナデ	—/沈線文/—	にぶい赤褐(5YR5/3)/にぶい橙(5YR6/4)	滑石を多量に含む	良好		5.8	
204	111	B2	第2貝層	Ⅲ	深鉢	胴部	ナデ/ナデ	—/沈線文/—	灰黄褐(10YR6/2)/にぶい褐(7.5YR6/3)	長石・石英・角閃石・雲母	良好		8.5	
205	120	B2	第2貝層	Ⅲ	深鉢	胴部	ナデ/ナデ	—/沈線文/—	にぶい黄橙(10YR7/2)/灰黄褐(10YR6/2)	長石・角閃石・石英・砂粒	良好		5.0	
206	93	B1	第2貝層	Ⅲ	深鉢	胴部	ナデ/ナデ	—/沈線文/—	にぶい黄橙(10YR7/3)/灰黄褐(10YR5/2)	石英・角閃石・長石・雲母・砂粒	良好		5.3	
207	207	B1	第2貝層	Ⅲ	深鉢	胴部	ナデ/ナデ	—/沈線文/—	灰黄褐(10YR5/2)/にぶい褐(7.5YR5/3)	滑石を多量に含む	良好		6.8	
208	322	B2	第2貝層	Ⅲ	深鉢	胴部	ナデ/ナデ	—/沈線文/—	にぶい褐(7.5YR6/3)/褐灰(7.5YR5/1)	滑石を多量に含む	良好		4.2	
209	350	B2	第2貝層	Ⅲ	深鉢	胴部	条痕→ナデ/ナデ	—/沈線文/—	灰黄褐(10YR5/2)/褐灰(7.5YR6/2)	長石・角閃石・石英	良好		6.2	
210	339	B1	第2貝層	Ⅲ	深鉢	胴部	条痕→ナデ/ナデ	—/沈線文/—	にぶい黄橙(10YR6/3)/にぶい黄橙(10YR6/4)	粗砂・礫粒(1~3mm)・角閃石	良好		5.9	
211	332	B2	第2貝層	Ⅲ	深鉢	胴部	ナデ/ナデ	—/沈線文/—	にぶい黄橙(10YR7/3)/にぶい黄橙(10YR7/3)	粗砂粒(1mm)・石英・角閃石	良好		8.5	
212	345	B2	第2貝層	Ⅲ	深鉢	胴部	ナデ/ナデ	—/沈線文/—	にぶい黄橙(10YR7/3)/褐灰(10YR5/1)	粗砂粒(1~2mm)・角閃石	良好		7.8	
213	342	B2	第2貝層	Ⅲ	深鉢	胴部	ナデ/ナデ	—/沈線文/—	にぶい橙(7.5YR6/4)/にぶい橙(7.5YR7/4)	礫粒(6mm)・粗砂粒(1mm)・角閃石・雲母	良好		4.3	
214	14	B2	第2貝層	Ⅲ	深鉢	胴部下半	ケズリ→ナデ/ナデ	—/沈線文/—	褐灰(7.5YR4/1)/にぶい褐(7.5YR6/3)	角閃石・雲母・礫粒(2~3mm)・滑石を僅かに含む	良好		8.0	
215	355	B2	第2貝層	Ⅲ	深鉢	胴部	ナデ/ナデ	—/沈線文/—	にぶい黄橙(10YR6/3)/灰黄褐(10YR5/2)	長石・角閃石・雲母	良好		8.8	
216	119	B1	第2貝層	Ⅲ	深鉢	胴部下半	条痕→ナデ/ナデ	—/沈線文/—	にぶい橙(7.5YR6/4)/にぶい橙(5YR6/4)	石英・長石・滑石	良好		6.1	
217	118	B2	第2貝層	Ⅲ	深鉢	胴部下半	ナデ/ナデ	—/沈線文/—	にぶい褐(7.5YR6/3)/灰褐(7.5YR6/2)	長石・砂粒・角閃石	良好		5.5	
218	128	B2	第2貝層	Ⅲ	深鉢	胴部下半	条痕→ナデ/ナデ	—/沈線文/—	にぶい黄橙(10YR7/3)/灰黄褐(10YR5/2)	長石	良好		7.6	外器面に煤付着
219	203	B1	第2貝層	Ⅲ	深鉢	胴部下半	条痕→ナデ/ナデ	—/沈線文/—	にぶい橙(5YR6/4)/にぶい赤褐(5YR5/4)	滑石を多量に含む	良好		5.1	
220	148	B2	第2貝層	Ⅲ	深鉢	胴～底部	ケズリ→ナデ/ナデ	—/沈線文/—	橙(5YR6/6)/にぶい赤褐(2.5YR5/4)	長石(微細粒)・礫粒(6mm)	良好	(13.1)	5.3	外器面一部に煤付着
221	321	B1	第2貝層	Ⅲ	深鉢	胴部下半	ケズリ→ナデ/ナデ	—/沈線文/—	にぶい黄橙(10YR6/3)/灰褐(7.5YR5/2)	石英・角閃石	良好		3.1	
222	252	B2	第2貝層	Ⅲ	深鉢	底部	ケズリ→ナデ/ナデ	—/沈線文/—	褐灰(7.5YR4/1)/にぶい橙(7.5YR6/4)	長石・角閃石	良好	9.8	2.7	
223	217	B1	第2貝層	Ⅲ	深鉢	底部	ナデ, ユビオサエ/ナデ	—/沈線文/—	灰黄褐(10YR6/2)/褐灰(10YR4/1)	長石・角閃石・滑石を僅かに含む	良好		1.4	
224	125	B2	第2貝層	Ⅲ	深鉢	胴部下半	条痕→ナデ/ナデ	—/沈線文/—	灰褐(7.5YR6/2)/褐灰(7.5YR5/1)	石英・長石・雲母	良好		8.5	外器面に煤付着
225	250	B2	第2貝層		深鉢	底部	ケズリ→ナデ/ケズリ→ナデ	—/—/—	にぶい橙(7.5YR6/4)/灰褐(7.5YR6/2)	石英・長石・角閃石・滑石	良好	(11.6)	6.4	外器面に煤付着

第10表 縄文土器観察表 9

挿図 番号	実測 番号	調査 地点	層位	分類	器種	残存部位	器面調整 (内面/外面)	文様 (内面/外面/口縁端部)	色調 (内面/外面)	胎土	焼成	口径/ 底径 (cm)	残存高 (cm)	備考
226	156	B2	第2貝層	V b	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	—/沈線文/刻目文	灰褐(7.5YR6/2)/にぶい褐(7.5YR6/3)	雲母(微細粒)	良好		5.2	
227	99	B1	第2貝層		深鉢	底部	ナデ/ナデ	—/—/—	にぶい黄橙(10YR6/3)/にぶい黄橙(10YR7/3)	石英・角閃石・長石・砂粒	良好	3.2	4.0	
228	146	B1	第2貝層最下部	III a5	深鉢	口縁～胴部	ナデ/ナデ	沈線文/沈線文/刺突列点文	にぶい黄橙(10YR7/4)/にぶい黄橙(10YR6/3)	長石・角閃石・砂粒	良好	(32.2)	12.4	穿孔有(1箇所)
229	83	B1	第2貝層下部	III d4	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	沈線文/沈線文/刻目文	灰黄褐(10YR6/2)/灰黄褐(10YR6/2)	長石	良好	(17.6)	2.8	
230	317	B1	第2貝層最下部	III c2	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	沈線文/沈線文/刺突列点文	にぶい褐(7.5YR6/3)/にぶい橙(7.5YR7/3)	長石・石英・角閃石	良好		2.4	
231	299	B1	第2貝層最下部	III c2	深鉢	口縁～頸部	ナデ/ナデ	押引文、沈線文/沈線文/刻目文	にぶい黄橙(10YR7/2)/灰黄褐(10YR5/2)	長石・角閃石	良好	(29.8)	5.3	穿孔有(1箇所)
232	19	B1	第2貝層最下部	III	深鉢	胴部	ナデ/ナデ	—/沈線文/—	にぶい黄橙(10YR7/3)/にぶい黄橙(10YR7/4)	角閃石(微細粒)	良好		7.3	
233	137	B1	第2貝層最下部	III d4	深鉢	口縁～胴部	ナデ/ナデ	押引文/沈線文/刺突列点文	にぶい黄橙(10YR6/3)/灰黄褐(10YR5/2)	砂粒・長石・角閃石	良好	(29.3)	23.3	
234	123	B1	第2貝層最下部	III	深鉢	胴部	ナデ/ナデ	—/沈線文/—	灰褐(7.5YR5/2)/灰褐(7.5YR6/2)	石英・長石・砂粒	良好		5.3	
235	131	B1	第2貝層最下部	III	深鉢	胴部下半	ケズリ→ナデ/ナデ	—/沈線文/—	橙(5YR6/6)/灰褐(5YR5/2)	石英(微細粒)・砂粒	良好		8.3	
236	255	B1	第2貝層最下部	III	深鉢	胴部下半	ナデ/ナデ	—/沈線文/—	褐灰(5YR4/1)/にぶい橙(7.5YR6/4)	石英・長石・角閃石	良好	(18.4)	11.8	
237	29	B1	第2貝層最下部	III c2	深鉢	口縁～胴部	ナデ/ナデ	沈線文/沈線文/刺突列点文	にぶい褐(7.5YR6/3)/にぶい橙(7.5YR7/4)	長石(微細粒)	良好	(22.1)	13.3	
238	235	B1	第2貝層最下部	III	深鉢	頸～胴部	ケズリ→ナデ/ナデ	—/沈線文/—	にぶい赤褐(5YR5/3)/褐灰(5YR4/1)	石英・角閃石・長石	良好	(20.6)	10.2	
239	1	B1	第2貝層最下部	III	深鉢	胴部	条痕→ナデ/ナデ	—/沈線文/—	明赤褐(5YR5/6)/にぶい橙(7.5YR6/4)	角閃石・石英・粗砂粒(1mm未満)	良好		17.4	外器面に煤付着
240	95	B1	第2貝層最下部	III	深鉢	胴部下半	条痕→ナデ/ナデ	—/沈線文/—	にぶい橙(7.5YR7/4)/褐灰(7.5YR4/1)	石英・長石・角閃石	良好		4.6	
241	97	B1	第2貝層最下部	III	深鉢	胴～底部	ナデ/ナデ	—/沈線文/—	にぶい橙(7.5YR7/4)/にぶい橙(7.5YR6/4)	石英・長石	良好	(5.8)	4.7	
242	10	B3	褐色土層	I b	深鉢	胴部	ナデ/ナデ	—/押型文/—	にぶい黄橙(10YR7/3)/にぶい橙(7.5YR7/4)	石英・角閃石	良好		8.1	
243	291	B3	褐色土層以下	II b2	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	—/隆起帯文/—	にぶい褐(7.5YR5/4)/灰褐(7.5YR4/2)	石英・砂粒・長石	良好		3.4	
244	306	B2	褐色土層以下	III	深鉢	口縁～頸部	ナデ/ナデ	沈線文、押引文/沈線文、押引文	にぶい黄橙(10YR7/3)/にぶい黄橙(10YR7/3)	長石・角閃石・石英	良好		3.9	穿孔(1箇所)
245	75	B3	褐色土層以下	III b5	深鉢	口縁～胴部	ナデ/ナデ	沈線文/沈線文/刻目文	にぶい黄橙(10YR7/3)/にぶい黄橙(10YR7/4)	石英・礫粒(2～3mm)・長石・角閃石(微細粒)	良好	(21.6)	7.7	外器面に煤付着
246	320	B3	褐色土層以下	III	深鉢	胴部下半	条痕→ナデ/ナデ	—/沈線文/—	橙(7.5YR7/6)/にぶい橙(7.5YR7/4)・灰褐(7.5YR6/2)	長石・石英・角閃石	良好		7.9	
247	198	B2	褐色土層	III d	深鉢	口縁～頸部	ナデ/ナデ	刺突列点文/押引文/刺突列点文	にぶい黄橙(10YR7/3)/にぶい黄橙(10YR6/3)	長石・角閃石・砂粒	良好		3.4	
248	344	B1	黒褐色土層	III	深鉢	胴部	ケズリ→ナデ/ナデ	—/沈線文/—	橙(5YR6/6)/橙(7.5YR7/6)	長石・石英・角閃石	良好		7.1	
249	293	B3	褐色土層以下	III b4	深鉢	口縁部	ケズリ→ナデ/ナデ	沈線文/沈線文/—	灰黄褐(10YR6/2)/灰黄褐(10YR5/2)	長石・砂粒・滑石	良好		4.3	
250	94	B3	褐色土層以下	III	深鉢	胴部	ナデ/ナデ	—/沈線文/—	にぶい橙(7.5YR7/4)/にぶい褐(7.5YR6/3)	石英・角閃石	良好		5.7	

第11表 縄文土器観察表10

挿図 番号	実測 番号	調査 地点	層 位	分類	器種	残存部位	器面調整 (内面/外面)	文 様 (内面/外面/口縁端部)	色 調 (内面/外面)	胎 土	焼成	口径/ 底径 (cm)	残存高 (cm)	備 考
251	74	B3	貝層	V b?	深鉢	口縁部	条痕→ナデ/ナデ	—/刺突文/—	灰黄褐(10YR5/2)/褐灰(10YR4/1)	砂粒・石英・雲母・角閃石(微細粒)	良好		4.3	
252	76	B3	貝層	III a5	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	沈線文, 刺突連点文/沈線文, 刺突列点文/—	褐灰(10YR4/1)/にぶい黄橙(10YR6/3)	角閃石・細砂～礫粒(1～4mm)・滑石	良好		6.1	
253	96	B1	貝層	III a2	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	沈線文/沈線文/刻目文	橙(5YR6/6)/橙(7.5YR7/6)	石英・長石・角閃石	良好		2.7	
254	189	B3	貝層	III c4	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	沈線文/沈線文/刻目文	にぶい黄橙(10YR7/3)/にぶい黄橙(10YR7/2)	長石・石英	良好		4.4	
255	185	B3	貝層	III c2	深鉢	口縁～頸部	ケズリ→ナデ/ナデ	沈線文/沈線文/刺突列点文	にぶい黄橙(10YR7/3)/灰黄褐(10YR6/2)	長石・角閃石	良好		6.1	
256	121	B3	貝層	III c4	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	沈線文/沈線文/刻目文	にぶい橙(7.5YR6/4)/橙(5YR6/6)	長石・砂粒・滑石を多量に含む	良好		4.3	穿孔有(1箇所, 両面穿孔)
257	307	B3	貝層	III c4	深鉢	口縁～頸部	ナデ/ナデ	沈線文/沈線文/刻目文	にぶい橙(7.5YR6/4)/褐灰(7.5YR4/1)	角閃石	不良		5.0	
258	188	B3	貝層	III d4	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	沈線文/沈線文/刺突列点文	にぶい橙(7.5YR7/4)/にぶい橙(7.5YR7/4)	長石・角閃石・石英・砂粒	良好		3.9	
259	201	B3	貝層	III c4	深鉢	口縁～胴部	ナデ/ナデ	沈線文/沈線文/刻目文	黒褐(7.5YR3/2)/灰褐(7.5YR4/2)	滑石を多量に含む	良好		9.9	200と同一個体の可能性有
260	122	B3	貝層	III	深鉢	胴部	ナデ/ナデ	—/沈線文/—	灰褐(7.5YR6/2)/灰褐(7.5YR5/2)	滑石を多量に含む	良好		4.3	
261	7	B3	貝層	III	深鉢	胴部	ナデ/ナデ	—/沈線文/—	灰黄褐(10YR6/2)/褐灰(10YR5/1)	長石・角閃石・石英	良好		6.7	穿孔有(1箇所)
262	225	B3	貝層	III	深鉢	胴部	ケズリ→ナデ/ナデ	—/沈線文/—	にぶい黄橙(10YR7/2)/褐灰(10YR5/1)	長石・角閃石(微細粒)	やや粗	(22.8)	7.2	
263	228	B3	貝層	III	深鉢	胴部下半	ナデ/ナデ	—/沈線文/—	にぶい黄橙(10YR7/3)/褐灰(10YR5/1)	長石・石英・角閃石・砂粒	良好	(19.8)	12.2	
264	296	B3	貝層	III c2	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	沈線文/沈線文/刻目文	灰黄(2.5Y7/2)/灰黄(2.5Y6/2)	長石・石英・角閃石・雲母	良好		3.5	
265	91	B3	貝層	III	深鉢	胴部	ナデ/ナデ	—/沈線文/—	にぶい黄橙(10YR7/3)/にぶい橙(7.5YR7/3)	角閃石・石英・粗砂粒(2mm)	良好		5.5	
266	204	B1	不明	III c2	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	沈線文/沈線文/刻目文	にぶい赤褐(5YR4/3)/灰褐(7.5YR4/2)	滑石を多量に含む	良好		4.3	
267	139	B1	不明	III a5	深鉢	口縁～胴部	ナデ/ナデ	沈線文/沈線文/刺突列点文	にぶい橙(2.5YR6/4)/褐灰(5YR5/1)	長石・雲母・石英・角閃石	良好	(24.3)	10.3	
268	294	B1	不明	III b4	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	沈線文/沈線文/刻目文	灰黄褐(10YR6/2)/褐灰(10YR5/1)	長石・角閃石	良好		3.4	
269	349	B1	不明	III	深鉢	胴部	ナデ/ナデ	—/沈線文/—	にぶい黄橙(10YR6/3)/灰黄褐(10YR6/2)	長石・石英・角閃石	良好		5.9	
270	33	B1	不明	III	深鉢	胴部下半～底部	ケズリ→ナデ/条痕→ナデ	—/沈線文/—	にぶい黄橙(10YR7/3)/にぶい黄橙(10YR7/3)	長石・角閃石(微細粒)・滑石を含む	良好	(13.4)	3.7	
271	56	C	第1貝層	V b	浅鉢	口縁～胴部	ナデ/ナデ	—/沈線文, 刺突文/—	褐灰(10YR4/1)/にぶい黄橙(10YR6/3)	長石・砂粒・角閃石	やや粗	(13.6)	11.0	外器面に赤色顔料有
272	286	C	第1貝層	VI	浅鉢	口縁～胴部	ケズリ→ナデ/ナデ	—/—/—	灰黄褐(10YR6/2)/にぶい黄橙(10YR7/3)	角閃石・長石	良好	(15.9)	5.0	
273	290	C	第1貝層	VI	鉢	口縁～胴部	ケズリ→ナデ/ミガキ	—/—/—	灰褐(7.5YR5/2)/にぶい赤褐(2.5YR5/4)	角閃石・長石・砂粒・雲母	良好	(13.4)	5.2	
274	150	C	第1貝層	V b	深鉢	口縁～頸部	ナデ/ナデ	—/沈線文/—	灰黄褐(10YR6/2)/黄灰(2.5Y4/1)	長石・角閃石(微細粒)	良好		5.0	
275	168	C	第1貝層	V b	深鉢	口縁部	ケズリ→ナデ/ナデ	—/凹線/—	褐灰(10YR5/1)/褐灰(10YR4/1)	長石・雲母	良好		4.0	

第12表 縄文土器観察表11

挿図 番号	実測 番号	調査 地点	層位	分類	器種	残存部位	器面調整 (内面/外面)	文様 (内面/外面/口縁端部)	色調 (内面/外面)	胎土	焼成	口径/ 底径 (cm)	残存高 (cm)	備考
276	45	C	第1貝層	V b	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	—/沈線文、刺突文/—	にぶい黄橙(10YR6/3)/灰黄褐(10YR5/2)	長石・砂粒	良好		4.1	
277	57	C	第1貝層	V b	深鉢	口縁～頸部	条痕→ナデ/条痕→ナデ	—/沈線文、刻目突帯文/—	にぶい褐(7.5YR5/3)/にぶい褐(7.5YR5/3)	石英?・砂粒	良好		5.8	
278	46	C	第1貝層	V b	深鉢	口縁～頸部	ミガキ/ナデ, ミガキ	—/刺突文/—	褐灰(10YR4/1)/灰黄褐(10YR5/2)	長石・砂粒	良好		5.0	
279	72	C	第1貝層	V b	深鉢	口縁～頸部	ナデ/ナデ	—/沈線文/—	にぶい黄橙(10YR6/3)/にぶい黄橙(10YR6/3)	長石・石英・雲母・角閃石・粗砂粒(1mm)	良好		6.0	
280	265	C	第1貝層	V a	深鉢	口縁～胴部	ケズリ→ナデ/ナデ	—/—/刻目文	灰黄褐(10YR6/2)/灰黄褐(10YR5/2)	長石・角閃石	良好		9.9	
281	43	C	第1貝層		深鉢	胴～底部	ナデ/ケズリ, ナデ	—/—/—	にぶい黄橙(10YR6/3)/灰黄褐(10YR5/2)	雲母・石英・長石・粗砂粒(1mm)	良好	(8.9)	5.2	
282	282	C	第1貝層		深鉢	胴部	ケズリ→ナデ/ナデ	—/刻目突帯文/—	灰黄褐(10YR6/2)/灰黄褐(10YR6/2)	角閃石・長石・砂粒	良好		7.0	
283	32	C	遺層・第2貝層	Ⅲ	浅鉢	口縁～胴部	条痕→ナデ/条痕→ナデ	—/沈線文/—	にぶい黄橙(10YR6/3)/にぶい褐(7.5YR5/3)	角閃石・長石(微細粒)	良好	(17.8)	4.3	外器面に煤付着
284	109	C	遺層・第2貝層	Ⅲ	浅鉢	口縁～胴部	ナデ/ナデ	—/沈線文/沈線文	にぶい黄橙(10YR7/4)/灰黄褐(10YR6/2)	角閃石・長石	良好	(17.7)	3.7	
285	230	C	遺層・第2貝層	Ⅲ a4	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	沈線文/沈線文/刻目文	灰黄褐(10YR6/2)/灰黄褐(10YR6/2)	長石・角閃石(微細粒)	良好		6.0	
286	336	C	遺層・第2貝層	Ⅲ d2	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	沈線文/沈線文/刺突列点文	にぶい橙(5YR6/4)/にぶい赤橙(5YR5/4)	長石?	良好		3.2	
287	377	C	遺層・第2貝層	Ⅲ	深鉢	頸～底部	ナデ/ナデ	沈線文/沈線文/—	にぶい黄褐(10YR6/3)/にぶい黄褐(10YR5/3)	長石・角閃石	良好		23.0	
288	35	C	遺層・第2貝層	Ⅲ	深鉢	底部	条痕→ナデ/条痕→ナデ	—/沈線文/—	にぶい黄橙(10YR7/3)/灰黄褐(10YR6/2)	長石?	良好	(6.5)	3.8	
289	226	C	遺層・第2貝層	Ⅲ	深鉢	胴部下半	ナデ/ナデ	—/沈線文/—	灰黄褐(10YR6/2)/灰黄褐(10YR6/2)	長石・角閃石・砂粒・滑石	良好		5.5	
290	340	C	遺層・第2貝層	Ⅲ	深鉢	胴部	ナデ/ナデ	—/沈線文/—	にぶい黄橙(10YR7/3)/にぶい黄橙(10YR7/2)	粗砂粒(2mm)・長石・角閃石	良好		5.6	
291	324	C	遺層・第2貝層	Ⅲ	深鉢	胴部	ナデ/ナデ	—/沈線文/—	灰褐(7.5YR4/2)/黒褐(7.5YR3/1)	滑石を多量に含む	良好		3.4	穿孔有(1箇所)
292	124	C	遺層・第2貝層	Ⅲ	深鉢	胴部	条痕→ナデ/ナデ	—/沈線文/—	にぶい黄橙(10YR7/3)/にぶい橙(7.5YR6/4)	石英・砂粒	良好		9.7	外器面に煤付着
293	177	C	遺層・第2貝層	Ⅲ	深鉢	胴部	ナデ/ナデ	—/沈線文/—	にぶい黄橙(10YR7/2)/にぶい黄橙(10YR7/2)	長石・角閃石・石英	良好		6.4	
294	37	C	第2貝層	Ⅱ c	深鉢	口縁～胴部	条痕→ナデ/条痕→ナデ	—/沈線文/—	にぶい黄橙(10YR6/3)/にぶい橙(5YR6/4)	長石・角閃石・雲母・粗砂粒(1mm未満)	良好	(28.0)	21.6	
295	351	C	第2貝層	Ⅲ c5	浅鉢	口縁～胴部	ナデ/ナデ	沈線文/沈線文/刺突列点文	にぶい黄橙(10YR7/4)/灰黄褐(10YR5/2)	長石・角閃石・石英	良好	(13.7)	6.4	
296	66	C	第2貝層	Ⅲ c2	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	沈線文/沈線文/刻目文	褐灰(10YR4/1)/褐灰(10YR4/1)	石英・角閃石(微細粒)	良好		3.7	穿孔有(1箇所)
297	187	C	第2貝層	Ⅲ b4	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	沈線文/沈線文/刻目文	灰黄褐(10YR6/2)/にぶい黄橙(10YR7/3)	長石・角閃石(微細粒)	良好		3.4	
298	287	C	第2貝層	Ⅲ c4	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	沈線文/沈線文/刻目文	にぶい黄橙(10YR7/2)/灰黄褐(10YR6/2)	長石・石英・角閃石・砂粒	良好		2.8	
299	200	C	第2貝層	Ⅲ	深鉢	胴部	ナデ/ナデ	—/沈線文/—	黒褐(7.5YR3/2)/灰褐(7.5YR4/2)	滑石を多量に含む	良好		6.0	
300	205	C	第2貝層	Ⅲ	深鉢	胴部	ナデ/ナデ	—/沈線文/—	にぶい橙(5YR6/4)/にぶい赤褐(5YR5/3)	滑石を多量に含む	良好		6.3	

第13表 縄文土器観察表12

挿図 番号	実測 番号	調査 地点	層位	分類	器種	残存部位	器面調整 (内面/外面)	文様 (内面/外面/口縁端部)	色調 (内面/外面)	胎土	焼成	口径/ 底径 (cm)	残存高 (cm)	備考
301	218	C	第2貝層	Ⅲ	深鉢	胴部	ケズリ→ナデ/ナデ	—/沈線文/—	にぶい赤褐(5YR5/4)/灰褐(5YR4/2)	長石・角閃石	良好		5.7	外器面に煤付着
302	216	C	第2貝層	Ⅲ	深鉢	底部	ナデ/ナデ	—/沈線文/—	にぶい黄橙(10YR6/4)/灰黄褐(10YR5/2)	長石・砂粒・角閃石・滑石	良好	(7.0)	2.2	外器面に煤付着
303	143	C	第2貝層	Ⅲ	深鉢	胴部下半	ナデ/ナデ	—/沈線文/—	にぶい黄橙(10YR7/3)/灰黄褐(10YR6/2)	長石・角閃石・砂粒	良好		5.7	外器面一部に煤付着
304	360	C	第2貝層	Ⅲ	深鉢	胴部下半	ケズリ→ナデ/ナデ	—/沈線文/—	にぶい黄橙(10YR6/3)/褐灰(10YR5/1)	長石・石英・粗砂粒(1mm)・角閃石	良好		12.0	
305	234	C	第2貝層	Ⅲ	深鉢	底部	条痕→ナデ/ナデ	—/沈線文/—	にぶい赤褐(5YR5/4)/橙(5YR7/8)	石英・角閃石・長石・砂粒	良好		2.5	
306	34	C	第2貝層	Ⅲ	深鉢	胴部下半~底部	条痕→ナデ/条痕→ナデ	—/沈線文/—	にぶい黄橙(10YR7/3)/灰黄褐(10YR6/2)	長石・角閃石(微細粒)	良好	(9.2)	5.8	
307	254	C	第2貝層		深鉢	胴部下半	ナデ/ケズリ→ナデ	—/—/—	にぶい褐(7.5YR6/3)/にぶい橙(5YR6/4)	石英・長石・角閃石	良好		7.1	
308	215	C	黒色土層以下	Ⅱ b3	深鉢	口縁~胴部	条痕→ナデ/条痕→ナデ	—/隆起帯文/—	にぶい赤褐(5YR5/4)/にぶい赤褐(5YR4/3)	長石・石英・雲母	良好	(24.8)	9.7	
309	364	C	黒色土層以下	Ⅱ b3	深鉢	胴部	条痕→ナデ/条痕→ナデ	—/隆起帯文/—	にぶい橙(5YR6/4)/にぶい橙(5YR6/3)	雲母・石英・長石・粗砂粒(1mm)	良好		9.8	
310	237	C	黒色土層以下	Ⅲ c2	深鉢	口縁~胴部	ナデ/ナデ	沈線文/沈線文/刻目文	にぶい黄橙(10YR7/2)/灰黄褐(10YR5/2)	角閃石・長石・石英・砂粒	良好	(30.2)	15.8	
311	2	C	黒色土層以下	Ⅲ c2	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	沈線文/沈線文/刺突列点文	にぶい黄橙(10YR7/3)/灰褐(7.5YR6/2)	石英・長石・角閃石・雲母	良好		3.9	
312	15	C	黒色土層以下	Ⅲ	深鉢	胴部	ケズリ→ナデ/ナデ	—/沈線文/—	橙(5YR6/6)/にぶい橙(5YR6/4)	石英・長石・角閃石	良好		5.3	
313	343	C	黒色土層以下	Ⅲ	深鉢	胴部	ナデ/ナデ	—/沈線文/—	にぶい橙(7.5YR6/4)/橙(5YR6/6)	粗砂~礫粒(1~5mm)・長石・角閃石	良好		5.5	
314	348	C	黒色土層以下	Ⅲ	深鉢	胴部	ナデ/ナデ	—/沈線文/—	灰黄褐(10YR6/2)/灰黄褐(10YR6/2)	粗砂粒(1mm)・角閃石・石英	良好		5.4	
315	236	C	黒色土層以下	Ⅲ	深鉢	胴部下半	条痕→ナデ/ナデ	—/沈線文/—	にぶい橙(7.5YR6/4)/にぶい橙(7.5YR7/3)	角閃石・長石・雲母	良好	(27.8)	14.9	
316	132	C	黒色土層以下	Ⅲ	深鉢	胴部下半	ナデ/ナデ	—/沈線文/—	褐灰(10YR4/1)/灰褐(7.5YR5/2)	石英・長石・雲母	良好		7.6	
317	4	C(推定)	貝層直下	Ⅲ c4	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	沈線文/文沈線/刻目文	褐灰(7.5YR4/1)/灰褐(5YR5/2)	滑石を多量に含む・角閃石	良好	(27.8)	7.0	
318	100	C(推定)	貝層直下	Ⅲ d2	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	沈線文/沈線文/刻目文	にぶい赤褐(5YR4/4)/にぶい赤褐(5YR5/4)	長石・角閃石・石英・雲母	良好		4.6	
319	283	C(推定)	貝層直下	Ⅲ b2	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	沈線文/沈線文/刺突連点文	にぶい橙(7.5YR7/4)/にぶい橙(7.5YR7/4)	砂粒・石英・長石	良好		3.0	外器面に煤付着
320	21	C(推定)	貝層直下	Ⅲ c4	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	沈線文/沈線文/刺突列点文	にぶい黄橙(10YR7/2)/灰褐(7.5YR5/2)	長石・砂粒・角閃石	良好		5.3	
321	135	C(推定)	貝層直下	Ⅲ c5	深鉢	口縁~胴部	ナデ/ナデ	沈線文/沈線文/刺突列点文	にぶい黄橙(10YR6/3)/褐灰(10YR4/1)	長石・石英・礫粒(2~5mm)	良好	(25.1)	14.1	
322	112	C(推定)	貝層直下	Ⅲ c4	深鉢	口縁~頸部	条痕→ナデ/ナデ	沈線文/沈線文/刺突列点文	にぶい黄橙(10YR7/4)/にぶい橙(7.5YR7/4)	長石・石英・角閃石・砂粒	良好		8.9	
323	288	C(推定)	貝層直下	Ⅲ c2	深鉢	口縁~頸部	ナデ/ナデ	沈線文/沈線文/刻目文	灰黄(2.5Y6/2)/黄灰(2.5Y5/1)	長石(微細粒)・滑石を僅かに含む	良好		5.8	
324	219	C(推定)	貝層直下	Ⅲ b2	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	沈線文/沈線文/沈線文	褐灰(10YR4/1)/灰黄褐(10YR6/2)	長石・角閃石	良好		4.5	
325	224	C(推定)	貝層直下	Ⅲ	深鉢	胴部	条痕→ナデ/ナデ	—/沈線文/—	灰黄褐(10YR6/2)/褐灰(7.5YR4/1)	長石・石英・砂粒・滑石を僅かに含む	良好	(26.2)	9.5	

第14表 縄文土器観察表13

押図 番号	実測 番号	調査 地点	層位	分類	器種	残存部位	器面調整 (内面/外面)	文様 (内面/外面/口縁端部)	色調 (内面/外面)	胎土	焼成	口径/ 底径 (cm)	残存高 (cm)	備考
326	115	C (推定)	貝層直下	Ⅲ	深鉢	胴部	条痕→ナデ/ナデ	—/沈線文/—	灰黄褐(10YR6/2)/褐灰(10YR5/1)	長石・砂粒	良好		5.8	
327	116	C (推定)	貝層直下	Ⅲ	深鉢	胴部	ケズリ→ナデ/ナデ	—/沈線文/—	褐灰(7.5YR4/1)/灰褐(7.5YR5/2)	長石・砂粒	良好		6.3	
328	107	C (推定)	貝層直下	Ⅲ	深鉢	胴部	ナデ/ナデ	—/沈線文/—	にぶい橙(7.5YR6/4)/にぶい褐(7.5YR5/3)	石英・長石・角閃石	良好	(23.8)	10.4	
329	117	C (推定)	貝層直下	Ⅲ	深鉢	胴部	条痕→ナデ/ナデ	沈線文/沈線文/—	灰黄褐(10YR6/2)/褐灰(10YR4/1)	砂粒・長石・角閃石	良好		6.0	
330	179	C (推定)	貝層直下	Ⅲ	深鉢	胴部	ナデ/ナデ	—/沈線文/—	橙(5YR6/6)/にぶい橙(5YR6/4)	長石・角閃石・石英・礫粒(5mm)	良好		6.5	
331	231	C (推定)	貝層直下	Ⅲ	深鉢	胴部下半	条痕→ナデ/ナデ	—/沈線文/—	にぶい赤褐(5YR3/3)/橙(5YR7/6)	長石・石英・角閃石	良好	(23.4)	7.0	
332	206	C (推定)	貝層直下	Ⅲ	深鉢	胴部	ケズリ→ナデ/ナデ	—/沈線文/—	にぶい赤褐(5YR5/4)/にぶい赤褐(5YR5/4)	滑石を多量に含む	良好		4.6	穿孔有(1箇所)
333	260	C (推定)	貝層直下	Ⅲ	深鉢	胴部	ケズリ→ナデ/ナデ	—/沈線文/—	にぶい黄橙(10YR6/3)/灰黄褐(10YR6/2)	長石・角閃石・砂粒	良好		5.4	
334	249	C (推定)	貝層直下	Ⅲ	深鉢	胴～底部	ケズリ→ナデ/ナデ	—/沈線文/—	浅黄橙(7.5YR8/3)/にぶい橙(7.5YR7/3)	長石・角閃石	良好	(17.4)	3.8	外器面に煤付着
335	221	C (推定)	貝層直下	Ⅲ	深鉢	胴部	ナデ/ナデ	—/沈線文/—	にぶい黄橙(10YR6/3)/灰黄褐(10YR5/2)	長石・角閃石(微細粒)	良好		6.9	
336	133	C (推定)	貝層直下	Ⅲ	深鉢	胴部下半	ナデ/ナデ	—/沈線文/—	灰褐(7.5YR6/2)/褐灰(7.5YR4/1)	長石・砂粒	良好		10.6	
337	261	C (推定)	貝層直下	Ⅲ	深鉢	胴部	ケズリ→ナデ/ナデ→沈線	—/沈線文/—	浅黄(2.5Y7/3)/浅黄(2.5Y7/3)	長石・砂粒・角閃石・滑石を僅かに含む	良好		6.3	
338	337	C (推定)	貝層直下	Ⅲ	深鉢	胴部	ナデ/ナデ→沈線	—/沈線文/—	灰黄褐(10YR6/2)/褐灰(10YR4/1)	粗砂～礫粒(1～3mm)・石英・角閃石	良好		4.9	
339	341	C (推定)	貝層直下	Ⅲ	深鉢	胴部	ナデ/ナデ→沈線	—/沈線文/—	にぶい黄橙(10YR7/3)/灰黄褐(10YR6/2)	粗砂粒(1mm)・長石・角閃石	良好		4.5	
340	263	C (推定)	貝層直下	Ⅲ	深鉢	胴～底部	ケズリ→ナデ, エビサエ/ナデ	—/沈線文/—	黄灰(2.5Y4/1)/にぶい黄橙(10YR7/3)	長石・砂粒(微細粒)	良好	(14.7)	5.6	外器面に煤付着
341	142	C (推定)	貝層直下	Ⅲ	深鉢	胴部下半	ナデ/ナデ	—/沈線文/—	明赤褐(5YR5/6)/褐灰(5YR4/1)	砂粒・角閃石	良好		7.6	
342	20	C (推定)	貝層直下	Ⅲ	深鉢	胴部	ナデ/ナデ	—/沈線文/—	灰褐(5YR4/2)/にぶい赤褐(5YR5/3)	長石・角閃石・粗砂粒(1mm)	良好		5.0	
343	25	C (推定)	貝層直下	Ⅲ	深鉢	胴部	ナデ/ナデ	—/沈線文, 刺突連点文/—	にぶい橙(7.5YR7/4)/にぶい褐(7.5YR6/3)	石英・長石・滑石を僅かに含む	良好		6.9	
344	243	不明		I b	深鉢	口縁～胴部	条痕, ナデ/ナデ	—/押型文/押型文	にぶい赤褐(5YR5/4)/にぶい褐(7.5YR5/3)	長石・砂粒・角閃石・滑石	良好	(39.8)	19.0	
345	102	不明		I b	深鉢	胴部	ナデ/ナデ	—/押型文/—	にぶい橙(7.5YR6/4)/にぶい橙(7.5YR7/4)	長石・角閃石・石英	良好		16.3	
346	6	不明		I b	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	—/押型文/押型文	浅黄橙(7.5YR8/4)/浅黄橙(7.5YR8/3)	角閃石・粗砂粒(2mm)	良好		5.5	
347	372	不明		Ⅲ b2	深鉢	口縁～胴部	条痕→ナデ/ナデ	沈線文/沈線文/刻目文	灰黄褐(10YR6/2)/明褐灰(7.5YR7/2)	角閃石	良好	(17.2)	16.3	第2貝層出土?
348	65	不明		V b	深鉢	口縁～頸部	ケズリ→ナデ/ナデ	—/沈線文/刻目文	にぶい橙(7.5YR7/4)/褐灰(10YR4/1)	砂粒・角閃石(微細粒)	良好		6.4	
349	190	不明		Ⅲ b5	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	—/沈線文/—	橙(5YR7/6)/にぶい褐(7.5YR6/3)	石英・長石・角閃石	良好		5.7	
350	191	不明		Ⅲ b4	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	沈線文/沈線文/刺突列点文	灰黄褐(10YR6/2)/褐灰(10YR4/1)	長石・雲母?(微細粒)	良好		3.5	

第15表 縄文土器観察表14

押図 番号	実測 番号	調査 地点	層 位	分類	器種	残存部位	器面調整 (内面/外面)	文 様 (内面/外面/口縁端部)	色 調 (内面/外面)	胎 土	焼成	口径/ 底径 (cm)	残存高 (cm)	備 考
351	375	不明	Ⅲ	b5	深鉢	口縁～底部	ナデ/ナデ	沈線文/沈線文/刻目文	にぶい橙(7.5YR6/4)/にぶい橙(7.5YR6/4)	角閃石	良好	(13.2)	13.2	第2貝層出土?
352	378	不明	Ⅲ	c5	深鉢	口縁～底部	ナデ/ナデ	沈線文/沈線文/—	にぶい黄橙(10YR7/2)/にぶい黄褐(10YR5/3)	角閃石	良好	12.6	12.1	第2貝層出土?
353	376	不明	Ⅲ	d2	深鉢	口縁～胴部	ナデ/ナデ	沈線文/沈線文/刻目文	にぶい赤褐(5YR4/4)/暗赤褐(5YR3/3)	角閃石	良好	(30.3)	17.9	第2貝層出土?
354	258	不明	Ⅲ	b5	深鉢	口縁部	ケズリ→ナデ/ナデ	—/沈線文/—	にぶい橙(7.5YR6/4)/灰褐(7.5Y5/2)	石英・長石・角閃石	良好		5.2	
355	194	不明	Ⅲ	b4	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	沈線文/沈線文/刺突列点文	褐灰(10YR5/1)/褐灰(10YR5/1)	角閃石(微細粒)	良好		3.8	
356	301	不明	Ⅲ	c4	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	沈線文/沈線文/—	にぶい橙(5YR7/4)/にぶい黄橙(10YR7/4)	石英・長石・角閃石・滑石	良好		3.2	
357	155	不明	Ⅲ		深鉢	口縁～胴部	ナデ/ナデ	沈線文/沈線文/—	にぶい黄橙(10YR7/4)/にぶい黄橙(10YR7/3)	角閃石・長石・砂粒・石英	良好		6.4	
358	151	不明	Ⅲ		深鉢	胴部	条痕→ナデ/ナデ	—/沈線文/—	にぶい黄橙(10YR7/3)/にぶい黄橙(10YR6/3)	石英・角閃石	良好		5.8	
359	173	不明	Ⅲ		深鉢	胴部	ナデ/ナデ	—/沈線文/—	にぶい橙(7.5YR6/4)/にぶい褐(7.5YR6/3)	石英・長石	良好		3.9	
360	379	不明	Ⅲ	c5	深鉢	口縁～底部	ナデ/ナデ	沈線文、刺突列点文/沈線文/刺突列点文	にぶい黄橙(10YR6/3)/灰黄褐(10YR5/2)	角閃石	良好	30.7	34.0	第2貝層出土?
361	380	不明	Ⅲ	d2	深鉢	口縁部～底部	条痕→ナデ/ナデ	沈線文/沈線文/刺突列点文	灰黄(2.5YR6/2)/灰黄褐(10YR5/2)	角閃石、長石、石英	良好	(36.6)	24.5	第2貝層出土?
362	184	不明	Ⅲ		深鉢	胴部	ナデ/ナデ	—/沈線文/—	にぶい赤褐(5YR5/3)/灰褐(5YR5/2)	石英・角閃石	良好		7.4	
363	199	不明	Ⅲ		深鉢	口縁～頸部	ナデ/ナデ	沈線文/押引文/—	灰黄褐(10YR6/2)/褐灰(10YR5/1)	長石・角閃石・砂粒	良好		4.0	
364	196	不明	Ⅲ?		深鉢	口縁部	ケズリ→ナデ/ナデ	—/沈線文/—	にぶい黄橙(10YR7/3)/灰黄褐(10YR6/2)	長石・角閃石	良好		3.4	
365	69	不明	Ⅳ	b	深鉢	口縁～頸部	条痕→ナデ,ミガキ/ケズリ→ナデ,ミガキ	—/沈線文/刻目文	赤褐(5YR4/6)/にぶい赤褐(5YR5/4)	長石・角閃石・雲母(微細粒)	良好		7.1	
366	149	不明	Ⅳ	a	深鉢	口縁部	ケズリ→ナデ/ナデ	—/刺突文/—	にぶい橙(5YR6/4)/にぶい赤褐(5YR5/3)	長石(微細粒)	良好		5.7	
367	262	不明	V	a	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	—/—/刻目文	灰黄(2.5Y6/2)/黄灰(2.5Y5/1)	角閃石・長石・石英	良好		5.9	
368	374	不明	V	a	深鉢	口縁～底部	ナデ/ミガキ	—/—/刻目文	灰黄褐(10YR6/2)/にぶい褐(7.5YR5/3)	角閃石	良好	(21.5)	23.2	
369	373	不明	Ⅵ		鉢	口縁～底部	ケズリ→ナデ/ケズリ→ナデ	—/—/—	灰褐(7.5YR6/2)/にぶい褐(7.5YR6/3)	角閃石	良好	(16.9)	10.6	
370	153	不明	Ⅵ		深鉢	口縁～頸部	ミガキ/ナデ	—/—/—	灰黄褐(10YR6/2)/褐灰(10YR5/1)	長石・角閃石・砂粒	良好	(27.0)	8.5	
371	67	不明	V	a	深鉢	口縁部	ナデ/ナデ	刻目文/—/刻目文, 刺突文	灰黄褐(10YR6/2)/灰黄褐(10YR6/2)	雲母・石英	良好		4.6	
372	370	不明	V		深鉢	口縁部	ナデ, ミガキ/ミガキ	—/縄文, 沈線文/—	にぶい褐(7.5YR5/3)/にぶい褐(7.5YR5/4)	長石・角閃石	良好		5.8	穿孔有(1箇所)
373	362	不明	V		深鉢	口縁部	ナデ/ナデ, ミガキ	—/縄文, 沈線文/—	にぶい黄橙(10YR7/3)/灰黄褐(10YR6/2)	長石・角閃石	良好		8.5	
374	42	不明	V	a	深鉢	胴部	ミガキ, ナデ/ミガキ	—/沈線文/—	灰褐(5YR4/2)/褐灰(7.5YR4/1)	長石・粗砂粒(1mm)	良好		7.4	外器面沈線内・器面一部に赤色顔料有

第16表 石器・石製品・貝製品観察表

挿図番号	実測番号	調査地点	層 位	器 種	材 質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備 考
375	20014-0003	A1-3	表土	石鏃	黒曜石	1.93	1.33	0.25	0.57	
376	20014-0001	A1-3	表土	石鏃	流紋岩	3.30	2.07	0.55	3.19	
377	20014-0002	A1-3	表土	石鏃	黒曜石	3.03	1.72	0.49	2.15	
378	20014-0004	A5	純貝層	石鏃	黒曜石	2.76	1.41	0.38	0.99	
379	20014-0011	A1-B2連結部	表土	削器	安山岩	6.80	5.20	1.42	38.15	
380	20014-0014	A2	茶褐色土層	磨製石斧	珪岩	9.07	5.20	2.28	144.09	
381	20014-0015	A2	茶褐色土層	磨製石斧	蛇紋岩	6.44	5.32	1.86	100.87	
382	20014-0016	A1-B1連結部	貝層	磨製石斧	玢岩?	9.27	5.73	3.16	229.00	
383	20014-0018	A5	混貝土層	磨製石斧	砂岩ホルンフェルス	13.44	6.48	2.92	375.00	
384	20014-0017	A2	茶褐色土層	磨製石斧	千枚岩	7.78	7.42	2.30	200.04	
385	20014-0021	A1-3	表土	円盤状石器	泥岩ホルンフェルス	3.27	3.12	0.74	12.73	
386	20014-0020	A1-3	表土	円盤状石器	安山岩	3.97	3.70	1.36	31.02	
387	20014-0019	A1-2	表土	石製垂飾	千枚岩	1.86	2.46	0.30	2.24	
388	20014-0023	A1-1	攪乱層	研磨痕のある石器	粘板岩	5.95	2.87	1.12	30.17	
389	20014-0022	A1-3	表土	棒状石器	玢岩?	7.43	1.62	1.43	22.50	
390	20014-0006	C	第2貝層	石匙	安山岩	4.24	2.84	0.56	8.49	
391	20014-0005	C	第2貝層	石匙	安山岩	6.68	3.44	1.10	11.94	
392	20014-0007	C	第2貝層	石匙	安山岩	4.78	4.78	0.88	15.07	
393	20014-0010	C	第2貝層	削器	粘板岩	5.05	3.84	1.09	16.12	
394	20014-0008	B3	貝層	削器	粘板岩	6.57	5.71	1.06	35.01	
395	20014-0009	B3	貝層下	削器	粘板岩	6.62	4.08	0.76	17.80	
396	20014-0013	B2	第2貝層	石錘	泥岩	8.00	6.78	1.60	106.96	
397	20014-0012	C	表土	石錘	砂岩	6.53	7.46	1.82	110.10	
398	20014-0024	C	第1貝層	貝輪	斧足類(フネガイ目フネガイ科)	4.44	6.26	0.70	7.19	

第7章 動物遺存体

第1節 出土した動物遺存体の概要

1959年発掘調査では、堆積土各層で数多くの貝類遺体や脊椎動物遺体が出土したが、定量的な貝層のブロックサンプリングや水洗選別は行われておらず、発掘時に任意的に取り上げられた現地採集資料である。以下では、採集された動物遺存体について、貝類遺体と脊椎動物遺体に分けて同定結果を示す。

第2節 貝類遺体

(1) 出土した貝類遺体

調査時に採集され、慶応大学資料として保管している貝類遺体の種類は以下のとおりである。

- ① 斧足類（二枚貝） サルボウ (*Scapharca kagoshimensis*, フネガイ目フネガイ科)
 ハイガイ (*Tegillarca granosa*, フネガイ目フネガイ科)
 アカガイ (*Scapharca broughtonii*, フネガイ目フネガイ科)
 マガキ (*Crassostrea giga*, カキ目イタボガキ科)
 イタボガキ (*Ostrea denselamellosa*, カキ目イタボガキ科)
 イワガキ (*Crassostrea nippona*, カキ目イタボガキ科)
 アサリ (*Ruditapes philippinarum*, マルスダレガイ目マルスダレガイ科)
 ハマグリ (*Metrix lusoria*, マルスダレガイ目マルスダレガイ科)
 オキシジミ (*Cyclina sinensis*, マルスダレガイ目マルスダレガイ科)
 カガミガイ (*Phacosoma japonicum*, マルスダレガイ目マルスダレガイ科)
 ヤマトシジミ (*Corbicula japonica*, マルスダレガイ目シジミ科)
 マシジミ (*Corbicula leana*, マルスダレガイ目シジミ科)
 シオフキ (*Mactra veneriformis*, マルスダレガイ目バカガイ科)
 アゲマキ (*Sinonovacula constricta*, マルスダレガイ目マテガイ科)
 マテガイ (*Solen strictus*, マルスダレガイ目マテガイ科)
 ウネナシトマヤガイ (*Trapezium liratum*, マルスダレガイ目フナガタガイ科)
 サギガイ (*Macoma sector*, マルスダレガイ目ニッコウガイ科)
 オオノガイ (*Mya arenaria oonogai*, オオノガイ目オオノガイ科)
- ② 腹足類（巻貝） スガイ (*Turbo cornatus coreensis*, 古腹足目サザエ科)
 ダンベイキサゴ (*Umbonium giganteum*, 古腹足目ニシキウズガイ科)
 イシダタミ (*Monodonta labio form confusa*, 古腹足目ニシキウズガイ科)
 アワビ (*Monodonta labio form confusa*, 古腹足目ニシキウズガイ科)
 ヘタナリ (*Cerithidea cingulata*, 盤足目フトヘタナリ科)
 フトヘタナリ (*Cerithidea rhizophorarum*, 盤足目フトヘタナリ科)
 ツメタガイ (*Glossaulax didyma*, 盤足目タマガイ科)
 ウミニナ (*Batillaria multiformis*, 盤足目ウミニナ科)

イボウミニナ (*Batillaria zonalis*, 盤足目ウミニナ科)
カワアイ (*Cerithidea djadjariensis*, 盤足目フトヘタナリ科)
イボニシ (*Thais clavigera*, 新腹足目アッキガイ科)
バイ (*Babylonia japonica*, 新腹足目エゾバイ科)
アカニシ (*Rapana venosa*, 新腹足目アッキガイ科)
トヨツガイ (*Coralliophila radula*, 新腹足目アッキガイ科)
テングニシ (*Hemifusus tuba*, 新腹足目テングニシ科)
ツクシマイマイ (*Euhadra herklotsi*, 有肺目オナジマイマイ科)

(2) 貝層出土の貝類遺体について

1959年11月3日付け江坂輝彌氏による調査日誌には、採取状況は不明であるが、Aトレンチ第7区純貝層及びCトレンチ第2貝層採取の貝類遺体数に関する記述がある。

前者(計949点)は、マガキ(670点, 約70.6%)が最も多く、オキシジミ(68点, 約7.2%), アサリ(同), スガイ(66点, 約7.0%), ハイガイ(29点, 約3.1%), イボウミニナ(13点, 約1.4%)の順に多い。その他では、イワガキ, ヘナタリ, ヤマトシジミなどがあるが、その割合は1%以下である。

また、後者(計479点)も同様に、マガキ(296点, 約61.8%)が最も多く、ハイガイ(51点, 約10.6%), カガミガイ(48点, 約10.0%), ハマグリ(19点, 約4.0%), マテガイ(15点, 約3.1%), スガイ(14点, 約2.9%), イワガキ(7点, 約1.5%), オキシジミ(5点, 約1.0%), オオノガイ(同), イボウミニナ(同)の順に多い。その他、イタボガキやサルボウ, マシジミ, ツメタガイなどが1~2点採取されているが、その割合は1%以下である。

第3節 脊椎動物遺体

(1) 出土した脊椎動物遺体の概要

同定作業を実施した資料50点の脊椎動物遺体は、魚類(硬骨魚綱)及び哺乳類である。実際に同定を行ったのは採集資料の一部であるが、第1貝層や第2貝層などの貝層出土資料を優先的に選定し、同定作業を実施した。

(2) 脊椎動物遺体の種類と特徴について

- ① 魚類(硬骨魚綱) クロダイ属(*Acanthopagrus*)
 スズキ(*Lateolabrax japonicus*)
- ② 哺乳類 クジラ類(*Cetacea*)
 ムササビ(*Lateolabrax*)
 ウマ(*Equus caballus*) ?
 イノシシ(*Sus scrofa*)
 ニホンジカ(*Cervus nippon*)
 ウシ(*Bos taurus*)

クロダイ属, スズキは汽水域にも進入する内湾(島原湾)を代表する魚種である。クジラ類は、内湾

第17表 曾畑貝塚出土脊椎動物遺体一覧表

No.	遺物 No.	調査区	層 位	大分類	小分類	部 位	左右	備 考
1	31	BT1	第2貝層	硬骨魚綱	クロダイ属	前上顎骨	左	
2	47	A1区3～4連絡	貝層	硬骨魚綱	クロダイ属	歯骨	左	
3	36	BT1	第1貝層30～40	硬骨魚綱	スズキ	歯骨	右	
4	39	A1区5	貝層最下部	硬骨魚綱	スズキ?	椎骨	—	腹椎
5	32	BT1	第2貝層	硬骨魚綱	不明	鰭棘	—	棘条部
6	48	A1区3～4連絡	貝層	硬骨魚綱	不明	鰭棘	—	担鰭骨
7	49	A1区3～4連絡	貝層	硬骨魚綱	不明	鰭棘	—	棘条部
8	50	A1区3～4連絡	貝層	硬骨魚綱	不明	鰭棘	—	棘条部
9	12	CT	第1貝層	哺乳類	クジラ類	椎骨	—	椎体板未癒合破片
10	13	CT	第1貝層	哺乳類	クジラ類	椎骨	—	椎体板未癒合破片
11	14	CT	第1貝層	哺乳類	クジラ類	椎骨	—	椎体板未癒合破片
12	15	CT	第1貝層	哺乳類	クジラ類	椎骨	—	椎体板未癒合破片
13	42	A6	V～VII	哺乳類	ムササビ	大腿骨	右	
14	43	A6	V～VII	哺乳類	ウマ?	大腿骨	右	
15	5	CT	第1貝層	哺乳類?	不明	不明	—	
16	7	CT	第1貝層	哺乳類?	不明	不明	—	
17	6	CT	第1貝層	哺乳類	イノシシ/シカ?	椎骨	—	胸椎?
18	46	A1区3～4連絡	貝層	哺乳類	イノシシ/シカ	椎骨	—	腰椎
19	25	CT	貝層最下部	哺乳類	イノシシ	下顎骨	左右	結合部、左第二前臼歯萌出中
20	19	CT	貝層最下部	哺乳類	イノシシ	肩甲骨	右	近位部イヌなどの咬痕
21	27	BT2	貝層第2層	哺乳類	イノシシ	肩甲骨	左	近位部カットマーク?
22	29	BT2	貝層第2層	哺乳類	イノシシ	肩甲骨	右	
23	45	A1区4	貝層40～50	哺乳類	イノシシ	肩甲骨	右	遠位前縁に叩切痕
24	18	CT	貝層最下部	哺乳類	イノシシ	上腕骨	右	遠位端滑車部に傷
25	4	CT	第1貝層	哺乳類	イノシシ?	肋骨	左	
26	26	BT2	貝層第2層	哺乳類	イノシシ	橈骨	左	
27	3	CT	第1貝層	哺乳類	イノシシ	指骨	—	腹側に穴、刺突?
28	33	BT1	礫層	哺乳類	イノシシ	大腿骨	左	遠位部後位にカットマーク多数
29	30	BT2	貝層第2層	哺乳類	イノシシ	距骨	右	
30	24	CT	貝層最下部	哺乳類	イノシシ	足根骨	右	
31	21	CT	貝層最下部	哺乳類	イノシシ	遊離歯	右	下顎第一切歯(咬耗あまり進行せず)
32	22	CT	貝層最下部	哺乳類	イノシシ	遊離歯	左	下顎第一切歯(咬耗あまり進行せず)
33	28	BT2	貝層第2層	哺乳類	イノシシ	遊離歯	左	下顎犬歯
34	8	CT	第1貝層	哺乳類	イノシシ	椎骨	—	胸椎、椎体板未癒合
35	9	CT	第1貝層	哺乳類	シカ	椎骨	—	胸椎、椎体板未癒合
36	2	CT	第1貝層	哺乳類	シカ	肋骨	左	近位内側にカットマーク多数
37	11	CT	第1貝層	哺乳類	シカ	肋骨	右	
38	44	A1区4	貝層40～50	哺乳類	シカ	上腕骨	右	被熱
39	20	CT	貝層最下部	哺乳類	シカ	橈骨	左	骨幹部で螺旋状剥離の痕跡
40	23	CT	貝層最下部	哺乳類	シカ	尺骨	左	
41	40	A5	純貝層	哺乳類	シカ	踵骨	右	
42	38	A1区5	貝層50～60	哺乳類	シカ	遊離骨	右	下顎第一/二後臼歯
43	17	CT	第1貝層	哺乳類	ウシ	椎骨	—	頸椎
44	10	CT	第1貝層	哺乳類	ウシ?	椎骨	—	尾椎
45	41	A1区3	30～40	哺乳類	ウシ	肋骨	右	
46	16	CT	第1貝層	哺乳類	ウシ	上腕骨	右	
47	1	CT	第1貝層	哺乳類	ウシ	手根骨	左	
48	35	BT1	第1貝層30～40	哺乳類	ウシ	中節骨/中足骨	—	
49	34	BT1	第1貝層30～40	哺乳類	ウシ	中節骨	—	
50	37	BT1	第1貝層30～40	哺乳類	ウシ	遊離骨	—	上顎第二前臼歯

に回遊して来たクジラ類の猟が行われたか、座礁したクジラ類が分配されたと考えられる。

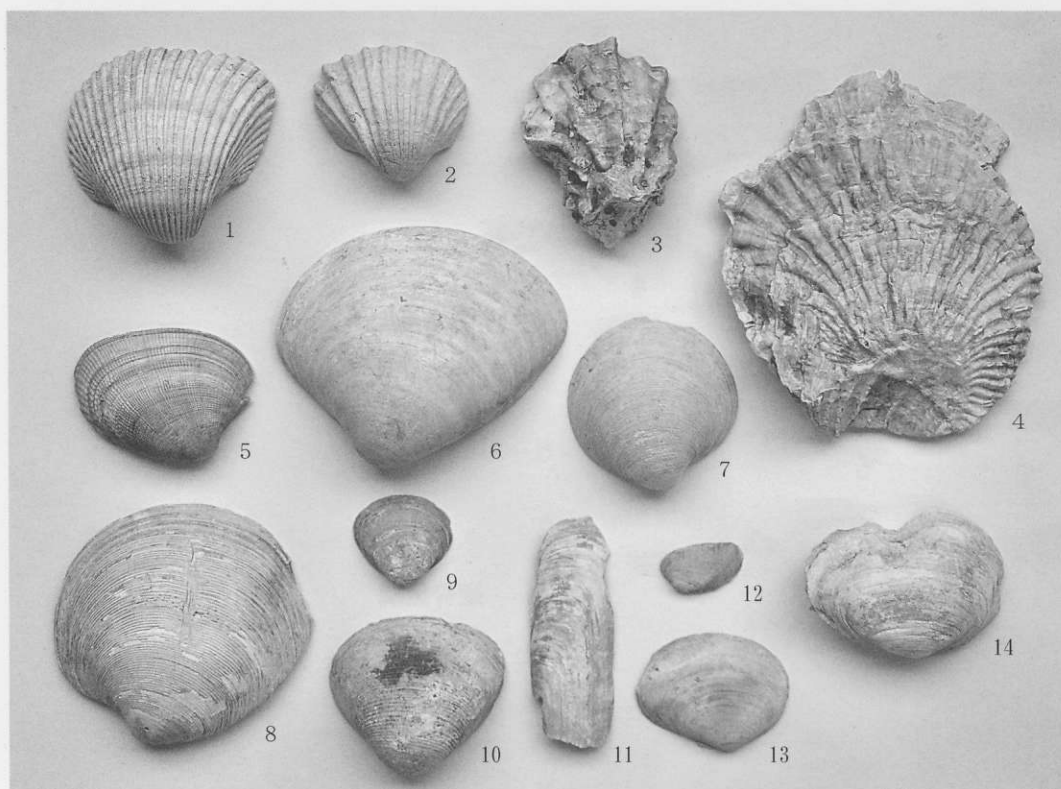
イノシシとニホンジカでは遊離歯を除いて、破片数、最少個体数ともにイノシシの方が多く出土している。イノシシ、ニホンジカの両方とも頭部、中軸骨、四肢骨が出土していることから、解体は遺跡周辺において行われたと考えられる。また、火を受けている骨があり、その場で調理した事も考えられる。

一方、ウマとウシは、日本における普及がウマは4世紀末から5世紀にかけて、ウシは5世紀後半から6世紀にかけてと考えられている。今回調査を行った動物遺体が出土した曽畑貝塚は、近隣に所在する轟貝塚とともに縄文時代の貝塚であることから、ウマ、ウシについては後世の混入と考えられる。

なお、古墳時代の遺物も周辺から出土していることから、ウマ、ウシについては当該期に属する可能性がある。

引用・参考文献

- 松井 章編 2006『動物考古学の手引き』2001-2005年度 奈良文化財研究所埋蔵文化財センター
 松井 章 2008『動物考古学 *Fundamentals of Zooarchaeology in Japan*』京都大学学術出版会



- | | | | | |
|---------|--------------|---------|----------|---------|
| 1 サルボウ | 2 ハイガイ | 3 マガキ | 4 イタボガキ | 5 アサリ |
| 6 ハマグリ | 7 オキシジミ | 8 カガミガイ | 9 ヤマトシジミ | 10 シオフキ |
| 11 アゲマキ | 12 ウネナシトマヤガイ | 13 サギガイ | 14 オオノガイ | |

斧足類 (二枚貝)



- | | | | | |
|--------|-----------|-----------|---------|----------|
| 1 スガイ | 2 ダンベイキサゴ | 3 フトヘタナリ | 4 ツメタガイ | 5 イボウミニナ |
| 6 イボニシ | 7 パイ | 8 ツクシマイマイ | 9 アカニシ | |

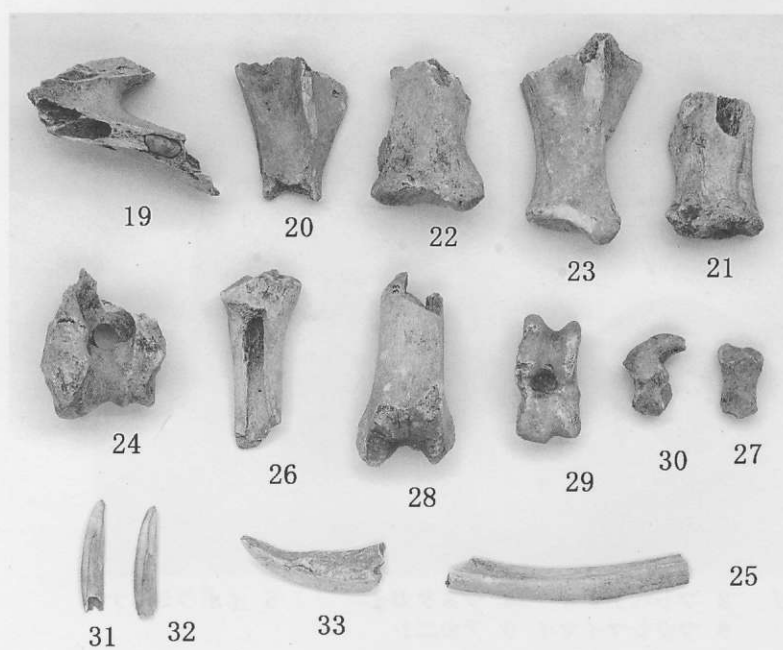
腹足類 (巻貝)



硬骨魚綱



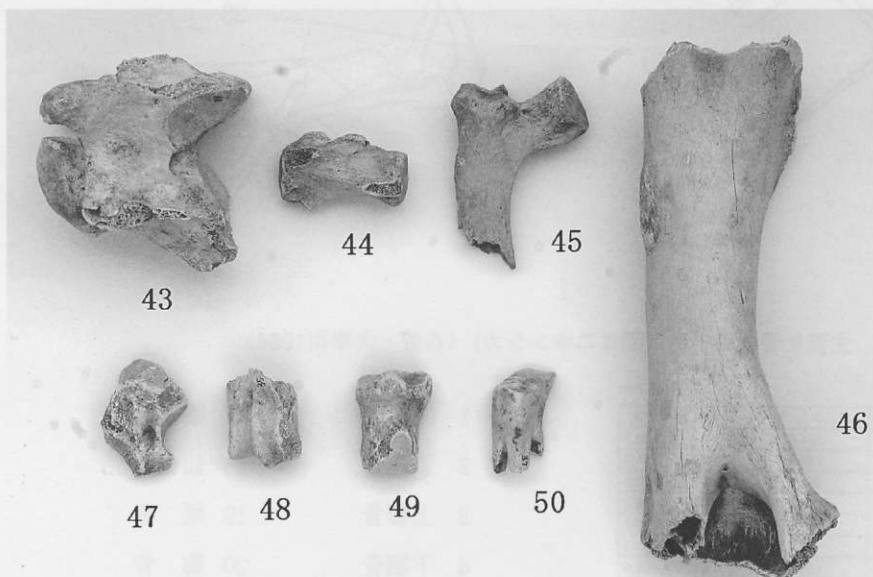
哺乳類 1



哺乳類 2



哺乳類 3



哺乳類 4

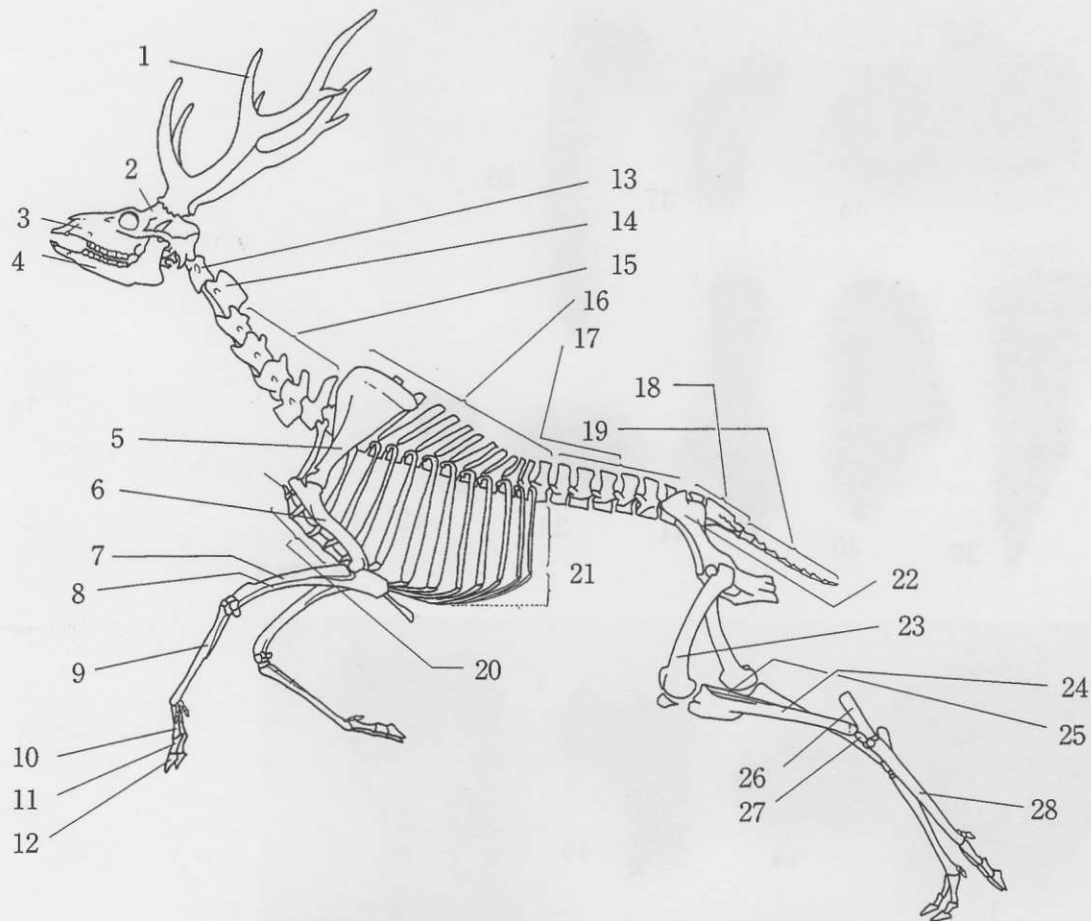


図1 主要な骨格の名称 (図はニホンジカ) (八谷・大泰司1994)

動物種別計測値一覧

単位: mm

名称	計測部位	ニホンジカ	イノシシ	ツキノワグマ	カモシカ
頭蓋骨	頭蓋全長 (GL)	290.3	294.9	257.1	209.7
	頭蓋最大幅 (ZB)	132.7	136.2	170.8	91.3
	下顎骨全長 (Id-Goc)	186.0	241.7	179.2	166.3
下顎骨	下顎枝高 (Cr-Gov)	101.0	106.7	86.9	86.1
	最大長 (HS)	161.5	191.5	132.7	160.8
肩甲骨	遠位端最大幅 (GLP)	39.5	33.9	39.1	35.1
	最大長 (GL)	180.6	196.0	204.5	196.4
上腕骨	近位端最大幅 (Bp)	46.3	50.0	40.0	43.2
	遠位端最大幅 (Bd)	38.5	41.7	55.6	39.4
	滑車幅 (BT)	37.4	29.9	37.1	37.0
	最大長 (GL)	187.0	142.3	179.3	182.2
橈骨	近位端最大幅 (Bp)	35.7	27.6	23.7	37.1
	遠位端最大幅 (Bd)	32.4	32.0	32.0	33.6
	最大長 (GL)	229.6	198.1	209.4	226.4
尺骨	幅 (DPA)	32.6	36.1	26.9	27.5
	最大長 (GL)	186.8	64.1 (63.3)	—	136.6
中手骨	近位端最大幅 (Bp)	25.1	20.2 (15.0)	—	30.6
	遠位端最大幅 (Bd)	27.4	16.4 (15.3)	—	35.2
	寛骨長 (GL)	217.8	221.7	182.1	216.4
寛骨	寛骨臼最大幅 (LA)	32.4	31.8	31.4	31.6
	最大長 (GL)	223.6	209.9	215.1	219.1
大腿骨	近位端最大幅 (Bp)	55.0	52.7	53.4	47.3
	遠位端最大幅 (Bd)	49.9	45.5	44.9	45.1
	最大長 (GL)	265.3	188.7	178.4	254.8
脛骨	近位端最大幅 (Bp)	50.4	48.3	46.4	49.1
	遠位端最大幅 (Bd)	33.7	27.6	34.4	34.1
	最大長 (GL)	—	174.7	158.7	—
腓骨	最大長 (GL)	214.8	69.6 (76.3)	—	146.8
	近位端最大幅 (Bp)	24.2	14.8 (13.5)	—	25.5
	遠位端最大幅 (Bd)	26.7	15.3 (15.9)	—	32.9
距骨	外側最大幅 (GLI)	35.8	40.2	26.3	36.6
	内側最大幅 (GLm)	34.4	35.3	—	34.7
	遠位端最大幅 (Bd)	23.4	23.8	—	19.4
踵骨	最大長 (GL)	80.8	75.4	45.9	65.6
	最大幅 (GB)	25.4	22.6	31.3	24.1

- 1 (枝)角
- 2 頭蓋骨
- 3 上顎骨
- 4 下顎骨
- 5 肩甲骨
- 6 上腕骨
- 7 橈骨
- 8 尺骨
- 9 中手骨
- 10 基節骨
- 11 中節骨
- 12 末節骨
- 13 環椎
- 14 軸椎
- 15 頸椎
- 16 胸椎
- 17 腰椎
- 18 仙椎
- 19 尾椎
- 20 肋骨
- 21 肋骨
- 22 寛骨
- 23 大腿骨
- 24 脛骨
- 25 腓骨
- 26 踵骨
- 27 距骨
- 28 中足骨

第71図 大型哺乳類骨格名称 (松井編2006より転載)

WEAR INDEX	M ₁	M ₂	M ₃
7			
6			
5			
4			
3			
2			
1			
0			

図2 ニホンジカ各後臼歯摩滅指数
右下顎咬合面（摩滅面）黒矢印は分断を、白矢印は連続していることを示す。（大泰司1980）

T.W.S	m ₄	P ₄	M ₁ &M ₂	M ₃
a				
b				
c				
d				
e				
f				
g				
h				
j				
k				
l				
m				
n				

図3 イノシシ下顎歯摩滅指数（Bull and Payne 1982）

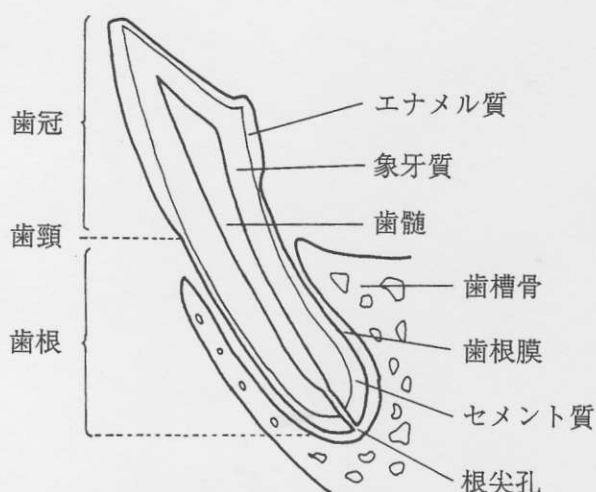


図4 歯の部分名称（図はニホンジカ）
（八谷・大泰司1994）

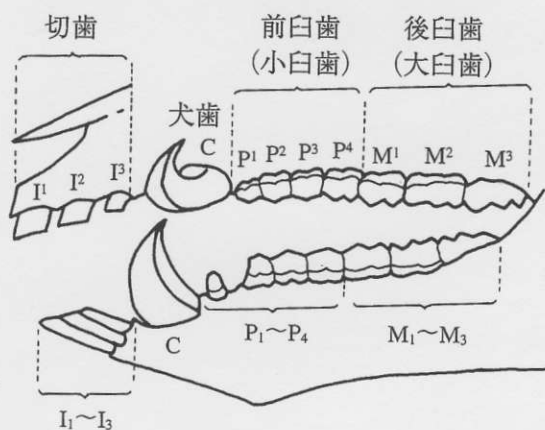


図5 歯の名称と略号（図はイノシシ）
（原図 八谷・大泰司1994）

第8章 自然科学分析

第1節 放射性炭素年代測定の概要

曾畑貝塚の貝層埋積年代などを明らかにするため、調査段階で採取され、保管されていた貝層出土炭化物3点を対象に、加速器質量分析法（AMS法）にて炭素年代測定を実施した。分析試料は以下とおりである。

- ・試料A…炭化物（採取地点：Aトレンチ7区純貝層、重量約10g）
- ・試料B… “ （ “ ” ）
- ・試料C… “ （採取地点：Aトレンチ7区純貝層、重量約3g）

放射性炭素年代は、試料中の放射性炭素濃度と半減期から単純に算出された年代である。また、放射性炭素 $\delta^{13}\text{C}$ 補正年代は、放射性炭素年代を $\delta^{13}\text{C}$ 値により補正して算出された年代である。暦年代に較正にはこれを利用し、年代値は years before present (0 YBP = 1950 A.D.) で表示する。半減期として、国際的に慣例となっている5568年を適用し、年代値の誤差は $\pm 1\sigma$ 表示（68%確率）である。標準試料として NIST シュウ酸を使用し、 $\delta^{13}\text{C}$ 値は国際標準試料 PDB の同位体比 ($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$) からの千分偏差 (‰) で表した。

第2節 測定結果（第18表）

測定結果は第18表のとおりである。試料A：3610 $\pm$ 30YBP、試料B：3570 $\pm$ 30YBP、試料C：3550 $\pm$ 30YBP と、3つの試料とも3550 $\pm$ 30～3610 $\pm$ 30YBP の範囲内にあり、比較的近い値が得られた。

調査の結果、Aトレンチ6区から7区の純貝層からは、鐘崎式土器や市来式土器などの縄文後期中葉に位置づけられる縄文土器が出土している。これまで各地で報告されているこれらの土器型式の炭素年代測定結果（前迫2008、水ノ江2008）とも、おおむね合致する結果が得られたといえよう。

第18表 放射性炭素年代測定結果

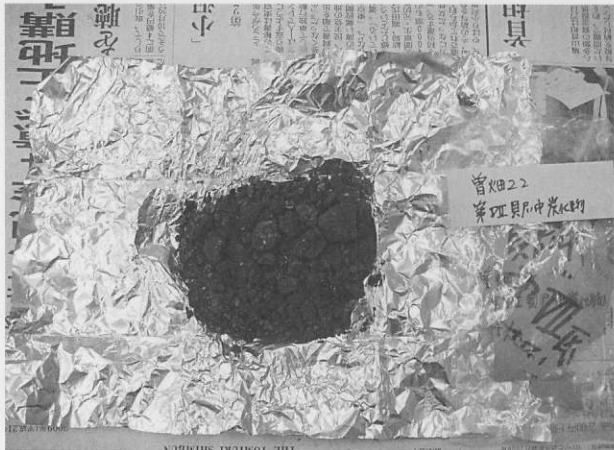
測定項目	単位	測定結果		
		試料A (試料番号 09R0912)	試料B (試料番号 09R0913)	試料C (試料番号 09R0914)
放射性炭素 $\delta^{13}\text{C}$ 補正年代	YBP	3610 $\pm$ 30	3570 $\pm$ 30	3550 $\pm$ 30
$\delta^{13}\text{C}$ 値	‰	-27.5	-27.5	-26.0

参考文献

- 前迫 亮一 2008「市来式土器」『総覧 縄文土器』小林達雄先生古稀記念企画 『総覧 縄文土器』刊行委員会
 水ノ江和同 2008「九州磨消縄文系土器」『総覧 縄文土器』小林達雄先生古稀記念企画 『総覧 縄文土器』刊行委員会



試料A



試料B



試料C

放射性炭素年代測定分析試料

第9章 総 括

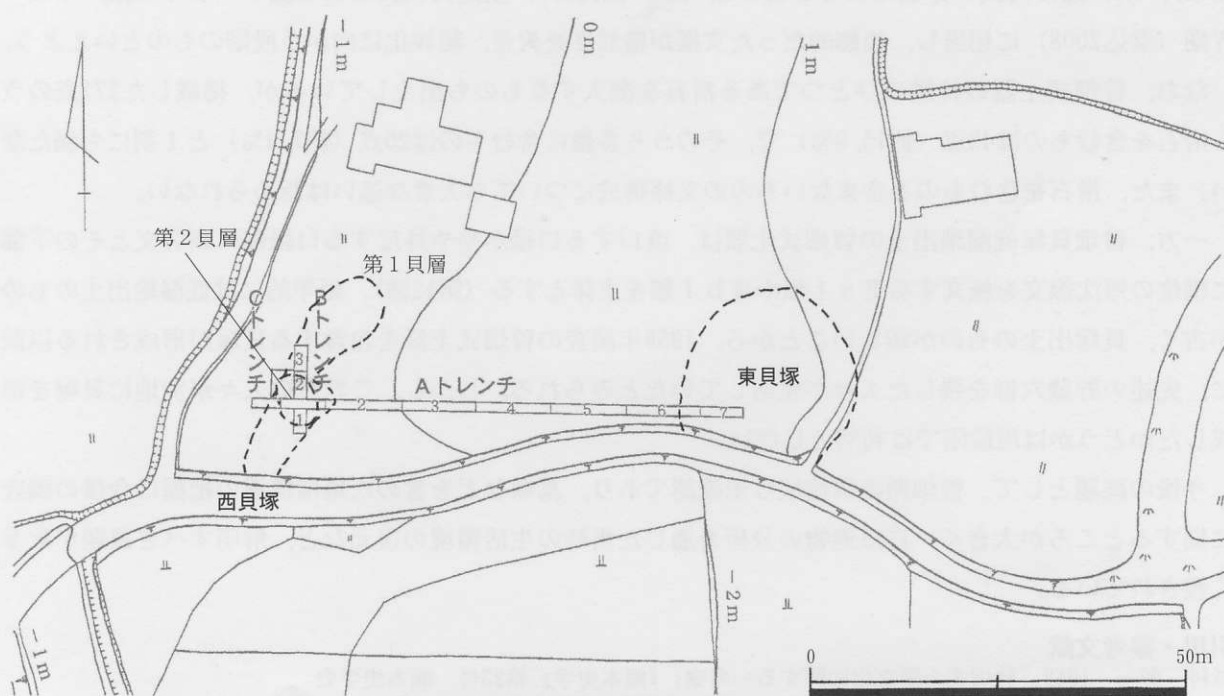
第1節 曾畑貝塚の形成過程について

1959年実施の江坂輝彌氏を中心とする発掘調査の結果、調査区西側と東側で貝層が検出され、前者は西貝塚、後者は東貝塚として区別され、西貝塚では形成時期が異なる2層の貝層（第1貝層及び第2貝層）が検出された。

西貝塚下層の貝層（第2貝層）については、江坂輝彌氏より貝類遺体の採取が行われ、マガキが約70.6%と高い割合で出土し、続いてオキシジミ（約7.2%）、アサリ（同）、スガイ（約7.0%）、ハイガイ（約3.1%）の順に多く、その他にはイボウミニナ、イワガキ、ヘタナリ、ヤマトシジミなどが確認された。また、脊椎動物遺体として、クロダイ属やイノシシなどの動物遺体が出土した。本層からは曾畑式土器がまとまって出土していることから、縄文時代前期に形成された貝層と判断され、その広がりには直径10m程度と推定される。

上層の貝層（第1貝層）では、ハイガイやマガキを主体としており、クジラ類やイノシシ、シカなどの脊椎動物遺体が出土した。本層からは鐘崎式土器などの縄文後期の磨消縄文系土器が出土していることから、後期に形成された貝層とみられ、その広がりには南北約25m、東西約8mとみられる。

一方、直径20m程度と推定される東貝塚の純貝層でも、江坂輝彌氏により貝類遺体の採取が行われ、西貝塚第2貝層と同様にマガキが約61.8%と最も高く、ハイガイ（約10.6%）、カガミガイ（約10.0%）、ハマグリ（約4.0%）、マテガイ（約3.1%）の順に多く、その他はスガイ、イワガキ、オキシジミ、オオノガイなどが確認された。本層からは鐘崎式土器や市来式土器などの縄文時代後期の土器が出土しており、本層から出土した炭化物3点の炭素年代測定では、 $3550 \pm 30 \sim 3610 \pm 30$ YBP という比較的近い値が得られており、出土した縄文土器の年代的位置付けとも合致する結果が得られたといえよう。



第73図 曾畑貝塚検出貝層の推定範囲 (1/1,000)

なお、西貝塚下層貝層（第2貝層）や東貝塚純貝層の下層には、縄文時代前期に堆積したとみられる（茶）褐色土層が堆積している。当該土層からは、押型文土器や轟式土器のほか、曾畑式土器が出土している。これらの曾畑式土器は、曾畑期に形成されたとみられる西貝塚下層貝層出土の曾畑式土器とは文様構成に大きな違いは認められない。

第2節 曾畑貝塚の出土遺物について－曾畑式土器を中心に－

発掘調査では、縄文時代早期から後期にかけての土器や石器・石製品、貝製品などが出土した。出土遺物の中心は縄文土器であり、押型文土器（Ⅰ類）、轟式土器（Ⅱ類）、曾畑式土器（Ⅲ類）、市来式土器（Ⅳ類）、鐘崎式土器（Ⅴa類）、北久根山式土器（Ⅴb類）などが出土したが、曾畑式土器の出土量はその他の型式の縄文土器にくらべて突出している。

曾畑式土器の口縁部形態が判明するもの（計132点）のうち、口縁部がゆるやかに外反するⅢc類が67点（約50.8%）と多数を占め、強く外反するⅢd類（22点、約16.7%）を含めると6割以上を占める。

文様については、Ⅲc 2類やⅢd 2類など口縁部外面に横位の平行沈線文のみを施すもの、Ⅲc 4類やⅢd 4類など横位の平行沈線文に加えて山形三角文などを組み合わせて文様帯を組み合わせるものが多く、前者では60点（約45.5%）、後者は48点（約36.4%）と多数を占め、刺突文を施すものは3点（約2.3%）とごく少数である。胴部の文様帯は、横位や縦位、斜位の平行沈線文を組み合わせた文様、縦位の沈線とX字文の内部を平行沈線文で充填するもの、綾杉沈線文や縦位の曲線文を施すものなどがあり、底部は平行沈線文を施すものが多い。また、口縁部、胴部、底部を区別するはっきりとした区画線を施文するものはみられない。

このように、口縁部文様帯に刺突文を欠いて口縁部が外反するものが多く、文様帯にくずれがみられるなどの特徴があり、これらを総合的に勘案すれば、杉村彰一氏の分類（第1～3類）の第2類（杉村1962）、水ノ江和同氏の分類によるⅡ式b類（水ノ江1987）、堂込秀人氏による編年（Ⅰ～Ⅵ期）のⅢ～Ⅳ期（堂込2008）に相当し、装飾的だった文様が整然さを欠き、粗雑化に向かう段階のものといえよう。

なお、曾畑式土器の特徴のひとつである滑石を混入するものも出土しているが、掲載した271点のうち滑石を含むものは43点（約15.9%）で、そのうち多量に含むものは20点（約7.4%）と1割にも満たない。また、滑石を含むものと含まないものの文様構成についても大きな違いは認められない。

一方、曾畑貝塚低湿地出土の曾畑式土器は、直口する口縁かやや外反する口縁部に刺突文とその下部に横位の短沈線文を施文するⅢa 1類やⅢb 1類を主体とする（第12図）。編年的には低湿地出土のものが古く、貝塚出土のものが新しいことから、1959年調査の曾畑式土器を包含する貝塚が形成される以前に、先述の貯蔵穴群を残した人々が生活していたとみられる。しかし、これらの人々が別地に貝塚を形成したかどうかは現段階では判然としない。

今後の課題として、曾畑期の居住域は未確認であり、墓域などを含めた集落構造の把握は今後の調査に期するところが大きく、自然遺物の分析を通じた当時の生活環境の復元など、解明すべき課題が数多く残されている。

引用・参考文献

- 杉村 彰一 1962「曾畑式土器文化に関する一考察」『熊本史学』第23号 熊本史学会
 水ノ江和同 1987「西北九州における曾畑式土器の諸様相」『考古学と地域文化』同志社大学考古学研究室
 堂込 秀人 2008「曾畑式土器」『総覧 縄文土器』小林達雄先生古稀記念企画『総覧 縄文土器』刊行委員会